




# OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイドバージョン 2.0



# メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

© 2013 Dell Inc.

本書に使用されている商標 : Dell™、Dell のロゴ、Dell Boomi™、Dell Precision™、OptiPlex™、Latitude™、PowerEdge™、PowerVault™、PowerConnect™、OpenManage™、EqualLogic™、Compellent™、KACE™、FlexAddress™、Force10™ および Vostro™ は Dell Inc. の商標です。Intel®、Pentium®、Xeon®、Core® および Celeron® は米国およびその他の国における Intel Corporation の登録商標です。AMD® は Advanced Micro Devices, Inc. の登録商標、AMD Opteron™、AMD Phenom™ および AMD Sempron™ は同社の商標です。Microsoft®、Windows®、Windows Server®、Internet Explorer®、MS-DOS®、Windows Vista® および Active Directory® は米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Red Hat® および Red Hat® Enterprise Linux® は米国および/またはその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。Novell® および SUSE® は米国およびその他の国における Novell, Inc. の登録商標です。Oracle® は Oracle Corporation またはその関連会社、もしくはその両者の登録商標です。Citrix®、Xen®、XenServer® および XenMotion® は米国および/またはその他の国における Citrix Systems, Inc. の登録商標または商標です。VMware®、vMotion®、vCenter®、vCenter SRM™ および vSphere® は米国またはその他の国における VMware, Inc. の登録商標または商標です。IBM® は International Business Machines Corporation の登録商標です。

2010 -13

Rev. A00

# 目次

<b>1 はじめに</b> .....	<b>11</b>
OpenManage Integration for VMware vCenter 機能.....	11
<b>2 OpenManage Integration for VMware vCenter の設定または編集方法の理解</b> .....	<b>13</b>
設定ウィザードようこそページ.....	13
vCenter の選択.....	13
初期設定ウィザードを使用した新規接続プロファイルの作成.....	14
インベントリジョブのスケジュールウィザード.....	16
保証取得ジョブウィザードの実行.....	16
イベントおよびアラームの設定ウィザード.....	16
<b>3 VMware vCenter ウェブクライアントの移動について</b> .....	<b>19</b>
VMware vCenter 内の OpenManage Integration for VMware vCenter への移動.....	19
アイコンボタンの理解.....	19
ソフトウェアバージョンの特定.....	20
画面コンテンツの更新.....	20
OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンスタブの表示.....	20
オンラインヘルプを開く.....	21
ヘルプおよびサポートの検索.....	21
<b>4 接続プロファイル</b> .....	<b>23</b>
接続プロファイルの表示.....	23
新しい接続プロファイルの作成.....	23
接続プロファイルの編集.....	25
接続プロファイルの更新.....	26
接続プロファイルの削除.....	27
接続プロファイルのテスト.....	27
<b>5 インベントリ履歴</b> .....	<b>29</b>
インベントリ履歴の表示.....	29
インベントリジョブスケジュールの変更.....	30
インベントリジョブを今すぐ実行する.....	30
<b>6 保証履歴</b> .....	<b>31</b>
保証履歴の表示.....	31
保証ジョブスケジュールの変更.....	32
保証ジョブを今すぐ実行する.....	32

<b>7 コンソール管理</b> .....	<b>33</b>
管理コンソールの使用.....	33
vCenter サーバーの登録.....	33
vCenter 管理者ログインの変更.....	34
登録された vCenter サーバーの SSL 証明書のアップデート.....	34
VMware vCenter からの OpenManage Integration for VMware vCenter のアンインストール.....	34
OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンスを管理コンソールにアップロードする.....	34
仮想アプライアンス管理.....	35
仮想アプライアンスの再スタート.....	35
リポジトリの場所と仮想アプライアンスのアップデート.....	35
仮想アプライアンスソフトウェアバージョンのアップデート.....	36
トラブルシューティングバンドルのダウンロード.....	36
HTTP プロキシの設定.....	36
NTP サーバーの設定.....	37
証明書署名要求の生成.....	37
グローバルアラートの設定.....	38
バックアップおよび復元の管理.....	38
バックアップおよび復元の設定.....	38
自動バックアップのスケジュール.....	39
即時のバックアップの実行.....	39
バックアップからのデータベースの復元.....	40
vSphere Client コンソールについて .....	40
ネットワークの設定.....	40
仮想アプライアンスパスワードの変更.....	41
ローカルタイムゾーンの設定.....	41
仮想アプライアンスの再起動.....	41
仮想アプライアンスの工場出荷時設定へのリセット.....	42
コンソールビューの更新.....	42
読み取り専用ユーザー役割.....	42
1.6/1.7 から 2.0 に移行するための移行パス.....	42
<b>8 ログについて</b> .....	<b>45</b>
ログの表示.....	45
ログファイルのエクスポート.....	46
<b>9 設定</b> .....	<b>47</b>
OMSA リンクの編集.....	47
11 世代サーバーとの OMSA 使用の理解.....	47
OMSA エージェントの ESXi システムへの展開.....	48
OMSA エージェントの ESX システムへの展開.....	48
OMSA トラップ先の設定.....	48

<b>10 保証期限通知の設定の表示</b> .....	<b>51</b>
保証期限通知の設定.....	51
<b>11 ファームウェアアップデートについて</b> .....	<b>53</b>
ファームウェア更新リポジトリの設定.....	54
単一ホストのためのファームウェアのアップデートウィザードの実行.....	54
クラスタのためのファームウェアのアップデートウィザードの実行.....	55
<b>12 イベントとアラームの理解</b> .....	<b>59</b>
イベントおよびアラームの設定 .....	60
イベントの表示.....	61
アラームおよびイベントの設定の表示.....	61
インベントリおよび保証のデータ取得スケジュールの表示.....	61
<b>13 単一ホストの監視</b> .....	<b>63</b>
ホストサマリ詳細の表示.....	63
管理コンソールの起動.....	65
Remote Access Console (iDRAC) の起動.....	66
物理サーバーインジケータライトの点滅の設定.....	66
<b>14 ソフトウェアライセンスの購入およびアップロード</b> .....	<b>67</b>
OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンスについて.....	67
<b>15 ハードウェアの表示: 単一ホストの FRU 詳細</b> .....	<b>69</b>
<b>16 ハードウェアの表示: 単一ホストのプロセッサ詳細</b> .....	<b>71</b>
<b>17 ハードウェアの表示: 単一ホストの電源装置詳細</b> .....	<b>73</b>
<b>18 ハードウェアの表示: 単一ホストのメモリ詳細</b> .....	<b>75</b>
<b>19 ハードウェアの表示: 単一ホストの NIC 詳細</b> .....	<b>77</b>
<b>20 ハードウェアの表示: 単一ホストの PCI スロット</b> .....	<b>79</b>
<b>21 ハードウェアの表示: 単一ホストのリモートアクセスカード詳細</b> .....	<b>81</b>
<b>22 単一ホストのストレージ詳細の表示</b> .....	<b>83</b>
ストレージの表示: 単一ホストの仮想ディスク詳細.....	83
ストレージの表示: 単一ホストの物理ディスク詳細.....	84
ストレージの表示: 単一ホストのコントローラ詳細.....	85
ストレージの表示: 単一ホストのエンクロージャ詳細.....	86

<b>23</b>	単一ホストのファームウェア詳細の表示.....	<b>87</b>
<b>24</b>	単一ホストの電源監視の表示.....	<b>89</b>
<b>25</b>	単一ホストの保証ステータスの表示.....	<b>91</b>
	ホスト保証の更新.....	92
<b>26</b>	Dell ホストのみの素早い表示.....	<b>93</b>
<b>27</b>	クラスタおよびデータセンターでのホスト監視.....	<b>95</b>
<b>28</b>	データセンターとクラスタの概要詳細の表示.....	<b>97</b>
<b>29</b>	ハードウェアの表示: データセンターまたはクラスタの FRU.....	<b>99</b>
<b>30</b>	ハードウェアの表示: データセンターまたはクラスタのプロセッサ詳細....	<b>101</b>
<b>31</b>	ハードウェアの表示: データセンターとクラスタの電源装置詳細.....	<b>103</b>
<b>32</b>	ハードウェアの表示: データセンターとクラスタのメモリ詳細.....	<b>105</b>
<b>33</b>	ハードウェアの表示: データセンターとクラスタの NIC 詳細.....	<b>107</b>
<b>34</b>	ハードウェアの表示: データセンターとクラスタの PCI スロット詳細.....	<b>109</b>
<b>35</b>	ハードウェアの表示: リモートアクセスカード詳細.....	<b>111</b>
<b>36</b>	ストレージの表示: データセンターとクラスタの物理ディスク.....	<b>113</b>
<b>37</b>	ストレージの表示: データセンターとクラスタの仮想ディスク詳細.....	<b>115</b>
<b>38</b>	データセンターとクラスタのファームウェア詳細の表示.....	<b>117</b>
<b>39</b>	データセンターとクラスタの保証サマリ詳細の表示.....	<b>119</b>
<b>40</b>	データセンターおよびクラスタの電源監視の表示.....	<b>121</b>
<b>41</b>	<b>Troubleshooting.....</b>	<b>123</b>
	よくあるお問い合わせ (FAQ).....	123
	「設定」 ページから移動した後に「設定」 ページに戻ると、ページのロードが失敗します。 ....	123
	アプライアンスの IP に DHCP を使用し、DNS 設定が上書きされると、なぜ、アプライアンスの再起動後に DNS 構成設定が元の設定に戻るのですか?.....	123

OpenManage Integration for VMware vCenter を使用した、ファームウェアバージョン 13.5.2 の Intel ネットワークカードのアップデートはサポートされていません。.....	123
無効な DUP でファームウェアのアップデートを行おうとすると、ジョブのステータス LC に "FAILED" と表示されるのに何時間も vCenter コンソールが失敗もタイムアウトもしません。なぜこれが起こっていますか?.....	124
管理ポータルに、到達不能なアップデートリポジトリの場所が表示されたままになっています。.....	124
初期設定ウィザードのインベントリスケジュール/保証スケジュールページで「過去の時間にタスクをスケジュールすることはできません」と表示されるのはなぜですか?.....	124
1 対多のファームウェアアップデートを実行したときに、システムがメンテナンスモードに入らなかったのはなぜですか?.....	124
「Dell Home > 監視 > ジョブキュー > 保証/インベントリ履歴 > スケジュール」で選択したときに、すべての vCenter に保証とインベントリスケジュールが適用されない.....	124
ファームウェアページで一部のファームウェアのインストール日が 12/31/1969 として表示されるのはなぜですか?.....	125
連続したグローバル更新によって最近のタスクウィンドウに例外が生成されるのはなぜですか?.....	125
IE 10 のデル画面のいくつかで Web Client UI が歪むのはなぜですか?.....	125
選択した 11G システム用のバンドルがリポジトリにあっても、ファームウェアアップデートがファームウェアアップデート用バンドルがないと表示するのはなぜですか?.....	125
vCenter へのプラグインの登録に成功したにもかかわらず、Web Client に OpenManage Integration アイコンが表示されないのはなぜですか?.....	125
Web Client を使用して接続プロファイルを編集した後に終了をクリックすると、いつも例外が表示されます。なぜですか?.....	126
ウェブ GUI で接続プロファイルを作成/編集するときに、ホストが属する接続プロファイルを見ることができません。なぜですか?.....	126
接続プロファイルを編集するときに、ウェブ UI の特定のホストウィンドウが空です。なぜですか?.....	126
ファームウェアのリンクをクリックした後、なぜ通信エラーメッセージが表示されるのですか。.....	126
OpenManage Integration for VMware vCenter で設定し SNMP トラップをサポートしているのは、どの世代の Dell サーバーですか?.....	127
OpenManage Integration for VMware vCenter によって管理されるのはどのリンクモードの vCenters ですか?.....	127
OpenManage Integration for VMware vCenter はリンクモードの vCenter をサポートしますか?.....	127
OpenManage Integration for VMware vCenter ではどのようなポート設定が要求されますか?.....	128
仮想アプライアンスの正常なインストールと操作のために最低限必要な要件は何ですか?.....	129
保証を更新するための翻訳はどのようにして見つければいいですか?.....	130
新しい iDRAC バージョンの詳細が、vCenter ホストとクラスタのページに表示されないのはなぜですか?.....	130
OMSA を使用してハードウェア温度の異常をシミュレートすることによってイベント設定をテストする方法は?.....	131

Dell ホストシステムに OMSA エージェントをインストールしていますが、OMSA がインストールされていないというエラーメッセージが今でも表示されます。どうしたらよいですか?....	131
ロックダウンモードを有効にした状態で OpenManage Integration for VMware vCenter で ESX/ESXI をサポートできますか?.....	132
再起動後、ロックダウンモードのホスト ESXi 4.0 Update2 および ESXi Update 3 でインベントリが失敗します。.....	132
ロックダウンモードを使用しようとしたら、失敗しました。.....	132
ESXi 4.1 U1 で UserVars.CIMoeMProviderEnable にどのような設定を使用すべきですか?.....	132
ハードウェアプロファイルの作成にリファレンスサーバーを使用していますが、失敗しました。どうすればよいですか?.....	132
ブレードサーバーに ESX/ESXi を展開しようとしていますが、失敗しました。どうすればよいですか?.....	133
Dell PowerEdge R210 II マシンでハイパーバイザー展開が失敗するのはなぜですか?.....	133
展開ウィザードにモデル情報のない自動検出されたシステムが表示されるのはなぜですか?....	133
ESX/ESXI ISO で NFS 共有がセットアップされていますが、共有の場所をマウントするときのエラーで失敗します。.....	133
仮想アプライアンスの強制削除はどのように実行すればよいですか?.....	133
今すぐバックアップ画面にパスワードを入力するとエラーメッセージが表示されます.....	134
vSphere Web Client で Dell サーバー管理ポートレットまたは Dell アイコンをクリックすると、404 エラーが返されます。.....	134
ファームウェアアップデートが失敗しました。どうしたらよいですか?.....	134
vCenter の登録が失敗しました。どうしたらよいですか?.....	134
接続プロファイルの資格情報テスト中、パフォーマンスが非常に遅くなったり、応答しなくなります。.....	134
OpenManage Integration for VMware vCenter は VMware vCenter Server Appliance をサポートしますか?.....	135
OpenManage Integration for VMware vCenter は vSphere Web Client をサポートしていますか?.....	135
ベアメタル展開の問題.....	135
デルへのお問い合わせ.....	135
本ソフトウェアのためのその他情報.....	136
OpenManage Integration for VMware vCenter 関連情報.....	136
<b>42 仮想化 — 関連イベント.....</b>	<b>137</b>
<b>付録 A: セキュリティの役割および許可.....</b>	<b>142</b>
<b>付録 A: データ整合性.....</b>	<b>143</b>
<b>付録 A: アクセス制御認証、承諾、および役割.....</b>	<b>144</b>

付録 A: Dell 操作の役割.....	145
付録 A: Dell インフラストラクチャ展開の役割.....	146
付録 A: 権限について.....	147
付録 B: 自動検出について.....	149
自動検出の必要条件.....	149
iDRAC サーバーの管理者アカウントを有効または無効にする.....	150
第 11 世代 PowerEdge サーバーでの自動検出の手動設定 .....	150
第 12 世代 PowerEdge サーバーでの自動検出の手動設定.....	152



## はじめに

VMware vCenter は、VMware vSphere ESX/ESXi ホストを管理および監視するために IT 管理者が使用するプライマリコンソールです。標準的な仮想化環境では、ハードウェア問題を解決するためのコンソールを別途起動するプロンプトの表示に VMware アラートと監視が使用されます。OpenManage Integration for VMware vCenter は、VMware Web Client 内からの VMware vCenter サーバーの管理を可能にする製品で、Windows システムへの依存から解放してくれます。OpenManage Integration for VMware vCenter を使用することにより、仮想化環境内でデルハードウェアを管理および監視するための次のような機能を実行できます。

- アラートと環境監視：主要ハードウェアの障害を検出し、仮想化対応アクション（たとえば、作業負荷の移行、またはホストをメンテナンスモードにするなど）を実行します。
- 単一サーバーの監視と報告：サーバーの監視および報告機能です。
- ファームウェアアップデート：デルハードウェアを最新バージョンの BIOS とファームウェアにアップデートします。
- 拡張展開オプション：ハードウェアプロファイルとハイパーバイザプロファイルを作成し、vCenter を使用して、リモートかつ PXE 無しでベアメタル Dell PowerEdge サーバーにこの 2 つの任意の組み合わせを展開します。

## OpenManage Integration for VMware vCenter 機能

OpenManage Integration for VMware vCenter を使用して、次のタスクを実行することができます。

インベントリ	主要資産のインベントリを実行、設定タスクを実行、Dell プラットフォームのクラスタビューとデータセンタビューを提供。
監視とアラートの実施	主要ハードウェアの障害を検出し、仮想化対応アクション（たとえば、作業負荷の移行、またはホストをメンテナンスモードにするなど）を実行。サーバー問題の診断のための追加インテリジェンス（インベントリ、イベント、アラーム）を提供。データセンターとクラスタビューでの報告、および CSV ファイルへのエクスポート。
ファームウェアアップデート	Dell ハードウェアを最新バージョンの BIOS とファームウェアにアップデート。
展開とプロビジョニング	ハードウェアプロファイル、ハイパーバイザプロファイルを作成し、vCenter を使用して、リモートかつ PXE 無しでベアメタル Dell PowerEdge サーバーにこの 2 つの任意の組み合わせを展開。
サーバー情報	Dell からオンラインで保証情報を取得。
セキュリティ役割と許可	標準の vCenter 認証、規則、および許可との統合。




# OpenManage Integration for VMware vCenter の設定または編集方法の理解

OpenManage Integration for VMware vCenter の基本情報を入力し、Dell アイコンをクリックすると、初期設定ウィザードが表示されます。初回起動時に、初期設定ウィザードを使用して設定内容を設定します。以降のインスタンスについては、**設定** ページを使用します。さらに初期設定ウィザードで、保証、インベントリ、イベント、およびアラームの設定の編集を行うことができます。初期設定ウィザードの使用は最も一般的な手段ですが、前記の作業は、OpenManage Integration for VMware vCenter の **OpenManage Integration** → **管理** → **設定** ページからも実行することができます。初期設定ウィザードの詳細は、『**OpenManage Integration for VMWare vCenter User Guide**』（OpenManage Integration for VMWare vCenter ユーザーガイド）を参照してください。

## 設定ウィザード使用の設定タスク

初期設定ウィザードを使用して、1つのvCenter、または複数の登録済みvCenterに以下を設定することができます。

1. vCenter の選択
2. 新しい接続プロファイルの作成
3. インベントリジョブのスケジュール
4. 保証ジョブのスケジュール
5. イベントおよびアラームの設定

 **メモ:** 初期設定ウィザードは、**開始** ページの **基本タスク** の下にある **初期設定の開始ウィザード** のリンクからも行うことができます。

## 設定ウィザードようこそページ

OpenManage Integration for VMware vCenter をインストールした後、設定を行う必要があります。

1. vSphere ウェブクライアントで、ホーム、**OpenManage Integration** アイコンの順でクリックします。
2. 初めて **OpenManage Integration** アイコンをクリックすると、**設定ウィザード** が表示されます。このウィザードには **OpenManage Integration** → **はじめに** → **初期設定ウィザードの開始** ページからもアクセスできます。

## vCenter の選択


vCenter の選択ページでは、特定のvCenterを選択して設定、またはすべてのvCentersを選択して設定を行うことができます。

1. **初期設定ウィザード** のようこそ画面で、**次へ** をクリックします。
2. **vCenters** ドロップダウンリストから1つ、またはすべてのvCenterを選択します。まだ設定されていない、またはお使いの環境に新規に追加されたvCenterについては、個々のvCenterを選択します。vCenterの選択ページでは、1つ、または複数のvCentersを選択して設定を行うことができます。
3. **次へ** をクリックして、接続プロファイルの説明ページに進みます。

## 初期設定ウィザードを使用した新規接続プロファイルの作成


接続プロファイルは、仮想アプライアンスが Dell サーバーと通信するのに使用する資格情報を保存します。各 Dell サーバーは、OpenManage Integration for VMware vCenter によって管理される接続プロファイルに関連付けられている必要があります。複数のサーバーを1つの接続プロファイルに割り当てることができます。接続プロファイルの作成方法は、設定ウィザードと OpenManage Integration for VMware vCenter、設定オプションではほぼ同様です。

接続プロファイルで Active Directory 資格情報を使用する前に、Active Directory に Active Directory ユーザーアカウントが存在し、このアカウントが iDRAC で既に有効にされている必要があります。このウィザードでは、Active Directory アカウントを作成したり、iDRAC で Active Directory を有効にしたりすることはできません。

 **メモ:** 追加ホスト数がライセンスで制限されている接続プロファイルの作成数を超過した場合、接続プロファイルを作成できません。

ウィザードを使用する新規接続プロファイルの作成には、以下を行います。

1. **接続プロファイルの説明** ページで、**次へ** をクリックして次に進みます。
2. **名前と資格情報** ページで、**接続プロファイル名** を入力し、任意で**接続プロファイルの説明**を入力します。
3. **名前と資格情報** ページの資格情報で、次のいずれかを実行します。

 **メモ:** iDRAC アカウントには、ファームウェアのアップデート、ハードウェアプロファイルの適用、およびハイパーバイザの展開に管理者権限が必要です。

- 使用する Active Directory 用に iDRAC の設定および有効化が Active Directory ですで行われている場合は、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択します。それ以外は、iDRAC 資格情報の設定に進みます。

\* **Active Directory ユーザー名** テキストボックスに、ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー名、またはユーザー名@ドメインのいずれかの形式で入力してください。ユーザー名は 256 文字に制限されています。ユーザー名の制限については、Microsoft Active Directory マニュアルを参照してください。

\* **Active Directory パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されています。

\* **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。

\* **証明書のチェック** ボックスで、次のいずれかを選択します。


• 今後すべての接続の際に iDRAC 証明書をダウンロードおよび保存して、証明書の検証を行うには、**有効** を選択します。

• 証明書をチェックせず、保存しない場合は、**証明書のチェックを有効にする** チェックボックスを選択しないでください。


• Active Directory を使用する iDRAC ですすでに Active Directory が設定済みで有効にされている場合は、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択します。それ以外は、iDRAC 資格情報の設定に進みます。

- Active Directory なしで iDRAC 資格情報を設定するには、次のいずれかを行います。

\* **ユーザー名** テキストボックスにユーザー名を入力します。ユーザー名は 16 文字に制限されています。お使いのバージョンの iDRAC におけるユーザー名の制限についての情報は、iDRAC マニュアルを参照してください。

 **メモ:** ローカル iDRAC アカウントには、ファームウェアのアップデート、ハードウェアプロファイルの適用、およびハイパーバイザの展開に管理者権限が必要です。


- \* パスワード テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 20 文字に制限されています。
  - \* パスワードの確認 テキストボックスにパスワードを再度入力します。
  - \* 証明書の確認 ボックスで、次のいずれかを選択します。
    - 今後すべての接続の際に iDRAC 証明書をダウンロードおよび保存して、証明書の検証を行うには、**有効**を選択します。
    - iDRAC 証明書をチェックせず、保存しない場合は、**証明書のチェックを有効にする** チェックボックスを選択しないでください。
4. ホストのルートエリアで、次のいずれかを実行します。
- 使用する Active Directory 用にホストの設定および有効化が Active Directory ですで行われている場合は、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択します。それ以外は、iDRAC 資格情報の設定に進みます。
    - \* **Active Directory ユーザー名** テキストボックスに、ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー名、またはユーザー名@ドメインのいずれかの形式で入力してください。ユーザー名は 256 文字に制限されています。ユーザー名の制限については、Microsoft Active Directory マニュアルを参照してください。
    - \* **Active Directory パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されています。
    - \* **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
    - \* 証明書のチェック ボックスで、次のいずれかを選択します。
      - 今後すべての接続の際にホスト証明書をダウンロードおよび保存して、証明書の検証を行うには、**有効**を選択します。
      - ホスト証明書のチェックを行わず、保存しない場合は、**無効**を選択します。
  - Active Directory なしでホスト資格情報を設定するには、次のいずれかを行います。
    - \* **ユーザー名** テキストボックスで、ユーザー名は、root です。これはデフォルトのユーザー名で、このユーザー名を変更することはできませんが、Activate Directory を設定済みの場合、root に限らず任意の Active directory ユーザー名を選択することができます。
    - \* **パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されています。
 

 **メモ:** OMSA 資格情報は、ESX および ESXi ホストに使われたものと同じです。
    - \* **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
    - \* **証明書の確認** チェックボックスで、次のいずれかを選択します。
      - 今後すべての接続の際にホスト証明書をダウンロードおよび保存して、証明書の検証を行うには、**有効**を選択します。
      - ホストの証明書をチェックせず、保存しない場合は、**証明書のチェックを有効にする** チェックボックスを選択しないでください。
5. **次へ**をクリックします。
6. **関連ホスト** ページで、接続プロファイルのホストを選択し、**次へ**をクリックします。
7. 接続プロファイルをテストするには、1つ、または複数のホストを選択し、**テスト接続** ボタンを選択します。このステップは任意です。これはホストおよび iDRAC の資格情報が正しいかどうかをチェックするために使用します。

8. プロファイルを完了するには、**次へ**をクリックします。iDRAC Express または Enterprise カードがないサーバーでは、iDRAC テスト接続結果は、このシステムには該当なしと表示されます。

## インベントリジョブのスケジュールウィザード

インベントリのスケジュールの設定は、設定ウィザードと、OpenManage Integration 管理 セクションの 設定 オプションからとほぼ同じです。

 **メモ:** OpenManage Integration for VMware vCenter が今後もアップデートされた情報を表示することを確実にするため、定期的なインベントリジョブをスケジュールすることをお勧めします。インベントリジョブは最小限のリソースのみを消費し、ホストのパフォーマンスを劣化させることはありません。

インベントリジョブのスケジュールには、以下を行います。

1. **設定ウィザードのインベントリのスケジュール** ウィンドウで、以下の中から1つを行います。
  - インベントリをスケジュールできるように、**インベントリデータの取得を有効にする** チェックボックスはデフォルトで選択されています。
2. **インベントリデータの取得スケジュール** で、次の手順を行います。
  - a) インベントリを実行する各曜日の横にあるチェックボックスを選択します。デフォルトでは **毎日** が選択されています。
  - b) テキストボックスに、時刻を HH:MM フォーマットで入力します。  
入力時刻は現地時刻です。インベントリの収集を適切な時刻に実行するよう、時間差を計算します。
3. 変更内容を適用して続行するには、**次へ**をクリックして保証スケジュール設定に進みます。

## 保証取得ジョブウィザードの実行


保証取得ジョブの設定手順は、ウィザードから行う場合も Dell OpenManage Integration for VMware vCenter の設定オプションから行う場合もほぼおなじです。さらに、ジョブキューから保証取得ジョブを今すぐ実行することもできます。スケジュール済みのジョブは、ジョブキューにリストされています。

保証取得ジョブを実行するには以下を行います。

1. **設定ウィザードの保証スケジュール** ウィンドウで、以下の中から1つを行います。
  - **保証データの取得を有効にする** チェックボックスを選択すると、保証をスケジュールできます。
2. **保証データの取得スケジュール** の下で、次の操作を実行します。
  - a) 保証を実行したい各曜日の横にあるチェックボックスを選択します。
  - b) テキストボックスに、時刻を HH:MM フォーマットで入力します。  
入力した時刻は入力地の現地時刻です。保証の収集を実行する必要がある正しい時刻について時差を計算してください。
3. 変更内容を適用して続行するには、**次へ**をクリックして保証スケジュールの設定に進みます。



## イベントおよびアラームの設定ウィザード

イベントおよびアラームの設定は、設定ウィザードを使用、または Dell OpenManage Integration for VMware vCenter のイベントとアラームの設定オプションから行います。

 **メモ:** Dell PowerEdge 第12世代サーバーより前のホストでは、vCenter でホストイベントを表示するため、OMSA で仮想アプライアンス IP アドレスがトラップ送信先リストに設定されている必要があります。

イベントおよびアラームを設定するには、以下を行います。

1. **初期設定ウィザードのイベント掲載レベル** で、以下のいずれかを選択します。

- すべてのイベントを掲載をしない - ハードウェアイベントはブロックされます。
  - すべてのイベントを掲載する - すべてのハードウェアイベントが掲載されます。
  - 重要および警告イベントのみを掲載する - 重要または警告レベルのハードウェアイベントのみが掲載されます。
  - 仮想化関連の重要および警告イベントのみを掲載する - 仮想化関連の重要および警告イベントのみが掲載されます。これはデフォルトのイベント掲載レベルです。
2. すべてのハードウェアアラームとイベントを有効化するには、**Dell ホストのアラームを有効にする** チェックボックスを選択します。  
 **メモ:** アラームが有効化されている Dell ホストは、重要イベントに対応して保守モードに入ります。
  3. **Dell アラーム警告の有効化** ダイアログボックスが表示されたら、**続行** をクリックして変更を承諾するか、**キャンセル** をクリックします。DRS が有効になっていない場合は、表示されたクラスタで **続行** をクリックしてください。  
 **メモ:** この手順は、**Dell ホストのアラームを有効にする** が選択されている場合にのみ表示されます。
  4. ウィザードを続行するには、**適用** をクリックします。



## VMware vCenter ウェブクライアントの移動について

VMware vCenter の操作は簡単です。VMware vCenter にログインすると、ホームページとホームタブが開き、OpenManage Integration アイコンがメインコンテンツエリアの管理グループ下に表示されます。OpenManage Integration アイコンを使用して OpenManage Integration for VMware vCenter タブ探し、ナビゲータ エリアで Dell グループを特定します。

VMware vCenter のレイアウトは、次の 3 つのセクションで構成されています。

<b>ナビゲータ</b>	ナビゲータエリアは、コンソール内の各種ビューにアクセスするための主なメニューです。OpenManage Integration for VMware vCenter には、vCenter メニューの下に、OpenManage Integration for VMware vCenter の主なアクセスポイントである専用グループがあります。
<b>メインコンテンツエリア</b>	ナビゲータ 内で選択してビューを表示します。メインコンテンツエリアは、コンテンツの大部分が表示されるエリアです。
<b>通知</b>	vCenter アラーム、タスク、および進行中の動作が表示されます。OpenManage Integration for VMware vCenter には vCenter のアラーム、イベント、およびタスクシステムが統合され、通知エリアにそれ自体の情報が表示されます。

## VMware vCenter 内の OpenManage Integration for VMware vCenter への移動











OpenManage Integration for VMware vCenter は、VMware vCenter の専用の Dell グループ内にあります。

1. VMware vCenter にログインします。
2. VMware vCenter のホームページで、OpenManage Integration アイコンをクリックします。  
ここから OpenManage Integration for VMware vCenter の接続プロファイル、製品設定、インベントリおよび保証ジョブの監視、サマリページの表示、その他、メインコンテンツエリアのタブから多くの操作を行うことができます。
3. ホスト、データセンター、クラウドを監視するには、左側のナビゲーターにあるインベントリリストで、調べたいホスト、データセンター、クラウドのいずれかを選択し、オブジェクトタブで希望のオブジェクトをクリックします。
4. サマリまたは監視タブは、他の Dell ホストからのアクティビティやタスクの監視に役立ちます。

## アイコンボタンの理解

製品のユーザーインターフェースには、実行するアクション用に、多くのアイコン式アクションボタンがあります。

表 1. アイコンボタンが定義されました。

アイコンボタン	定義
	このプラス記号アイコンを使って、新しい項目を追加したり作成したりします。
	このサーバー追加アイコンを使って、サーバーを接続プロファイル、データセンター、およびクラスタに追加します。
	このアイコンを使ってジョブを停止します。
	このアイコンを使ってリストをたたみます。
	このアイコンを使ってリストを展開します。
	このアイコンを使ってオブジェクトを削除します。
	このアイコンをスケジュールを変更します。
	この鉛筆アイコンを使って編集します。
	このアイコンを使って、ジョブをパージします。
	このアイコンを使ってファイルをエクスポートします。

## ソフトウェアバージョンの特定

ソフトウェアのバージョンは OpenManage Integration for VMware vCenter の開始タブにあります。

1. VMware vCenter ホームページで OpenManage Integration アイコンをクリックします。
2. OpenManage Integration for VMware vCenter の開始タブで **バージョン情報** をクリックします。
3. バージョン情報ダイアログボックスでバージョン情報を確認します。
4. ダイアログボックスを閉じるには、**OK** をクリックします。

## 画面コンテンツの更新

VMware vCenter のリフレッシュアイコンを使用して、画面をいつでも更新できます。

1. 更新したいページを選択します。
2. VMware vCenter タイトルバーで、**更新** ボタンをクリックします。  
更新アイコンは、検索エリアの左側にある時計回りの形の矢印の左側にあります。

## OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンスタブの表示

OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンスをインストールすると、サポートされているホストと vCenter の数がこのタブに表示されます。ページ上部には OpenManage Integration for VMware vCenter のバージョンも表示されます。このページの **ライセンス管理** の下には、次のリンクが表示されます。

- Product Licensing Portal (Digital Locker)
- iDRAC Licensing Portal

- 管理コンソール

OpenManage Integration for VMware vCenter のライセンス タブには、次の情報が表示されます。

#### ライセンス

ホストのライセンス

- 使用可能なライセンス  
使用可能なライセンスの数を表示します。
- 使用中のライセンス  
使用中のライセンス数を表示します。

vCenter ライセンス

- 使用可能なライセンス  
使用可能なライセンスの数を表示します。
- 使用中のライセンス  
使用中のライセンス数を表示します。

## オンラインヘルプを開く

オンラインヘルプは、ヘルプおよびサポート タブから開きます。マニュアルを検索してトピックに役立てたり操作手順を知ることができます。オンラインヘルプには、大部分の製品のユーザーズガイドが含まれています。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter で、次のいずれかを行います。
  - 製品ヘルプのヘルプおよびサポートで、**OpenManage Integration for VMware vCenter オンラインヘルプ**をクリックします。
2. 左ペインの目次を使用するか検索機能を使用して、トピックを検索します。
3. ヘルプの使用を終了したら、右上角にある**赤色の X**をクリックします。

## ヘルプおよびサポートの検索

製品について必要な情報を提供するために、OpenManage Integration for VMware vCenter にはヘルプおよびサポートタブがあります。このタブでは、次のような情報を得ることができます。

### 製品ヘルプ

次のリンク

- **OpenManage Integration for VMware vCenter のヘルプ**  
製品内にある製品ヘルプへのリンクを提供します。目次または検索を使って、必要なヘルプを探してください。
- **バージョン情報**  
バージョン情報のダイアログボックスを表示します。製品情報を確認することができます。

### Dell マニュアル

次のリンクを提供します：

- サーバー マニュアル
- OpenManage Integration for VMware vCenter マニュアル

### 管理コンソール

管理コンソールへのリンクを提供します。

### その他のヘルプおよびサポート

次のリンクを提供します：

- Lifecycle Controller 使用 iDRAC のマニュアル

- Dell VMware マニュアル
- OpenManage Integration for VMware vCenter 製品ページ
- Dell ヘルプおよびサポートのホーム
- Dell TechCenter

サポート電話のヒント	Dell サポートへの連絡方法と正しい電話の転送についてヒントが記載されています。
トラブルシューティングバンドル	トラブルシューティングバンドルをダウンロードします。このバンドルは、テクニカルサポートへのお問い合わせの際に提供または参照してください。詳細については、「 <b>Download a Troubleshooting Bundle</b> (トラブルシューティングバンドルのダウンロード)」を参照してください。
Dell 推奨	Dell は Dell Repository Manager を推奨しており、リンクはここに記載されています。Dell Repository Manager を使って、システムに使用できるすべてのファームウェア更新をダウンロードしてください。
iDRAC のリセット	iDRAC が応答しないときに使用するための iDRAC のリセットボタンを提供します。このリセットは、通常の iDRAC の再起動を実行します。「 <b>Resetting iDRAC</b> (iDRAC のリセット)」を参照してください。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter で、ヘルプおよびサポート タブをクリックします。
2. このタブには OpenManage Integration for VMware vCenter のサポート情報が表示されます。

## 接続プロファイル

接続プロファイルタブで、接続プロファイルの管理および設定を行えます。接続プロファイルは、仮想アプリケーションが Dell サーバーと通信するのに使用する資格情報を保存します。OpenManage Integration for VMware vCenter で管理するために、各 Dell サーバーに関連付ける接続プロファイルは1つのみにしてください。1つの接続プロファイルに対して複数のサーバーを割り当てることができます。

- [接続プロファイルの表示](#)
- [接続プロファイルの作成](#)
- [接続プロファイルの編集](#)
- [接続プロファイルの更新](#)
- [接続プロファイルの削除](#)
- [接続プロファイルのテスト](#)

### 接続プロファイルの表示

接続プロファイルを表示する前に、それを作成する必要があります。

接続プロファイルを作成したら、接続プロファイルページに表示します。OpenManage Integration for VMware vCenter は接続プロファイルを使って、Dell ホストと通信します。

OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **接続プロファイルタブ** で、作成したすべての接続プロファイルを表示できます。表示できる情報は次の通りです。

<b>プロファイル名</b>	接続プロファイルの名前を表示します。
<b>説明</b>	説明が表示されます（入力されている場合）。
<b>vCenter</b>	vCenter の IP アドレスを表示します。
<b>関連ホスト</b>	この接続プロファイルに関連付けられたホストが表示されます。複数ある場合、展開アイコンを使ってすべてを表示します。
<b>iDRAC 証明書チェック</b>	iDRAC 証明書チェックが有効/無効のいずれであるかを表示します。
<b>ホストルート証明書チェック</b>	ホストルート証明書チェックが有効/無効のいずれであるかを表示します。
<b>作成日</b>	作成日を表示します。
<b>変更日</b>	変更日を表示します。
<b>前回変更担当者</b>	このプロファイルを前回変更した人を表示します。

### 新しい接続プロファイルの作成

複数のサーバーを1つの接続プロファイルに割り当てることができます。OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **接続プロファイル** タブで使用して接続プロファイルを作成し、プラス記号をクリックして続行します。



**メモ:** この手順中に表示される vCenter ホストは、同じシングルサインオン (SSO) で認証されています。vCenter ホストが表示されない場合、別の SSO があるか、バージョン 5.1 より前の VMware vCenter を使用していることが考えられます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **接続プロファイル** タブで、**新規作成** アイコンをクリックします。
2. **接続プロファイルの説明** ページで、**次へ** をクリックします。
3. **名前と資格情報** ページで、次の手順を行います。
  - a) プロファイルの下で **プロファイル名** とオプションで **説明** をタイプします。
  - b) vCenter の下で、この接続プロファイルと関連付ける 1 つ、または複数のホストを選択します。このオプションにより、多数の vCenter ホストに 1 つの接続プロファイルを設定することができます。
  - c) **名前と資格情報** ページで、次の手順を行います。
    - \* iDRAC アカウントには、ファームウェアのアップデート、ハードウェアプロファイルの適用、およびハイパーバイザの展開に管理者権限が必要です。
    - \* **Active Directory ユーザー名** テキストボックスに、ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー名またはユーザー名@ドメインのいずれかの形式で入力してください。ユーザー名は 256 文字に制限されています。ユーザー名の制限については、**Microsoft Active Directory** マニュアルを参照してください。
    - \* **Active Directory パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されています。
    - \* **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
    - \* 証明書チェックボックスで、次のいずれかを選択します。
    - \* iDRAC 証明書をダウンロードおよび保存して、今後すべての接続最中に証明書の検証を行うには、**有効** を選択します。
    - \* 証明書をチェックせず、保存しない場合は、**証明書チェックを有効にする** チェックボックスを選択しないでください。
  - d) **ホストルート** ページで、次の手順を実行します。
    - \* 使用する **Active Directory** 用にホストの設定および有効化が **Active Directory** ですでに行われている場合は、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択します。それ以外は、iDRAC 資格情報の設定に進みます。
    - \* **Active Directory ユーザー名** テキストボックスに、ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー名またはユーザー名@ドメインのいずれかの形式で入力してください。ユーザー名は 256 文字に制限されています。ユーザー名の制限については、**Microsoft Active Directory** マニュアルを参照してください。
    - \* **Active Directory パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されています。
    - \* **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
    - \* 証明書チェックボックスで、次のいずれかを選択します。
    - \* ホスト証明書をダウンロードおよび保存して、今後すべての接続最中に証明書の検証を行うには、**有効** を選択します。
    - \* ホスト証明書のチェックを行わず、保存しない場合は、**無効** を選択します。
    - \* **Active Directory** なしでホスト資格情報を設定するには、次のいずれかを行います。
    - \* **ユーザー名** テキストボックスでのユーザー名は **root** です。このユーザー名はデフォルトで、変更することはできません。
    - \* **Active Directory** が設定されている場合、**root** のみではなく、どの **Active Directory** でも選択できます。


- \* パスワードテキストボックスにパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されています。


 **メモ:** OMSA の資格情報は、ESX および ESXi ホストに使われる資格情報と同じです。

- \* **パスワードの確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。
  - \* **証明書チェック** ボックスで、次のいずれかを選択します。
  - \* ホスト証明書をダウンロードおよび保存して、今後すべての接続最中に証明書の検証を行うには、**有効**を選択します。
  - \* ホスト証明書をチェックせず、保存しない場合は、**証明書チェックを有効にする** チェックボックスを選択しないでください。
4. **次へ**をクリックします。
  5. 関連ホストページで、接続プロファイル用のホストを選択し、**OK**をクリックします。
  6. 接続プロファイルをテストするには、1つ、または複数のホストを選択し、接続のテストボタンを選択します。この手順はオプションです。これはホストおよび iDRAC の資格情報が正しいかどうかをチェックするために使用します。
  7. プロファイルを完了するには、**次へ**をクリックします。iDRAC Express または Enterprise カードのどちらもないサーバーでは、このシステムに対する iDRAC テスト接続結果に該当しませんと表示されます。


## 接続プロファイルの編集

接続プロファイルの設定後、プロファイル名、説明、関連ホスト、および資格情報を編集できます。

 **メモ:** この手順中に表示される vCenter は、同じシングルサインオン (SSO) で認証されています。vCenter のホストが見えない場合、別の SSO にあるか、バージョン 5.1 以前の VMware vCenter を使用しているためと考えられます。

 **メモ:** 追加されたホスト数がライセンス制限を超過した場合、接続プロファイルを編集できます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **接続プロファイル** タブで、接続プロファイルを選択します。
  2. **編集** アイコンをクリックします。
  3. ようこそタブの接続プロファイルウィンドウで情報を読み、**次へ**をクリックします。
  4. 名前と資格情報タブで、次の手順を行います。
    - a) プロファイルの下で **プロファイル名** とオプションで **説明** をタイプします。
    - b) vCenter の下で、この接続プロファイルの関連ホストを確認します。ここに表示されるホストが見えない理由については、上記の注記を参照してください。
    - c) iDRAC 資格情報で、次の手順を行います。
      - \* ユーザー名は root になっており、**Active Directory** を選択しなければこのエントリを変更することはできません。**Active Directory** が設定されている場合は、root に限らず、どの Active Directory ユーザーでも選択できます。
      - \* Domain\Username : ユーザー名を、ドメイン\ユーザー名、または ドメイン@ユーザー名、のいずれかの形式でタイプします。
 

 **メモ:** ユーザー名には、/ (スラッシュ)、&、\ (バックスラッシュ)、. (ピリオド)、" (引用符)、@、% (パーセント) を使用することができます (最大 127 文字)。

ドメインには英数字および - (ダッシュ)、. (ピリオド) のみを使用できます (最大 254 文字)。ドメインの最初と最後の文字は必ず英数字にしてください。
      - \* パスワード : 自分のパスワードをタイプします。
- 次の文字、/ (スラッシュ)、&、\ (バックスラッシュ)、. (ピリオド)、" (引用符)、は、パスワードに使用することはできません。

- \* パスワード確認：自分のパスワードを再度タイプします。
- \* 証明書のチェックを有効にする：デフォルトで、チェックボックスにチェックは入っていません。iDRAC 証明書をダウンロードして保存し、将来のすべての接続中に検証するよう、**証明書のチェックを有効にする**を選択するか、**証明書のチェックを有効にする** チェックボックスをクリアして証明書のチェックを実行せず証明書を保存しないようにします。



**メモ:** Active Directory を使用する場合は、**有効にする**を選択する必要があります。

d) ホストルートで、次の手順を実行します。

- \* **Active Directory を使用する** チェックボックスを選択して、アクティブディレクトリに関連付けられたすべてのコンソールにアクセスします。  
ユーザー名：デフォルトのユーザー名は **root** で、変更できません。Active Directory を使用するを選択している場合、任意の **Active Directory** ユーザー名を使用できます。
- \* パスワード：自分のパスワードをタイプします。  
次の文字、/ (スラッシュ)、&、\ (バックスラッシュ)、. (ピリオド)、" (引用符)、は、パスワードに使用することはできません。
- \* パスワード確認：自分のパスワードを再度タイプします。
- \* 証明書のチェックを有効にする：デフォルトで、チェックボックスにチェックは入っていません。iDRAC 証明書をダウンロードして保存し、将来のすべての接続中に検証するよう、**証明書のチェックを有効にする**を選択するか、**証明書のチェックを有効にする** チェックボックスをクリアして証明書のチェックを実行せず証明書を保存しないようにします。



**メモ:** Active Directory を使用する場合は、**有効にする**を選択する必要があります。



**メモ:** OMSA の資格情報は、ESX および ESXi ホストに使われる資格情報と同じです。




**メモ:** iDRAC Express または Enterprise カードがないサーバーでは、iDRAC テスト接続結果は、このシステムには該当しませんが表示されます。

5. **次へ** をクリックします。
6. ホストの選択 ダイアログボックスで、この接続プロファイルのホストを選択します。
7. **OK** をクリックします。
8. 関連ホスト タブで、選択したサーバー上の iDRAC とホストの資格情報をテストできます。次の手順で行います。
  - テストを開始するには、チェックを行うホストを選択し、**テスト接続** アイコンをクリックします。その他のオプションは非アクティブです。  
テストが完了したら、**完了** をクリックします。
  - テストを停止させるには **すべてのテストを中止** をクリックします。テストを中止 ダイアログボックスで **OK** をクリックし、**完了** をクリックします。

## 接続プロファイルの更新

OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **接続プロファイル** タブで、VMware vSphere Web Client 内のタイトルバー上の **更新** アイコンをクリックします。

 **メモ:** ホストを vCenter から取り外した後、接続プロファイルのページに移動すると、ホストを接続プロファイルから削除するように指示されます。削除を確定すると、ホストが接続プロファイルから削除されます。

## 接続プロファイルの削除

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **接続プロファイル** タブで、削除するプロファイルを選択します。
2. **削除** アイコンをクリックします。
3. 削除の確認メッセージで、プロファイルを削除する場合は **はい**、削除処置をキャンセルする場合は **いいえ** をクリックします。

## 接続プロファイルのテスト

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **接続プロファイル** タブで、テストする接続プロファイルを選択します。このアクションは完了するまでに数分かかることがあります。
2. 接続プロファイルのテストダイアログで、テストするホストを選択し、**テスト接続** アイコンをクリックします。
3. 選択したすべてのテストを中止してテストをキャンセルするには、**すべてのテストを中止** をクリックします。テストの中止ダイアログボックスで **OK** をクリックします。
4. 終了するには、**キャンセル** をクリックします。



## インベントリ履歴

インベントリジョブのセットアップは、設定タブまたは初期設定ウィザードを使用して行います。インベントリ履歴タブを使用して、インベントリジョブを表示します。このタブで実行可能なタスクには、次のタスクがあります。

- [インベントリ履歴の表示](#)
- [インベントリジョブスケジュールの変更](#)
- [インベントリジョブを今すぐ実行する](#)

### インベントリ履歴の表示

データを収集するには、インベントリが正常に終了している必要があります。インベントリが完了すると、データセンター全体または個別のホストシステムに関するインベントリ結果を表示することができます。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。行の表示順は、昇順または降順で並べ替えることができます。

サーバーデータの検索と表示ができない場合、いくつかの原因が考えられます。

- サーバーに接続プロファイルが関連付けられていないため、インベントリジョブを実行できない。
- データを収集するインベントリジョブがサーバーで実行されていないので、表示できるデータがない。
- ホストライセンス数が超過しており、インベントリタスクを完了するには使用可能な追加ライセンスが必要。
- このサーバーには、Dell PowerEdge 第 12 世代サーバーに必要な正しい iDRAC ライセンスがないため、正しい iDRAC ライセンスを購入する必要がある。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter で、**監視** タブをクリックします。
2. **ジョブキュー** → **インベントリ履歴** をクリックします。
3. 選択した vCenter でサーバー情報を表示するには、表示させる vCenter を選択して関連するすべてのホストの詳細を表示します。
4. インベントリ履歴情報を確認します。

#### vCenter 詳細

スケジュールの変更 ボタン	クリックして、インベントリスケジュールを編集します。
今すぐ実行 ボタン	クリックして、インベントリジョブを実行します。
vCenter	vCenter アドレスを表示します。
ホスト合格	合格したホストを表示します。
次のインベントリ	実行がスケジュールされている次のホストを表示します。
最新のインベントリ	実行された前のインベントリスケジュールを表示します。

## ホスト

<b>Host (ホスト)</b>	ホストのアドレスを表示します。
<b>状態</b>	状態を表示します。次の状態があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>- 成功</li><li>- 失敗</li><li>- 進行中</li><li>- スケジュール済み</li></ul>
<b>継続時間 (MM:SS)</b>	ジョブの継続時間を分と秒で表示します。
<b>開始日時</b>	インベントリスケジュールが開始した日付と時刻を表示します。
<b>終了日時</b>	インベントリスケジュールが終了した時刻を表示します。

## インベントリジョブスケジュールの変更

サーバー情報を最新にしておくために、Dell サーバーで定期的にインベントリを実行してください。Dell では、インベントリを週に1回実行することをお勧めします。インベントリはホストのパフォーマンスに影響しません。インベントリジョブスケジュールの変更は、**監視** → **ジョブキュー** → **インベントリ履歴** ページまたは、**管理** → **設定** ページから行うことができます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の **監視** → **ジョブキュー** タブで、**インベントリ履歴** をクリックします。
2. vCenter を選択し、**スケジュールの変更** アイコンをクリックします。
3. インベントリデータの取得 ダイアログボックスで、次の手順を行います。
  - a) インベントリデータの下にある **インベントリデータ取得の有効化** チェックボックスを選択します。
  - b) インベントリデータの取得スケジュールの下からジョブを実行する曜日を選択します。
  - c) インベントリデータの取得時間 テキストボックスで、このジョブを実行するローカル時刻を入力します。  
このジョブを正しい時刻に実行するために、時差を計算する必要がある場合があります。
4. **適用** をクリックすると設定が保存、**クリア** をクリックすると設定がリセット、**キャンセル** をクリックすると動作が中止されます。

## インベントリジョブを今すぐ実行する

インベントリジョブは、最低でも週に1回実行してください。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の **監視** → **ジョブキュー** タブで、**インベントリ履歴** をクリックします。
2. **今すぐ実行** ボタンをクリックします。
3. 成功 ダイアログボックスで **閉じる** をクリックします。  
この時点でインベントリジョブはキューにあります。単一ホストでのインベントリは実行できないため注意してください。インベントリジョブは、すべてのホストに対して開始されます。

## 保証履歴

保証ジョブは、設定ウィザードを使用してセットアップします。このタブで、保証ジョブ履歴を表示します。このタブでは、次のタスクを行うことができます。

- [保証履歴の表示](#)
- [保証ジョブスケジュールの変更](#)
- [保証ジョブを今すぐ実行する](#)

### 保証履歴の表示

保証ジョブは、すべてのシステムに関する保証情報を [support.dell.com](http://support.dell.com) から取得するスケジュールされたタスクです。列は昇順または降順で並べ替えできます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter で **監視** タブをクリックします。
2. ジョブキュー → **保証履歴** をクリックします。
3. 保証ジョブの履歴情報を表示します。

スケジュールの変更ボタン

クリックして保証ジョブスケジュールを編集します。

今すぐ実行ボタン

クリックして保証取得ジョブを実行します。

#### vCenter 履歴

vCenters

vCenters のリストを表示します。

ホスト合格

合格した vCenter ホスト数を表示します。

前の保証

実行された前の保証ジョブを表示します。

次の保証

次に実行される保証ジョブを表示します。

#### ホストの履歴

ホスト

ホストアドレスを表示します。

ステータス

ステータスを表示します。次のステータスがあります。

- 成功
- 失敗
- 進行中
- スケジュール済み

継続時間 (MM:SS)

保証ジョブの継続時間を MM:SS 単位で表示します。

開始日時

保証ジョブが開始した日付と時刻を表示します。

終了日時

保証ジョブが終了した時刻を表示します。

## 保証ジョブスケジュールの変更

ハードウェアの保証情報は、デルオンラインから取得し、OpenManage Integration for VMware vCenter に表示します。サーバーについての保証情報の収集には、サーバーのサービスタグを使用します。保証ジョブは最初に、初期設定ウィザードで設定します。以降、保証ジョブのスケジュールの変更は、**監視タブ** → **ジョブキュー** → **保証履歴** ページから、または **管理タブ** → **設定** ページから行います。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の **監視** → **ジョブキュー** タブで、**保証履歴** をクリックします。
2. **スケジュールの変更** アイコンをクリックします。
3. 保証データの取得 **ダイアログボックス** で、次の手順を行います。
  - a) 保証データ の下にある **保証データの取得を有効化** チェックボックスを選択します。
  - b) 保証データの取得スケジュールの下からジョブを実行する曜日を選択します。
  - c) 保証データの取得時間 **テキストボックス** で、このジョブを実行するローカル時刻を入力します。  
このジョブを正しい時刻に実行するために、時差を計算する必要がある場合があります。
4. **適用** をクリックします。

## 保証ジョブを今すぐ実行する

保証ジョブは、最低でも週に1回実行してください。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の **監視** → **ジョブキュー** タブで、**保証履歴** をクリックします。
2. **今すぐ実行** ボタンをクリックします。
3. 成功 **ダイアログボックス** で **閉じる** をクリックします。  
これで、保証ジョブがキューに入ります。

## コンソール管理

OpenManage Integration for VMware vCenter とその仮想環境の管理は、2つの追加管理ポータルを使って行います。

- ウェブベース管理コンソール
- 個別サーバーのコンソールビュー（アプライアンス仮想マシンコンソール）。

これら2つのポータルを使用して、vCenter 管理のためのグローバル設定、OpenManage Integration for VMware vCenter データベースのバックアップと復元、およびリセット/再起動アクションを、すべてのvCenter インスタンスにわたって入力、使用することができます。

## 管理コンソールの使用

管理コンソールのvCenter 登録ウィンドウからは、vCenter サーバーを登録したり、ライセンスをアップロードまたは購入することができます。デモライセンスをお使いの場合は、ソフトウェアの購入リンクが表示され、このリンクから複数ホストを管理するための完全バージョンライセンスを購入することができます。このセクションでは、サーバーの変更、アップデート、および登録解除を行うこともできます。

関連タスク:

- [vCenter サーバーの登録](#)
  - [管理者のvCenter ログインの変更](#)
  - [登録済みvCenter 用のSSL 証明のアップデート](#)
  - [vCenter からのOpenManage Integration for VMware vCenter のアンインストール](#)
- [OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンスのアップロード](#)

## vCenter サーバーの登録

OpenManage Integration for VMware vCenter がインストールされた後、OpenManage Integration for VMware vCenter でvCenter サーバーを登録できます。OpenManage Integration for VMware vCenter では、vCenter 操作のために管理ユーザーアカウントが使用されます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の サマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログインダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 新規サーバーを登録するには、左ペインで **VCENTER 登録** をクリックし、**新規vCenter サーバーの登録** をクリックします。
4. **新規vCenter の登録** ダイアログボックスの **vCenter 名** で次を行います。
  - a) **vCenter サーバー IP またはホスト名** テキストボックスにvCenter IP アドレスまたはホスト名を入力します。
  - b) **説明** テキストボックスに、オプションで説明を入力します。
5. **管理者ユーザーアカウント** で、次を行います。
  - a) **管理者ユーザー名** テキストボックスに管理者のユーザー名を入力します。
  - b) **パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。

c) パスワードの**確認** テキストボックスにパスワードを再度入力します。

6. **登録** をクリックします。

## vCenter 管理者ログインの変更

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のサマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログインダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで **VCENTER の登録** をクリックします。登録された vCenter がテーブルに表示されます。 **管理者アカウントの変更** ウィンドウを表示するには、 **資格情報** で **変更** をクリックします。
4. vCenter 管理者の **ユーザー名**、**パスワード** および **パスワードの確認** を入力します。両パスワードは一致する必要があります。
5. パスワードを変更するには **適用** をクリックします。または変更を取り消すには **キャンセル** をクリックします。

## 登録された vCenter サーバーの SSL 証明書のアップデート

vCenter サーバーの SSL 証明書が変更された場合、OpenManage Integration for VMware vCenter に新しい証明書をインポートするため、次の手順を実行します。OpenManage Integration for VMware vCenter はこの証明書を使用して、通信相手の vCenter サーバーが正しい vCenter サーバーであって、偽装でないことを確認します。

OpenManage Integration for VMware vCenter は、2048 ビットキー長の RSA 暗号化標準を使って証明書署名要求 (CSR) を作成するために openssl API を使用します。OpenManage Integration for VMware vCenter を使用して生成された CSR は、信頼された証明機関からデジタル署名付き証明書を取得するのに使用されます。OpenManage Integration for VMware vCenter は、安全な通信のためにデジタル証明書を使って Web サーバー上で SSL を有効にします。

1. ブラウザウィンドウを起動して、**vSphere vCenter コンソール** タブに表示された設定する仮想マシンの **管理コンソール URL** を入力、または **Dell Management Console** → **設定ページ** からのリンクを使用します。URL は次のフォーマット **https://<ApplianceIPAddress>** を使用し、大文字小文字が区別されます。
2. 左ペインで **VCENTER の登録** をクリックします。登録された vCenter がテーブルに表示されます。証明書をアップデートするには、**アップデート** をクリックします。

## VMware vCenter からの OpenManage Integration for VMware vCenter のアンインストール


OpenManage Integration for VMware vCenter を削除するには、管理コンソールを使って vCenter サーバーから登録解除する必要があります。


1. OpenManage Integration for VMware vCenter のサマリ タブで、リンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログインダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. **vCenter 登録** ページの vCenter サーバー表の下で、**登録解除** をクリックして OpenManage Integration for VMware vCenter の登録を解除します。  
vCenter が複数存在する場合があるので、正しい vCenter を選択するようにしてください。
4. 登録の取り消しを確認する **vCenter の登録解除** ダイアログボックスで **登録解除** をクリックします。

## OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンスを管理コンソールにアップロードする

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のサマリ タブで、リンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログインダイアログボックスにパスワードを入力します。

3. 左ペインで、**VCENTER**の登録をクリックします。登録された vCenters がテーブルに表示されます。アップロードライセンスダイアログボックスを表示するには、**ライセンスのアップロード**をクリックします。
4. ライセンスファイルに移動するには、**参照** ボタンをクリックし、ライセンスファイルに移動したら **アップロード** をクリックします。

 **メモ:** ライセンスファイルを変更または編集すると、アプライアンスはこれを壊れたとみなし、ファイルが使用できなくなります。ホストの追加が必要な時はライセンスを追加することができます。上記プロセスに従ってライセンスを追加してください。

 **メモ:** 正常にインベントリされた第 11 世代および第 12 世代のサーバーの数が、購入済みライセンスの数と同じ場合、新規または既存の接続プロファイルへの第 9、または 10 世代のサーバーの追加はブロックされるため、既存の接続プロファイルを編集して第 11 または 12 世代サーバーを削除し、代わりに第 10 または 9 世代サーバーを追加します。削除した第 11、12 世代サーバーには新規接続プロファイルを作成してください。

## 仮想アプライアンス管理

仮想アプライアンスの管理には、**OpenManage Integration for VMware vCenter** ネットワーク、バージョン、NTP、および HTTPS 情報が含まれており、次の操作を行うことができます。

- [仮想アプライアンスの再起動](#)
- [仮想アプライアンスのアップデートとアップデートリポジトリの場所の設定](#)
- [トラブルシューティングバンドルのダウンロード](#)
- [NTP サーバーのセットアップ](#)
- [HTTPS 証明書のアプローチ](#)

### 仮想アプライアンスの再スタート

仮想アプライアンスを再スタートさせると、管理コンソールからログアウトされ、**OpenManage Integration for VMware vCenter** は、仮想アプライアンスとそのサービスがアクティブになるまで使用不可能となります。

1. **OpenManage Integration for VMware vCenter** のサマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログインダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで **アプライアンス管理** をクリックします。
4. **OpenManage Integration for VMware vCenter** を再スタートするには、**仮想アプライアンスの再スタート** をクリックします。
5. **仮想アプライアンスの再スタート** ダイアログボックスで、仮想アプライアンスを再スタートするには **適用** をクリックするか、または **キャンセル** をクリックして取り消します。

### リポジトリの場所と仮想アプライアンスのアップデート

仮想アプライアンスのアップデート前にバックアップを実行し、すべてのデータを保護します。「[バックアップと復元の管理](#)」を参照してください。

1. **OpenManage Integration for VMware vCenter** のサマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログインダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで **アプライアンス管理** をクリックします。
4. アプライアンスのアップデートの横の **編集** をクリックします。
5. **アプライアンスアップデート** ウィンドウに **リポジトリの場所の URL** を入力し、**適用** をクリックします。



**メモ:** アップデートロケーションが、Dell FTP サイトなどの外部ネットワークにある場合、HTTP プロキシエリアの下にプロキシを入力する必要があります。

## 仮想アプライアンスソフトウェアバージョンのアップデート

データの喪失を予防するため、ソフトウェアアップデートの開始前にアプライアンスのバックアップを実行します。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のサマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログイン ダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで、**アプライアンスメンテナンス** をクリックします。
4. 仮想アプライアンスを **アプライアンスアップデート** にリストされているソフトウェアバージョンにアップデートするには、**仮想アプライアンスのアップデート** をクリックします。
5. **アプライアンスのアップデート** ダイアログボックスには、現行で使用可能なバージョンがリストされています。アップデートを開始するには、**アップデート** をクリックします。
6. システムはロックダウンし、メンテナンスモードになります。アップデートが完了すると、アプライアンスページに新たにインストールされたバージョンが表示されます。

## トラブルシューティングバンドルのダウンロード

この情報を使用してトラブルシューティング問題の参考にしたたり、技術サポートへ送付します。

1. ブラウザウィンドウを起動して、**vSphere vCenter コンソール** タブに表示された設定する仮想マシンの **管理コンソール URL** を入力、または **Dell Management Console** → **設定** ページからのリンクを使用します。URL は次のフォーマットを使用し、大文字小文字は区別されません。  
**https://<ApplianceIPAddress>**
2. 左ペインで **アプライアンス管理** をクリックします。
3. トラブルシューティングバンドルのダイアログボックスを表示するには、**トラブルシューティングバンドルの作成** をクリックします。
4. 仮想アプライアンスログ情報を含む Zip ファイルを開くか保存するには、**トラブルシューティングバンドルのダウンロードリンク** をクリックします。
5. 終了するには、**閉じる** をクリックします。

## HTTP プロキシの設定

HTTP プロキシ設定は、管理コンソールまたは Dell Management Console を使用して設定できます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のサマリ タブで、リンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログイン ダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで **アプライアンス管理** をクリックします。
4. **アプライアンス管理** ページで **HTTP プロキシ設定** にスクロールダウンし、**編集** をクリックします。
5. **編集** ページで以下を行います。
  - a) HTTP プロキシ設定の使用を有効化するには、**HTTP プロキシ設定を使用** の横の **有効** を選択します。
  - b) **プロキシサーバーのアドレス** テキストボックスにプロキシサーバーアドレスを入力します。
  - c) **プロキシサーバーポート** テキストボックスにプロキシサーバーポートを入力します。
  - d) プロキシ資格情報を使用するには、**プロキシ資格情報を使用する** の横で **はい** を選択します。
  - e) 資格情報を使用している場合、**ユーザー名** テキストボックスにユーザー名を入力します。
  - f) **パスワード** テキストボックスにパスワードを入力します。
6. **適用** をクリックします。

## NTP サーバーの設定

仮想アプライアンスクロックを NTP サーバーのそれと同期させるには、ネットワークタイムプロトコル (NTP) を使用します。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のサマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログイン ダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで **アプライアンス管理** をクリックします。
4. **NTP 用の編集** をクリックします。
5. **有効** チェックボックスをクリックします。 **ホスト名** または **IP アドレス** を **プリファランス** または **セカンドリ NTP サーバー** に入力し、**適用** をクリックします。
6. 終了するには、**キャンセル** をクリックします。

## 証明書署名要求の生成

新規証明書署名要求を生成することは、以前作成された CSR で作成された証明書がアプライアンスにアップロードされることを防ぎます。


1. OpenManage Integration for VMware vCenter のサマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログイン ダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで **アプライアンス管理** をクリックします。
4. **HTTPS 証明のための証明書署名要求の生成** をクリックします。新規の要求が生成されると、以前の CSR によって作成された証明書はアプライアンスにアップロードできなくなりますというメッセージが表示されます。要求を続けるには、**続行** をクリックします。または、**キャンセル** をクリックして取り消します。
5. 要求の **コモンネーム**、**組織名**、**部署名**、**市区町村名**、**都道府県名**、**国名** および **E-メール** を入力します。**続行** をクリックします。
6. **ダウンロード** をクリックして、生成された HTTPS 証明書をアクセスできる場所に保存します。

## HTTPS 証明書のアップロード

HTTPS 証明書は、仮想アプライアンスとホストシステム間のセキュアな通信に使用することができます。このタイプのセキュアな通信を設定するには、証明書署名要求を認証局に送り、その結果の証明書を管理コンソールを使用してアップロードする必要があります。また、自己署名によるデフォルト証明書もあり、セキュア通信に使用できます。この証明書は各インストール固有のものです。

 **メモ:** 証明書のアップロードには、Microsoft Internet Explorer または Firefox を使用できます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のサマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログイン ダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで **アプライアンス管理** をクリックします。
4. **HTTPS 証明用の証明書のアップロード** をクリックします。
5. **証明書のアップロード** ダイアログボックスで、**OK** をクリックします。
6. アップロードする証明書を選択するには、**参照** をクリックして、**アップロード** をクリックします。
7. アップロードを中止するには、**キャンセル** をクリックします。

 **メモ:** 証明書は、PEM フォーマットを使用する必要があります。

## デフォルト HTTPS 証明書の復元

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の サマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログイン ダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで **アプライアンス管理** をクリックします。
4. **HTTPS 証明用のデフォルト証明書の復元** をクリックします。
5. デフォルト証明書の復元ダイアログボックスで **適用** をクリックします。

## グローバルアラートの設定

アラート管理によって、すべての vCenter インスタンスに対するアラートの保存方法のグローバル設定を入力できます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の サマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログイン ダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで **アラート管理** をクリックします。新規の vCenter アラート設定を入力するには、**編集** をクリックします。
4. 次の項目に対する数字の値を入力します。
  - 最大アラート数
  - アラートの保持日数
  - 重複アラートのタイムアウト時間 (秒)
5. 設定を保存するには **適用** をクリックするか、**キャンセル** をクリックして取り消します。

## バックアップおよび復元の管理

バックアップおよび復元の管理は、管理コンソールで行われます。このページのタスクには以下が含まれます。

- [バックアップおよび復元の設定](#)
- [自動バックアップのスケジュール](#)
- [即時のバックアップの実行](#)
- [バックアップからのデータベースの復元](#)

## バックアップおよび復元の設定

バックアップおよび復元機能は、OpenManage Integration for VMware vCenter データベースをリモートロケーションにバックアップして、後日それに基づく復元を可能にします。このバックアップには、プロファイル、テンプレートおよびホスト情報が含まれます。データの喪失に備えるため、自動バックアップをスケジュールすることを推奨します。この手順のあと、バックアップスケジュールを設定する必要があります。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の サマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログイン ダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで、**バックアップと復元** をクリックします。
4. 現在のバックアップと復元設定を編集するには、**編集** をクリックします。
5. **設定と詳細** ページで、以下を行います。

- a) **バックアップの場所**テキストボックスにバックアップファイルへのパスをタイプします。
  - b) **ユーザー名**テキストボックスにユーザー名をタイプします。
  - c) **パスワード**テキストボックスにパスワードをタイプします。
  - d) **バックアップを暗号化するために使用するパスワード**の下のテキストボックスに、暗号化パスワードをタイプします。  
暗号化パスワードには、英数字および次の特殊文字を使用できます：!**@#%\***。長さの制限はありません。
  - e) **パスワードの確認**テキストボックスに暗号化パスワードを再度入力します。
6. これらの設定を保存するには、**適用**をクリックします。
  7. バックアップスケジュールを設定します。詳細は、「[自動バックアップのスケジュール](#)」を参照してください。

## 自動バックアップのスケジュール

これはバックアップおよび復元の第2部です。バックアップロケーションと資格情報に関する詳細は、「[バックアップおよび復元の設定](#)」を参照してください。


自動バックアップのスケジュールには、以下を行います。

1. **OpenManage Integration for VMware vCenter** のサマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログインダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで、**バックアップ**と**復元**をクリックします。
4. バックアップおよび復元の設定を編集するには、**編集自動バックアップスケジュール** をクリックします（これによってフィールドがアクティブになります）。
5. バックアップを有効化するには、**有効**をクリックします。
6. バックアップを実行したい曜日のチェックボックスを選択します。
7. **バックアップ時刻 (24 時間フォーマット、HH:mm)** テキストボックスに時刻を HH:mm フォーマットで入力します。  
次のバックアップに次にスケジュールされたバックアップの日付と時刻が表示されます。
8. **適用** をクリックします。

## 即時のバックアップの実行

1. **OpenManage Integration for VMware vCenter** のサマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログインダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで、**バックアップ**と**復元**をクリックします。
4. **今すぐバックアップ**をクリックします。
5. バックアップ設定からロケーションと暗号化パスワードを使用するには、**今すぐバックアップ**ダイアログボックスでそのチェックボックスを選択します。
6. **バックアップの場所**、**ユーザー名**、**パスワード**、および**暗号化パスワード**を入力します。  
暗号化パスワードには、英数字および次の特殊文字を使用できます：!**@#%\***。長さの制限はありません。
7. **バックアップ**をクリックします。

## バックアップからのデータベースの復元

 **メモ:** 復元の操作では、作業完了後、仮想アプライアンスを再起動させます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のサマリ タブで、このリンクを使って管理コンソールを開きます。
2. ログインダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 左ペインで、**バックアップおよび復元**をクリックすると、現在のバックアップおよび復元設定が表示されます。
4. **今すぐ復元**をクリックします。
5. 今すぐ復元ダイアログボックスで、**ファイルロケーション (CIFS/NFS フォーマット)**を入力します。
6. バックアップファイルの**ユーザー名**、**パスワード**および**暗号化パスワード**を入力します。  
暗号化パスワードには、英数字および次の特殊文字を使用できます：**!@#\$%\***。長さの制限はありません。
7. 変更を保存するには、**適用**をクリックします。  
適用をクリックすると、アプライアンスは再起動または再スタートします。

## vSphere Client コンソールについて

コンソールは、仮想マシンの vSphere ウェブクライアント内にあります。このコンソールは管理コンソールと連動します。このコンソールには、次の機能があります。

- [ネットワークの設定構成](#)
- [仮想アプライアンスパスワードの変更](#)
- [ローカルタイムゾーンの設定](#)
- [仮想アプライアンスの再起動](#)
- [仮想アプライアンスの工場出荷時設定へのリセット](#)
- [コンソールの更新](#)

矢印キーを使用して上下に移動します。希望のオプションを選択して **<ENTER>** を押します。コンソール画面にアクセスすると、カーソルは VMware vSphere Client に制御されます。カーソルの制御をエスケープするには、**<CTRL> + <ALT>** を押してください。

## ネットワークの設定

ネットワーク設定への変更は、コンソール上の vSphere Web Client で行います。

1. vSphere ウェブクライアントのナビゲータで、**vCenter** を選択します。
2. ナビゲータで、管理する仮想マシンを選択します。
3. 次の手順のいずれか1つを実行します。
  - オブジェクトタブで、**アクション** → **コンソールを開く** を選択します。
  - 選択した仮想マシンを右クリックし、**コンソールを開く** を選択します。
4. コンソールウィンドウで、**ネットワークの設定**を選択し、**<ENTER>** を押します。
5. **デバイスの編集**または **DNS の編集** 構成下で望ましいネットワーク設定を入力し、**保存して終了** をクリックします。変更を中止するには、**終了** をクリックします。

## 仮想アプライアンスパスワードの変更

仮想アプライアンスパスワードは、コンソールを使用して vSphere Web Client で変更します。

1. vSphere ウェブクライアントのナビゲータで、**vCenter** を選択します。
2. ナビゲータで、管理する仮想マシンを選択します。
3. 次の手順のいずれか1つを実行します。
  - オブジェクトタブで、**アクション**→**コンソールを開く** を選択します。
  - 選択した仮想マシンを右クリックし、**コンソールを開く** を選択します。
4. コンソールで、矢印キーを使用して **管理パスワードの変更** を選択し、**<ENTER>** を押します。
5. **現在の管理パスワード** を入力し、**<ENTER>** を押します。  
管理パスワードには、1つの特殊文字、1つの数字、1つの大文字、1つの小文字を含み、少なくとも8文字である必要があります。
6. **新規管理パスワードの入力** で新しいパスワードを入力し、**<ENTER>** を押します。
7. 新しいパスワードを **管理パスワードを確認** してくださいテキストボックスに再度入力し、**<ENTER>** を押します。

## ローカルタイムゾーンの設定

ローカルタイムゾーンを設定するには、以下を行います。

1. vSphere ウェブクライアントのナビゲータで、**vCenter** を選択します。
2. ナビゲータで、管理する仮想マシンを選択します。
3. 次の手順のいずれか1つを実行します。
  - オブジェクトタブで、**アクション**→**コンソールを開く** を選択します。
  - 選択した仮想マシンを右クリックし、**コンソールを開く** を選択します。
4. 矢印キーを使用して **タイムゾーンの設定** を選択し、**<ENTER>** を押します。
5. **タイムゾーンの選択** ウィンドウで、望ましいタイムゾーンを選択して、**OK** をクリックします。変更を取り消すには、**キャンセル** をクリックします。これでタイムゾーンがアップデートされました。

## 仮想アプライアンスの再起動

仮想アプライアンスを再起動するには、以下を行います。


1. vSphere ウェブクライアントのナビゲータで **vCenter** を選択します。
2. ナビゲータで、管理する仮想マシンを選択します。
3. 次の手順のいずれか1つを実行します。
  - オブジェクトタブで、**アクション**→**コンソールを開く** を選択します。
  - 選択した仮想マシンを右クリックし、**コンソールを開く** を選択します。
4. 矢印キーを使用して **この仮想アプライアンスを再起動** を選択し、**<ENTER>** を押します。
5. 次のメッセージが表示されます。  
If there are any processes running on this appliance they will be terminated by this action. Are you sure you wish to do this?
6. 再起動するには、**y** を、取り消すには、**n** を入力します。これでアプライアンスは再起動されました。

## 仮想アプライアンスの工場出荷時設定へのリセット

仮想アプライアンスを工場出荷時設定へリセットするには、以下を行います。

1. vSphere ウェブクライアントのナビゲータで、**vCenter** を選択します。
2. ナビゲータで、管理する仮想マシンを選択します。
3. 次の手順のいずれか1つを実行します。
  - オブジェクトタブで、**アクション** → **コンソールを開く** を選択します。
  - 選択した仮想マシンを右クリックし、**コンソールを開く** を選択します。
4. 矢印キーを使用してこの**仮想アプライアンスを工場出荷時設定にリセット**を選択し、**<ENTER>**を押します。
5. 次の通知が表示されます。

This operation is completely Irreversible if you continue you will completely reset \*this\* appliance to its original settings. All changes you have made to this appliance will be Lost. Are you sure you wish to Reset this Appliance to Factory Settings?
6. リセットするには、**y**を入力します。または**n**で取り消します。アプライアンスは当初の工場出荷時設定にリセットされます。

 **メモ:** 仮想アプライアンスが工場出荷時設定にリセットされる場合、ネットワーク設定に加えられたアップデートは維持されます。この設定はリセットされません。

## コンソールビューの更新

コンソールビューを更新するには、**更新**を選択して、**<ENTER>**を押します。

## 読み取り専用ユーザー役割

診断目的のシェルアクセス権を持つ、読み取り専用と呼ばれる非特権ユーザー役割があります。読み取り専用ユーザーにはマウントを実行するための限定的な特権があります。読み取り専用ユーザーのパスワードは管理者と同じものに設定されます。

## 1.6/1.7 から 2.0 に移行するための移行パス

OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 2.0 は OVF リリースのみとなっています。旧バージョンからこのバージョンへの RPM アップデートパスはありません。旧バージョン (1.6 または 1.7) は、バックアップと復元パスを使用してバージョン 2.0 リリースに移行させることができます。また、移行パスはバージョン 1.6 と 1.7 のみでサポートされます。1.6 より前のバージョンをお持ちの場合は、OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 2.0 に移行する前に、お使いのアプライアンスを対応バージョンにアップグレードする必要があります。

旧バージョンから OpenManage Integration for VMware vCenter 2.0 バージョンに移行するには、次の手順を実行します。

1. 以前のリリースのデータベースのバックアップを行います。詳細に関しては、本ガイドの「**Managing Backup and Restore** (バックアップと復元の管理)」の項を参照してください。
2. vCenter から旧アプライアンスの電源を切ります。

 **メモ:**

プラグインの登録は vCenter から解除しないでください。プラグインを vCenter から登録解除すると、プラグインによって vCenter に登録されたアラームのすべてが削除され、vCenter でアラームに対して行わ

れたアクションなどのカスタマイズのすべてが削除されます。バックアップ後にすでにプラグインを登録解除した場合の詳細については、本ガイドの「バックアップ後に旧プラグインを登録解除した場合のリカバリ方法」の項を参照してください。

3. OpenManage Integration バージョン 2.0 OVF を展開します。OVF の展開についての詳細は、本ガイドの「vSphere Client を使用した OpenManage Integration for VMware vCenter OVF の展開」の項を参照してください。
4. OpenManage Integration バージョン 2.0 アプライアンスに電源を入れます。
5. アプライアンスでネットワーク、タイムゾーンなどをセットアップします。新しい OpenManage Integration バージョン 2.0 アプライアンスの IP アドレスは、旧アプライアンスのものと同じにすることをお勧めします。ネットワーク詳細をセットアップするには、本ガイドの「OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート」の項を参照してください。
6. データベースを新規アプライアンスに復元します。詳細に関しては、本ガイドの「バックアップからのデータベースの復元」の項を参照してください。
7. 新しいライセンスファイルをアップロードします。詳細に関しては、『OpenManage Integration Version 2.0 Quick Install Guide』（OpenManage Integration バージョン 2.0 のクイックインストールガイド）にある「Registering OpenManage Integration for VMware vCenter And Importing The License File」（OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート）の項を参照してください。
8. アプライアンスを検証します。データベース移行が正常に行われたことを確認するための詳細については、本ガイドの「インストールの検証」を参照してください。
9. 登録された vCenter すべてでインベントリを実行します。



#### メモ:

アップグレード後は、プラグインによって管理されているホストのすべてで再度インベントリを実行することが推奨されます。オンデマンドでインベントリを実行するための手順に関する詳細は、「インベントリジョブの実行」を参照してください。

新しい OpenManage Integration バージョン 2.0 アプライアンスの IP アドレスが旧アプライアンスの IP アドレスから変更された場合、新しいアプライアンスをポイントするように SNMP トラップのトラップ送信先を設定する必要があります。第 12 世代サーバーでは、これはホスト上でインベントリを実行することによって修正されます。旧仕様に準拠する第 11 世代以前のホストでは、この IP 変更が非準拠として表示され、OMSA の設定が必要になります。ホストの準拠性を修正するための詳細に関しては、本ガイドの「非準拠 vSphere ホストの修正ウィザードの実行」を参照してください。

### バックアップ後に旧プラグインを登録解除した場合のリカバリ方法

旧バージョンのデータベースのバックアップ取得後にプラグインの登録を解除した場合は、移行に進む前に次の手順を実行してください。



**メモ:** プラグインの登録解除により、プラグインによって登録済みアラームに行われたカスタマイズのすべてが削除されています。次の手順では、カスタマイズを復元することはできませんが、アラームをデフォルト状態で再登録します。

1. 本章の「1.6/1.7 から 2.0 への移行のための移行パス」の項の手順 3~5 を実行します。
2. 旧プラグインで以前登録したものと同一 vCenter にプラグインを登録します。
3. 本章の「1.6/1.7 から 2.0 への移行のための移行パス」の項の手順 6~9 に進み、移行を完了させます。詳細に関しては、『OpenManage Integration Version 2.0 Quick Install Guide』（OpenManage Integration バージョン 2.0 クイックインストールガイド）にある「Migration Path to migrate from 1.6/1.7 to 2.0」（1.6/1.7 から 2.0 への移行のための移行パス）の項を参照してください。



## ログについて

OpenManage Integration for VMware vCenter の **監視** → **ログ** タブから、ユーザー処置を表示できます。

このページの内容は、2つのドロップダウンリストを使用して並べ替えることができます。最初のドロップダウンリストで、次の項目を含むファイルのカテゴリで並べ替えることができます。

- すべてのカテゴリ
- 情報
- 警告
- **Error** (エラー)
- セキュリティ

2つめのドロップダウンリストで、次のような時間のブロックごとに並べ替えます。

- 過去1週間
- 過去1か月
- 過去1年間
- カスタム範囲

カスタム範囲を選択した場合、開始日および終了日を選択して、適用 をクリックします。

行のヘッダーをクリックして、データグリッドの行を昇順または降順に並べ替えることもできます。

フィルタ テキストボックスを使用して、内容を検索します。

ページのグリッドの下に、次の情報が表示されます。

合計項目数	すべてのログ項目の合計項目数を表示します。
画面ごと項目数	表示された画面ページ上のログ項目の数を表示します。ドロップダウンボックスを使用して、ページあたりの項目数を設定します。
ページ	現在のページ。テキストボックスにページ数を入力するか、前へ および 次へ ボタンを使用して、希望のページを表示します。
前へまたは次へ ボタン	次のページまたは前のページに移動するボタン。
エクスポートアイコン	このアイコンを使用して、ログ内容を CSV ファイルにエクスポートします。

## ログの表示

1. OpenManage Integration for VMware vCenter で、**監視** タブをクリックします。
2. ログタブで、OpenManage Integration for VMware vCenter のユーザーアクションログを確認します。ログページには、次の内容が表示されます。

カテゴリ	カテゴリのタイプが表示されます。
日付と時刻	ユーザーアクションの日付と時刻が表示されます。

説明 ユーザーアクションの説明が表示されます。

3. グリッド内のデータを並べ替えるには、行のヘッダーをクリックします。
4. カテゴリまたは時間ブロックを使用して並べ替えるには、グリッド上部のドロップダウンリストを使用します。
5. ログアイテムのページ間移動には、前へと次へ ボタンを使用します。

## ログファイルのエクスポート

OpenManage Integration for VMware vCenter は、データテーブルからの情報のエクスポートに、コンマ区切り値 (CSV) ファイル形式を使用しています。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter で、**監視** タブをクリックします。
2. ログ タブで、OpenManage Integration for VMware vCenter のユーザー処置を表示します。
3. CSV 形式のログファイルをエクスポートするには、画面右下角で、**すべてをエクスポート** ボタンをクリックします。
4. **ダウンロードする場所の選択** ダイアログボックスを選択し、ログ情報の保存先の場所を参照します。
5. ファイル名テキストボックスで、デフォルトのファイル名の **ExportList.csv** を承諾するか、別のファイル名をタイプします。
6. **保存** をクリックします。

## 設定

設定 タブは、次の用途で使用します。

- [OMSA リンクの編集](#)
- [保証期限通知の設定の表示](#)
- [保証期限通知の設定](#)
- [ファームウェア更新リポジトリの設定](#)
- [アラームおよびイベントの設定の表示](#)
- [イベントおよびアラームの設定と管理](#)
- [インベントリおよび保証のデータ取得スケジュールの表示](#)

## OMSA リンクの編集

この手順は、すでに OMSA ウェブサーバーをインストール済みで、以前に設定ウィザードを使用してこのリンクを設定していることを前提としています。使用中の OMSA のバージョンおよびウェブサーバーのインストールと設定の手順に関しては、『Dell OpenManage Server Administrator Installation Guide』（Dell OpenManage Server Administrator インストールガイド）を参照してください。

設定ウィザードの実行中にリンクを入力しなかった場合は、このリンクを OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **設定** タブで編集することができます。

 **メモ:** OMSA が必要なのは、Dell PowerEdge 第 11 世代とこれ以前の世代のサーバーのみです。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter にある **管理** → **設定** タブの vCenter 設定の下、OMSA ウェブサーバー URL の右側で **編集** をクリックします。
2. OMSA ウェブサーバー URL ダイアログボックスに URL をタイプします。  
HTTPS も含めて完全な URL を入力してください。
3. これらの設定をすべての vCenter に適用する チェックボックスを選択して、OMSA URL をすべての vCenter に適用します。このチェックボックスを選択しないと、OMSA URL は 1 つの vCenter にしか適用されません。
4. ホストのサマリタブに移動して、このリンクが機能することを確認します。Dell ホスト情報内で OMSA コンソールリンクをクリック可能であることを確認します。

## 11 世代サーバーとの OMSA 使用の理解

Dell PowerEdge 第 12 世代より前のサーバーでは、Dell OpenManage Integration for VMware vCenter での作業には OMSA をインストールする必要があります。OMSA は展開中に第 11 世代 Dell PowerEdge ホストに自動でインストールできますが、手動でインストールしたい場合は、それも可能です。

OMSA を Dell PowerEdge 第 11 世代ホストで設定する方法は、次のいずれかを選択します。

- [OMSA エージェントの ESXi システムへの展開](#)
- [OMSA エージェントの ESX システムへの展開](#)

- [OMSA トラップ先の設定](#)
- [OMSA リンクの編集](#)


## OMSA エージェントの ESXi システムへの展開

OMSA VIB を ESXi システムにインストールし、システムのエージェントおよび警告情報を収集します。

 **メモ:** Dell OpenManage エージェントは、バージョン 12G より前の Dell ホストで必要です。OMSA は Dell Management Plug-in のインストール前に Dell Management Plug-in を使って、または手動でホストにインストールできます。エージェントの手動インストールの詳細は、<http://support.dell.com/support/edocs/software/eslvmwre/sysman/sysman.htm> を参照してください。ESX/ESXi ソフトウェアの適切なバージョンのガイドを開き、「*Installing the Dell OpenManage Server Administrator*」(Dell OpenManage サーバー管理者のインストール) の章を参照してください。

1. まだインストールされていない場合は、vSphere コマンドラインツール (vSphere CLI) を <http://www.vmware.com> からインストールします。
2. 次のコマンドを入力します。  

```
Vihostupdate.pl -server <IP Address of ESXi host> -i -b OM-SrvAdmin-Dell-Web-6.3.0-2075.VIB-ESX41i_A00.8.zip
```

 **メモ:** OMSA のインストールには数分かかることがあります。このコマンドの完了後、ホストを再起動する必要があります。

## OMSA エージェントの ESX システムへの展開

OMSA tar.gz を ESX システムにインストールし、システムからインベントリと警告情報を収集します。

 **メモ:** Dell OpenManage エージェントは、バージョン 12G より前の Dell ホストで必要です。OMSA は Dell Management Plug-in のインストール前に Dell Management Plug-in を使って、または手動でホストにインストールできます。エージェントの手動インストールの詳細は、<http://support.dell.com/support/edocs/software/eslvmwre/sysman/sysman.htm> を参照してください。ESX/ESXi ソフトウェアの適切なバージョンのガイドを開き、「*Installing the Dell OpenManage Server Administrator*」(Dell OpenManage サーバー管理者のインストール) の章を参照してください。

OMSA エージェント tar.gz を必要なリモート有効化設定 (-c) オプションで ESX システムに展開するには、次の手順を実行します。

1. OMSA エージェントインストールスクリプトを実行します。  

```
sh srvadmin-install.sh -x
```
2. OMSA サービスを起動します。  

```
srvadmin-services.sh start
```
3. OMSA エージェントがすでにインストールされている場合、リモートを有効にする設定 (-c) オプションが行われているか確認してください。設定されていない場合は、OpenManage Integration for VMware vCenter のインストールは正しく完了しません。-c オプションで再インストールしてサービスを再起動してください。  

```
srvadmin-install.sh -c srvadmin-services.sh restart
```

## OMSA トラップ先の設定

このタスクは、イベント作成に iDRAC6 の代わりに OMSA を使用するホストシステムのみにも適用されます。iDRAC6 には追加設定は必要ありません。



メモ: OMSA は Dell PowerEdge 第 12 世代サーバーより前のバージョンの Dell サーバーにのみ必要です。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter **管理** → **設定** タブにある OMSA ユーザーインターフェースへのリンクを使用するか、またはウェブブラウザ (<https://<HostIP>:1311/>) から OMSA エージェントに移動します。
2. インタフェースにログインして、**アラート管理** タブを選択します。
3. **アラート処置** を選択し、監視対象イベントに **ブロードキャストメッセージ** オプションが設定されており、イベントが送出されることを確認します。
4. タブの一番上で **プラットフォームイベント** オプションを選択します。
5. グレーの **宛先の設定** ボタンをクリックし、次に **宛先** リンクをクリックします。
6. **トラップ先を有効にする** チェックボックスを選択します。
7. OpenManage Integration for VMware vCenter アプライアンスの IP アドレスを **送信先の IP アドレス** フィールドに入力します。
8. **変更の適用** をクリックします。
9. さらなるイベントの設定には、手順 1~8 を繰り返します。



## 保証期限通知の設定の表示

1. OpenManage Integration for VMware vCenter で、**管理** → **設定** タブの **アプライアンスの設定** の下にある **保証期限通知** をクリックします。
2. 保証期限通知 で、次の表示を行うことができます。
  - 設定が有効または無効のいずれになっているか
  - 初回の警告までの設定日数。
  - 初回の重大警告までの設定日数。
3. 保証期限通知を設定する方法については、「[保証期限通知の設定](#)」を参照してください。

## 保証期限通知の設定

保証期限しきい値を設定して保証期限を警告することができます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter にある **管理** → **設定** タブの、アプライアンス設定の下、**保証期限通知** の右側で **編集** アイコンをクリックします。
2. 保証期限通知ダイアログボックスで、次の手順を行います。
  - a) この設定を有効にするには、**ホストの保証期限通知を有効にする** チェックボックスを選択します。  
チェックボックスを選択すると、保証期限通知が有効化されます。
  - b) 最小日数しきい値アラートの下で、次の手順を行います。
    1. 警告ドロップダウンリストで、保証期限の何日前に警告したいかを日数で選択します。
    2. 重要ドロップダウンリストで、保証期限の何日前に警告したいかを日数で選択します。
3. **適用** をクリックします。




## ファームウェアアップデートについて


サーバーがファームウェアのアップデートを受信する場所は、OpenManage Integration for VMware vCenter の設定タブで、グローバル設定です。

ファームウェアリポジトリ設定には、展開されたサーバーをアップデートするのに使用される、ファームウェアカタログロケーションが含まれています。ロケーションタイプには2種類あります。

<b>Dell</b> (ftp.dell.com)	Dell (ftp.dell.com) のファームウェアアップデートリポジトリを使用します。OpenManage Integration for VMware vCenter が、選択されたファームウェアアップデートをデルからダウンロードします。
<b>共有ネットワークフォルダ</b>	Dell Repository Manager™ によって作成されます。これらのローカルリポジトリは、CIFS または NFS ファイル共有にあります。

 **メモ:** リポジトリが作成されたら、登録されたホストがアクセスできるロケーションに保存します。リポジトリのパスワードは31文字を超えることはできません。パスワードには、@、&、%、'、"、, (カンマ)、<>の文字は使用できません。

ファームウェアアップデートウィザードは常に、iDRAC、BIOS、および Lifecycle Controller の最低ファームウェアレベルをチェックし、最低必須のバージョンにアップデートすることを試みます。iDRAC、Lifecycle、および BIOS ファームウェアバージョンが最低要件を満たすと、ファームウェアアップデートウィザードが、iDRAC、Lifecycle、RAID、NIC/LOM、電源装置、BIOS などを含むすべてのファームウェアのアップデートを行います。

 **メモ:** 第9および第10世代のサーバーにおいては、BIOS/BMC/DRAC ファームウェアバージョンは vCenter のクラスタビューレベル、または個別ホストビューの概要ページでのみ表示することができます。ファームウェアバージョン情報は、ファームウェア下の個別ホストビューでアクティブになっておらず、そのページはグレーアウト表示されます。リモートファームウェアアップデートは利用できません。

### 2010年10月14日以降のファームウェアバージョン

2010年10月14日以降にアップデートされたファームウェアについては、ファームウェアアップデートウィザードが実行されます。

### 2009年7月29日以降で10月14日より前のファームウェアバージョン

ファームウェアが2009年7月29日以降、2010年10月14日の前日までにアップデートされている場合、ファームウェアアップデートウィザードはまだ使用できませんが、ファームウェアをアップデートするためのISOバンドルが付属しています。このアップデート後、最新ファームウェアにならない可能性があります。バンドルの実行後に再度アップデートを実行することを推奨します。

### 2009年7月29日より古いファームウェアバージョン

ファームウェアが2009年7月29日より古い場合、ISOファイルをダウンロードして実行し、マシンのアップデートを行わなければならない可能性があります。ISOの実行後、ファームウェアアップデートウィザードを実行することを推奨します。

### 関連情報

- [ファームウェアリポジトリの設定](#)


## ファームウェア更新リポジトリの設定

OpenManage Integration for VMware vCenter の設定タブで、ファームウェアアップデートのリポジトリを設定することができます。


1. OpenManage Integration for VMware vCenter で、**管理** → **設定** タブの アプライアンスの設定の下、ファームウェアアップデートのリポジトリの右側にある、**編集** アイコンをクリックします。
2. ファームウェア更新リポジトリダイアログボックスで、次のいずれかを選択します。
  - Dell Online  
ステージングフォルダがある、デフォルトのファームウェアのリポジトリ (ftp.dell.com) 。  
OpenManage Integration for VMware vCenter が選択したファームウェアアップデートをダウンロードし、ステージングフォルダに保存した後、ユーザーがファームウェアウィザードを実行してファームウェアをアップデートします。
  - 共有ネットワークフォルダ  
これらは Dell Repository Manager アプリケーションを使って作成されます。これらのローカルレポジトリは Windows ベースのファイル共有にあります。ライブリンクを使って、Dell Repository Manager に移動します。
3. **共有ネットワークフォルダ** を選択した場合、次のいずれかを実行します。
  - a) 次のフォーマットを使って、**カタログファイルの場所** を入力します。
    - \* xml ファイル用の NFS 共有: host/share/filename.xml
    - \* gz ファイル用の NFS 共有: host/share/filename.gz
    - \* xml ファイル用の CIFS 共有: \\host\share\filename.xml
    - \* gz ファイル用の CIFS 共有: \\host\share\filename.gz
  - b) **アップデート元の選択** 画面に、選択したリポジトリのパスでの進行中のファイルのダウンロードが表示される場合、ダウンロードが進行中というエラーメッセージが表示されます。
4. テストが完了したら、**適用** をクリックします。

## 単一ホストのためのファームウェアのアップデートウィザードの実行

この機能が使用できるのは、iDRAC Express または Enterprise カードが装備された第 11 および 12 世代の Dell サーバーのみです。お使いのファームウェアが 2010 年 10 月 14 日以降にインストールされた場合、ファームウェアアップデートウィザードを使用してファームウェアバージョンを自動的にアップデートすることができます。

 **メモ:** ブラウザのタイムアウト問題を避けるため、デフォルトタイムアウトを 30 秒に変更します。デフォルトタイムアウト設定の変更についての情報は、『*User's Guide*』（ユーザーズガイド）の「How Come I see an Error Message Displayed After Clicking the Firmware Update Link」（ファームウェアアップデートリンクをクリックした後にエラーメッセージが表示される理由）の項を参照してください。

 **メモ:** ホスト を右クリックし、すべての **OpenManage Integration** アクション > ファームウェアアップデート と選択してファームウェアウィザードにアクセスします。または、**ホスト > アクション > すべての OpenManage Integration** アクション > ファームウェアアップデート と選択してファームウェアウィザードにアクセスします。もしくは、**ホスト > サマリ > デルホスト情報 > ファームウェアアップデート** と選択して、ファームウェアウィザードにアクセスします。

 **メモ:**

ファームウェアアップデートウィザードを実行するには、次の手順を行います。


1. **vSphere ウェブクライアント**で、**ホスト** をクリックします。利用可能なホストのリストが表示されます。
2. 表示されたリストからホストを選択します。ホストが1つしかない場合、そのホストしか表示されません。
3. メインメニューで、**監視** をクリックして **Dell ホスト情報** タブを選択します。Dell ホストのインベントリ情報が表示されます。
4. **ファームウェア** をクリックすると、利用可能なファームウェアとその詳細情報が表示されます。
5. **ファームウェアの実行ウィザード** をクリックします。ファームウェアアップデート 画面が表示されます。
6. **次へ** をクリックすると、**アップデートソースの選択** 画面が所定のホスト用のファームウェアアップデートのバンドルと共に表示されます。
  - a) この画面で、**アップデートバンドルの選択** ドロップダウンリストからファームウェアアップデートのバンドルを選択します。
7. **次へ** をクリックします。コンポーネントのファームウェア詳細がリストされた **コンポーネントの選択** 画面が表示されます。
8. 使用するファームウェアアップデートを選択し、**次へ** をクリックします。ダウングレード、または現在アップデート用にスケジュール済みのコンポーネントは選択不可になっています。**ファームウェアのダウングレードを許可する** チェックボックスを選択する場合は、ダウングレードとしてリストされているオプションを選択します。このオプションの選択は、ファームウェアのダウングレードによる影響を理解している上級ユーザーのみにお勧めします。
9. **次へ** をクリックします。ファームウェアアップデートのスケジュール 画面が表示されます。
  - **ファームウェアアップデートジョブ名** フィールドにジョブ名を入力し、**ファームウェアアップデートの説明** フィールドに説明を入力します。このフィールドへの入力オプションです。
  - **今すぐアップデート** を選択すると、ファームウェアアップデートがただちに開始されます。
  - **アップデートのスケジュール** ボタン。ファームウェアアップデートジョブを後で実行するためにこのラジオボタンを選択し、**次へ** をクリックします。ファームウェアアップデートジョブは、現在の時刻より **30 分後以降** にスケジュールします。
  - カレンダーボックスで月と日 を選択します。
  - 時刻 テキストボックスに、HH:MM 形式で時刻を入力し、**次へ** をクリックします。時刻は、クライアントが物理的に位置しているローカルタイムゾーンの時刻です。時刻に無効な値を入力すると、アップデートがブロックされます。
  - **次回の再起動でアップデートを適用する。**  
サービスの中断を避けるため、再起動前にホストをメンテナンスモードにすることが推奨されます。
  - **メンテナンスモードにせずにアップデートを適用し、再起動を強制する。**  
-アップデートが適用され、ホストがメンテナンスモードでなくても再起動が行われます。この方法は推奨されません。
10. **次へ** をクリックします。ファームウェアアップデート後のすべてのコンポーネントの詳細を示した **サマリ** ページが表示されます。
11. **終了** をクリックします。
12. アップデートが正常に行われたことを確認するには、**監視** タブで **ジョブキュー** → **ファームウェアアップデート** と選択し、**OpenManage Integration 概要** ページで新規バージョンを確認します。


## クラスタのためのファームウェアのアップデートウィザードの実行

この機能が使用できるのは、iDRAC Express または Enterprise カードのいずれかが搭載された第 11 および 12 世代の Dell サーバーのみです。お使いのファームウェアが 2010 年 10 月 14 日以降にインストールされた場合は、ファームウェアのアップデートウィザードを使用してファームウェアバージョンを自動的にアップデー

トすることができます。このウィザードは、接続プロファイルの一部であり、ファームウェア、CSIOR ステータス、ハイパーバイザ、および OMSA ステータス（第 11 世代サーバーのみ）面で適合するホストのみをアップデートします。クラスタ ビューにリストされているクラスタを1つ選択し、ファームウェアのアップデートウィザードを使用します。通常、ファームウェアコンポーネントのアップデートには、クラスタごとに30~60分かかります。クラスタで DRS を有効化して、ファームウェアアップデートプロセス中にホストがメンテナンスモードに入る/終了するときに仮想マシンを移行できるようにします。ファームウェアアップデートタスクは、一度に1つしかスケジュールまたは実行できません。

ウィザードからエクスポートする場合は、CSV へのエクスポートボタンを使用します。特定のクラスタ、データセンター、ホスト、またはデータグリッドからの任意のトピックアイテム（適用日を除く）を探すため、検索を使用できます。

 **メモ:** ファームウェアは常に、リポジトリバンドル（BIOS、iDRAC、および Lifecycle Controller）の一部として一緒にアップデートするようにしてください。

 **メモ:** デフォルトのタイムアウト設定の変更の詳細については、『User's Guide』（ユーザーズガイド）の「Troubleshooting」（トラブルシューティング）の項を参照してください。

ファームウェアアップデートジョブは、ジョブキューページからステータスの表示および管理を行うことができます。「[データセンターとクラスタのファームウェア詳細の表示](#)」を参照してください。


1. **OpenManage Integration** アイコンをクリックし、左ペインに表示される **クラスタ** をクリックします。クラスタ一覧が表示されます。
2. 表示されるリストのクラスタをクリックします。メインメニューと共に各種オプションが表示されます。
3. **監視** --> **Dell クラスタ情報** --> **ファームウェア** とクリックします。ファームウェアの**実行ウィザード**画面が表示されます。
4. **ファームウェアの実行ウィザード** リンクをクリックします。ようこそ ページが表示されます。
5. **次へ** をクリックします。バンドルを選択することができる **アップデートソースの選択** 画面が表示されます。リポジトリの場所も同時に表示されます。
6. **バンドルの選択** エリアに表示されたリストからホストを選択します。ファームウェアのアップデートには少なくとも1つのバンドルを選択するようにしてください。各ホストのホスト名の隣にはドロップダウンリストがあり、そこから必要なバンドルを選択できます。
7. **次へ** をクリックします。 **コンポーネントの選択** 画面が表示されます。この画面には、モデル名、ホスト名、サービスタグ、コンポーネントなどの選択したホストのコンポーネントの詳細が表示されます。
8. リストから少なくとも1つのコンポーネントを選択し、**次へ** をクリックして続行します。 **フィルタ** フィールドを使用してコンポーネントの内容をフィルタ、またはコンポーネントデータグリッド内の行をドラッグ&ドロップすることが可能です。 **ファームウェアのダウングレードを許可する** チェックボックスを選択する場合、既存のファームウェアバージョンを利用可能な以前のバージョンにロールバックします。
9. **次へ** をクリックすると、 **ファームウェアアップデートのスケジュール** 画面が表示されます。
  - a) ファームウェアアップデートジョブ名を **ファームウェアアップデートジョブ名** フィールドに入力します。この値は必須です。
  - b) **ファームウェアアップデートの説明** フィールドにファームウェアアップデートの説明を入力します。この値はオプションです。
10. 次のオプションから選択します。
  - a) **今すぐアップデート**。このラジオボタンを選択してファームウェアアップデートジョブを今すぐ実行し、**次へ** をクリックします。
  - b) **アップデートのスケジュール** ボタン。ファームウェアアップデートジョブを後で実行するためにこのラジオボタンを選択し、**次へ** をクリックします。ファームウェアアップデートジョブは、現在の時刻より 30 分後以降にスケジュールされます。
  - c) **カレンダー** ボックスで月と日 を選択します。
  - d) **時刻** テキストボックスに、HH:MM 形式で時刻を入力し、**次へ** をクリックします。時刻は、クライアントが物理的に位置しているローカルタイムゾーンの時刻です。時刻に無効な値を入力すると、アップデートがブロックされます。

11. ファームウェアアップデート詳細のすべてが記載された **サマリ** 画面が表示されます。
12. **終了** をクリックすると、正しく行われたファームウェアアップデートに対して **ファームウェアアップデートジョブが作成されました** というメッセージが表示されます。



## イベントとアラームの理解

イベントとアラームは、OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **設定** タブで編集できます。ここから、イベント掲載レベルの選択、Dell Hosts に対するアラームを有効にしたり、またはデフォルトアラームの復元を行うことができます。各 vCenter に対してイベントとアラームを設定することも、すべての登録済み vCenters に対して一括で設定することもできます。

 **メモ:** Dell イベントを受信するには、アラームとイベントの両方を有効にする必要があります。

4つのイベント掲載レベルがあります。


表 2. イベント掲載レベルの説明

イベント	説明
イベントは掲載しない	OpenManage Integration for VMware vCenter がイベントやアラートを関連する vCenters に転送しないようにします。
全イベントを掲載	OpenManage Integration for VMware vCenter が関連する vCenters に管理下の Dell ホストから受信する非公式イベントも含め、すべてのイベントを掲載します。
重要および警告イベントのみ掲載	重要または警告イベントのみを関連 vCenter に掲載します。
仮想化関連の重要および警告イベントのみを掲載	ホストから受信する仮想化関連イベントのみを、関連 vCenter に掲載します。仮想化関連イベントとは、仮想マシンを実行しているホストにとって最も重要であるとデルが選定したものです。

イベントとアラームを設定する際に、それらを有効にすることができます。有効にすると、重要なハードウェアアラームによって OpenManage Integration for VMware vCenter はホストシステムをメンテナンスモードにし、場合によって仮想マシンを別のホストシステムに移行します。OpenManage Integration for VMware vCenter は管理下 Dell ホストから受信したイベントを転送し、それらのイベントに対するアラームを生成します。このアラームを使い、vCenter に対し、再起動、メンテナンスモードまたは移行などの措置を起動できます。例えば、デュアル電源が故障しアラームが出された場合、その結果の措置としては、そのマシン上の仮想マシンを新しいものに移行することです。


ホストはリクエストされた場合のみ、保守モードを起動または終了します。保守モードを起動するホストがクラスタの一部の場合、停止した仮想マシンを退避するオプションを選択できます。このオプションを選択した場合、停止した仮想マシンは、同一クラスタ内に当該仮想マシンとの互換性のあるホストがない場合を除き、それぞれ別のホストに移行されます。保守モードにある限り、ホストは仮想マシンの使用または起動を行いません。保守モードとなるホストで実行されている仮想マシンは、手動または VMware Distributed Resource Scheduling (DRS) により自動的に、別のホストに移行するかシャットダウンする必要があります。クラスタ外のホスト、または VMware Distributed Resource Scheduling (DRS) が起動されていないクラスタにあるホストでは、重要イベントのために仮想マシンはシャットダウンされる可能性があります。DRS は全リソースプールの使用率を連続的に監視し、使用可能なリソースをビジネスニーズにしたがって各仮想マシンに知的に割り当てます。DRS と Dell Alarms が設定されたクラスタを使って、重要なハードウェアイベントの際に仮想マシンが自動的に移行されるようにしてください。画面上のメッセージの詳細に記載されているのは、この vCenter インスタンスにある、影響を受ける可能性のあるクラスタです。イベントと警報を有効化する前に、クラスタが影響を受けるかどうか確認してください。


デフォルトアラーム設定を復元する必要がある場合は、デフォルトアラームにリセットボタンで行います。このボタンは、製品のアンインストールと再インストールを行わずにデフォルトのアラーム設定を行うことができるので便利です。インストール以降に Dell アラーム設定が変更された場合、このボタンで元に戻すことができます。

 **メモ:** OpenManage Integration for VMware vCenter は、ホストが仮想マシンを正常に実行するのに不可欠な仮想化関連イベントをあらかじめ選択します。Dell ホストアラームはデフォルトで無効にされています。Dell アラームを有効にする場合、クラスタで VMware Distributed Resource Scheduler を使用し、重要イベントを送信する仮想マシンが自動的に移行されるようにする必要があります。

## イベントおよびアラームの設定

イベントおよびアラームの詳細情報については、「[イベントとアラームの理解](#)」を参照してください。イベントおよびアラームの設定は、OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **設定** タブで行います。vCenter の設定の下でイベントおよびアラームの見出しを展開すると、現在の Dell ホストの vCenter アラーム (有効/無効) またはすべてならびにイベント掲載レベルが表示されます。


 **メモ:** Dell PowerEdge 第 12 世代サーバーより前のホストでは、vCenter でホストイベントを表示するため、OMSA で仮想アプライアンスがトラップ宛先に設定されている必要があります。OMSA の詳細については、「[OMSA トラップ宛先の設定](#)」を参照してください。

 **メモ:** Dell イベントを受信するには、アラームとイベントの両方を有効にする必要があります。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter **管理** → **設定** タブの vCenter 設定の隣にあるドロップダウンリストを使用して、この設定の対象にする vCenter サーバー、またはすべての vCenter サーバーを選択します。

登録済みのすべてのサーバーを選択した場合、オプションは空白で表示されます。ここで登録済みのすべての vCenter の設定構成を一度に行うことができます。vCenters に同じ設定が行われているものは表示されます。

2. イベントおよびアラームの右側の **編集** アイコンをクリックします。
3. すべてのハードウェアアラームとイベントを有効化するには、**Dell ホストのアラームを有効にする** チェックボックスを選択します。

 **メモ:** アラームが有効にされている Dell ホストは重大イベントに反応してメンテナンスモードに入るため、必要に応じてアラームを修正することができます。


4. すべての管理されている Dell サーバーで、デフォルトの vCenter アラーム設定を復元するには、**デフォルトのアラームの復元** をクリックします。

変更が有効になるには、最大 1 分間かかることがあります。

5. **イベント掲載レベル** で以下のいずれかを選択します。

- イベントは掲載しない  
このオプションは、ハードウェアイベントをブロックします。
- 全イベントを掲載  
このオプションは、すべてのハードウェアイベントを掲載します。
- 重要および警告イベントのみ掲載  
このオプションは、重要または警告レベルのハードウェアイベントのみを掲載します。
- 仮想化関連の重要および警告イベントのみを掲載  
このオプションは、仮想化関連の重要および警告イベントのみを掲載します。これは、デフォルトのイベント掲載レベルです。

6. この設定をすべての vCenter に適用したい場合、これらの設定を**すべての vCenter に適用する** チェックボックスを選択します。

 **メモ:** このオプションを選択すると、既存のすべての vCenter の設定が上書きされます。

すでに、設定ページで登録済みのすべての vCenter をドロップダウンリストから選択している場合は、このオプションはグレイアウトしています。

7. 保存するには、**適用** をクリックします。

## イベントの表示

イベントを設定すると、イベントタブに設定が表示されます。「[イベントおよびアラームの設定](#)」を参照してください。

ホスト、クラスタ、またはデータセンターのイベントを、イベント タブに表示します。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト**、**データセンター**、または **クラスタ** をクリックします。
2. オブジェクトタブで、イベントを表示したいホスト、データセンター、またはクラスタを選択します。
3. 監視タブで、**イベント** をクリックします。
4. さらにイベント詳細を表示したい場合、特定のイベントを選択します。

## アラームおよびイベントの設定の表示

アラームおよびイベントを設定したら、ホストの vCenter アラームが有効になっているか、また、どのイベントの掲載レベルが選択されているかを、設定タブで表示することができます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **設定** タブで、vCenter 設定の下にある **イベントとアラーム** を展開します。
2. イベントとアラームの下には、次の項目が表示されます。
  - Dell ホスト用の vCenter アラーム。有効、または無効が表示されます。
  - イベント掲載レベル  
表示できるイベント掲載レベルを確認するには、「[イベントとアラームの理解](#)」を参照してください。
3. アラームとイベントの設定は、「[イベントとアラームの設定](#)」を参照してください。

## インベントリおよび保証のデータ取得スケジュールの表示

1. OpenManage Integration for VMware vCenter の **管理** → **設定** タブで、vCenter 設定の下にある **データ取得スケジュール** をクリックします。  
データ取得スケジュール をクリックすると展開して、インベントリおよび保証のスケジュールが表示されます。
2. インベントリまたは保証の取得について、次の設定を表示します。
  - このオプションが有効にされているか、無効にされているかを表示します。
  - 有効にされている曜日を表示します。
  - その日の有効にされている時間を表示します。
3. 再度 **データ取得スケジュール** をクリックすると、情報が 1 行に畳まれて、このオプションが有効になっているか無効になっているかが表示されます。
4. データ取得スケジュールを編集したい場合は、「[インベントリジョブスケジュールの変更](#)」または「[保証ジョブスケジュールの変更](#)」を参照してください。



## 単一ホストの監視

OpenManage Integration for VMware vCenter では、単一ホストの詳細情報を表示することができます。VMware vCenter 内のホストには、左側のナビゲーターからアクセスすることができます。ここにはすべてのベンダーのすべてのホストが表示されます。特定の Dell ホストをクリックすると、より詳しい情報が表示されます。Dell ホストのリストを素早く表示するには、OpenManage Integration for VMware vCenter の左側のナビゲーターで、Dell ホストをクリックします。

- [ホストサマリ詳細の表示](#)
- [ハードウェアの表示: 単一ホストの FRU 詳細](#)
- [ハードウェアの表示: 単一ホストのプロセッサ詳細](#)
- [ハードウェアの表示: 単一ホストの電源装置詳細](#)
- [ハードウェアの表示: 単一ホストのメモリ詳細](#)
- [ハードウェアの表示: 単一ホストの NIC 詳細](#)
- [ハードウェアの表示: 単一ホストの PCI スロット詳細](#)
- [ハードウェアの表示: 単一ホストのリモートアクセスカード詳細](#)
- [単一ホストのストレージ詳細の表示](#)
  - [ストレージの表示: 単一ホストの仮想ディスク詳細](#)
  - [ストレージの表示: 単一ホストの物理ディスク詳細](#)
  - [ストレージの表示: 単一ホストのコントローラ詳細](#)
  - [ストレージの表示: 単一ホストのエンクロージャ詳細](#)
- [単一ホストのファームウェア詳細の表示](#)
- [単一ホストの電源監視の表示](#)
- [単一ホストの保証ステータスの表示](#)
- [Dell ホストのみの素早い表示](#)

## ホストサマリ詳細の表示

ホストサマリページでは、個々のホストのホストサマリ詳細を表示します。このページにはさまざまなポートレットが表示されます。そのうち 2 つは OpenManage Integration for VMware vCenter 専用で、ポートレットは希望する位置にドラッグ & ドロップできます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクトタブで、確認したい特定のホストを選択します。
3. **サマリ** タブをクリックします。
4. ホストサマリの詳細を表示します。

サマリ情報	このページの上部、左上角に、このホストのサマリ情報のリストが表示されます。
システムのアラート	OpenManage Integration for VMware vCenter にアラートがある場合、ステータスエリアの下、ポートレットの上にある黄色のボックスに表示されます。
タスクトレイ	Dell 製品の統合情報がこの右側パネルエリアに表示されます。表示されるのは次の情報です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 最近のタスク</li> <li>- 進行中の作業</li> <li>- アラーム</li> </ul> Dell のアラーム情報がこのタスクトレイポートレットに表示されます。

5. スクロールダウンすると、Dell Server Management ポートレットが表示されます。

サービスタグ	お使いの Dell PowerEdge サーバーのサービスタグです。この番号は、サポートに電話をする際に使用します。
モデル名	サーバーモデル名を表示します。
耐障害性メモリ	これは BIOS 属性であり、サーバーの初回セットアップ中に BIOS で有効化され、サーバーのメモリ操作モードを表示します。メモリ操作モード値を変更するときはシステムを再起動する必要があります。これは、R620、R720、T620、M620 サーバーの ESXi 5.5 バージョン以降に当てはまります。値は次の 4 つです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 有効かつ保護状態：この値は、システムがサポートされており、オペレーティングシステムのバージョンが ESXi 5.5 以降で、BIOS のメモリ操作モードが FRM に設定されていることを示します。</li> <li>- 有効かつ非保護状態：この値はオペレーティングシステムのバージョンが ESXi 5.5 未満のシステムをサポートすることを示しています。</li> <li>- 無効：この値はどのオペレーティングシステムのバージョンのシステムでもサポートし、ここでは BIOS のメモリ操作モードは FRM に設定されていないことを示します。</li> <li>- ブランク：BIOS のメモリ操作モードがサポートされていない場合、FRM 属性が表示されません。</li> </ul>

ID

- ホスト名  
Dell ホストの名前。
- 電源状況  
電源がオンかオフかを表示します。
- iDRAC IP  
iDRAC の IP アドレスを表示します。
- 管理 IP  
管理 IP アドレスを表示します。
- 接続プロファイル  
このホストの接続プロファイル名を表示します。
- モデル  
Dell サーバーのモデルを表示します。
- サービスタグ  
サーバーのサービスタグを表示します。
- 資産タグ  
資産タグを表示します。
- 保証残日数

保証の残りの日数を表示します。

- 最新のインベントリスキャン  
最後のインベントリスキャンの日付と時刻が表示されます。

#### ハイパーバイザー & ファームウェア

- ハイパーバイザー  
ハイパーバイザーのバージョンが表示されます。
- BIOS バージョン  
BIOS のバージョンが表示されます。
- リモートアクセスカードバージョン  
リモートアクセスカードのバージョンを表示します。

#### 管理コンソール

管理コンソールを使って以下のような外部システム管理コンソールを起動します。

- [Remote Access Console \(iDRAC\)](#)  
Integrated Dell Remote Access Controller (iDRAC) のウェブユーザーインターフェースです。  
OMSA リンクを設定するには、「[OSMA リンクの編集](#)」を参照してください。  
OpenManage Server Administrator (OMSA) が設定されている場合は、ユーザーインターフェースを起動します。

ホストアクション [インジケータライトの点滅](#) で、さまざまな間隔で物理サーバーを点滅させるよう設定することができます。

#### 6. Dell ホストの正常性のポートレットの表示：

##### Dell ホストの正常性

コンポーネントの正常性は、メインシステムシャーシ、電源装置、温度、ファン、電圧、プロセッサ、バッテリー、インテリジェーション、ハードウェアログ、電力管理およびメモリなど、すべての主要ホストサーバーコンポーネントに関するグラフ表示です。オプションには以下が含まれます。

- 正常（緑色のチェックマーク） - コンポーネントは通常通りに動作中
- 警告（黄色の三角に感嘆符） - コンポーネントには重大でない不具合があります
- 重要（赤い X 印） - コンポーネントには重大な障害があります
- 不明（疑問符） - コンポーネントステータスは不明

## 管理コンソールの起動

Dell Server Management Portlet から起動できる管理コンソールには、次の 2 つがあります。

- [Remote Access Console \(iDRAC コンソール\)](#)  
Remote Access Console を起動して iDRAC ユーザーインターフェースにアクセスします。
- OMSA コンソール  
OMSA コンソールを起動して、設定ウィザードで入力した OpenManage Server Administrator ユーザーインターフェース URL を起動します。Windows ベースの管理ステーションでサーバー管理者ウェブサーバー用に URL をインストールする必要があります。

## Remote Access Console (iDRAC) の起動

Dell Server Management ポートレットから、iDRAC ユーザーインターフェースを起動できます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter で、ナビゲータエリアのインベントリリストの下にある **ホスト** をクリックします。
2. オブジェクト タブで、希望のホストをダブルクリックします。
3. サマリ タブで、Dell Server Management ポートレットまでスクロールダウンします。
4. **管理コンソール** → **Remote Access Console (iDRAC)** をクリックします。


## 物理サーバーインジケータライトの点滅の設定

大規模なデータセンター環境で物理サーバーを見つけやすくするため、一定期間で前面インジケータライトを点滅させるよう設定できます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータ エリア にある インベントリリスト で、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクト タブで、希望のホストをダブルクリックします。
3. サマリ タブで、Dell Server Management ポートレットまでスクロールダウンします。
4. **ホスト処理** で、**インジケータライトの点滅** を選択します。
5. 次のいずれかを選択します。
  - 点滅を開始し、期間を設定するには **インジケータライト** ダイアログボックスで **点滅オン** をクリックし、タイムアウトドロップダウンリストでタイムアウト間隔を選択して **OK** をクリックします。
  - 点滅を終了するには、**インジケータライト** ダイアログボックスで **点滅オフ** をクリックし、**OK** をクリックします。

# ソフトウェアライセンスの購入およびアップロード

完全製品版にアップグレードするまでは、試用版ライセンスで実行しています。製品の **ライセンスの購入** リンクを使用して Dell ウェブサイトに移動し、ライセンスを購入してください。購入したら、管理コンソールを使用してアップロードします。この方法は、試用版ライセンスをご使用の場合にのみ使用できます。

1. **OpenManage Integration for VMware vCenter** で、次のいずれか1つを実行します。
    - **ライセンス** タブのソフトウェアライセンスの横にある、**ライセンスの購入** をクリックします。
    - はじめにのタブの基本タスクで、**ライセンスの購入** をクリックします。
-  **メモ:** ライセンスは、XML ファイル形式で電子メールで送信されます。ライセンスについては、最初の注文番号を添えて、**download\_software@dell.com** まで電子メールでお問い合わせください。
2. Dell ウェブページでライセンスを購入して既知の場所にファイルを保存します。
  3. ウェブブラウザで、管理コンソールの URL を入力します。  
https://<アプライアンス IP アドレス> の形式を使用してください。
  4. 管理コンソールログインウィンドウで、パスワードを入力し、**ログイン** をクリックします。
  5. ライセンスの **アップロード** をクリックします。
  6. ライセンスのアップロードウィンドウでライセンスファイルに移動して、**参照** をクリックします。
  7. ライセンスファイルを選択して、**アップロード** をクリックします。


## OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンスについて

OpenManage Integration for VMware vCenter には2タイプのライセンスがあります。

<b>評価用ライセンス</b>	試用版には、OpenManage Integration for VMware vCenter によって管理されている5つのホスト（サーバー）の評価用ライセンスが含まれています。これは、11G 以降のバージョンにのみ該当します。これはデフォルトのライセンスであり、90 日間の試用期間限定です。
<b>標準ライセンス</b>	完全製品バージョンには、最高10のvCenters用の標準ライセンスが含まれ、OpenManage Integration for VMware vCenter が管理するホスト接続をいくつでも購入できます。

標準ライセンスから完全な標準ライセンスにアップグレードすると、新しいライセンスのXMLファイルが電子メールで送信されます。ファイルをローカルシステムに保存し、管理コンソールを使って新しいライセンスをアップロードします。ライセンスは、次の情報を示します。

- vCenter 接続ライセンスの最大数 - 最大10の登録済みおよび使用中のvCenter接続が許容されます。
- ホスト接続ライセンスの最大数 - 購入されたホスト接続の数です。
- 使用中 - 使用中のvCenter接続またはホスト接続ライセンスの数です。ホスト接続では、この数は検出およびインベントリされたホスト（またはサーバー）の数を示します。
- 使用可能 - 将来使用できるvCenter接続またはホスト接続ライセンスの数です。

- ライセンスのないホスト - ライセンス数を超えたホスト接続の数です。OpenManage Integration for VMware vCenter は引き続き正常に動作しますが、この警告を解決するには、新しいライセンスを購入してインストールする必要があります。
-  **メモ:** 標準ライセンスの有効期間は3年のみで、追加のライセンスは既存のライセンスに付加され、上書きされません。インベントリが正常に行われた 11g\12g ホストの総数が制限数に到達している場合は、9g\10g を新規、または既存の接続プロファイルに追加することはできません。

## ハードウェアの表示: 単一ホストの FRU 詳細

Dell ホスト情報タブで、単一ホストのフィールドで交換可能なパーツ (FRU) 詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. ホストタブで、ハードウェア : **FRU 詳細** を表示したいホストを選択します。
3. 監視 タブで、**Dell ホスト情報** タブを選択し、ハードウェア : **FRU** サブタブで、次を表示します。

パーツ名	FRU のパーツ名を表示します。
パーツ番号	FRU のバージョン番号を表示します。
製造元	メーカー名を表示します。
シリアル番号	メーカーのシリアル番号を表示します。
<b>Manufacture Date</b>	製造日を表示します。



## ハードウェアの表示: 単一ホストのプロセッサ詳細

Dell ホスト情報タブで、単一ホストのプロセッサ詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクト タブで、プロセッサ詳細を表示したいホストを選択します。
3. 監視 タブで、**Dell ホスト情報** タブを選択し、ハードウェア：プロセッササブタブで、次を表示します。

ソケット	スロット番号を表示します。
速度	現在の速度を表示します。
ブランド	プロセッサのブランドを表示します。
バージョン	プロセッサのバージョンを表示します。
コア	このプロセッサ内のコアの数が表示されます。



## ハードウェアの表示: 単一ホストの電源装置 詳細

Dell ホスト情報タブで、単一ホストの仮想電源装置詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクトタブで、ハードウェア：電源装置詳細を表示したいホストを選択します。
3. 監視タブで、**Dell ホスト情報** タブを選択し、**ハードウェア：電源装置** サブタブで、次を表示します。

**種類** 電源装置のタイプが表示されます。電源装置には、次のタイプがあります。

- 不明
- リニア
- スイッチング
- バッテリ
- UPS
- コンバータ
- レギュレータ
- AC
- DC
- VRM

**場所** 電源装置の場所、たとえばスロット 1 などを表示します。

**出力 (ワット)** 出力がワット単位で表示されます。



## ハードウェアの表示: 単一ホストのメモリ詳細

Dell ホスト情報タブで、単一ホストのメモリ詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクト タブで、ハードウェア：メモリ詳細 を表示したいホストを選択します。
3. 監視 タブで、**Dell ホスト情報** タブを選択し、**ハードウェア：メモリ** サブタブで、次を表示します。

メモリスロット	使用済み、合計、および使用可能なメモリ数が表示されます。
メモリ容量	インストール済みメモリ、総メモリ容量、および使用可能メモリが表示されます。
スロット	DIMM スロットを表示します。
サイズ	メモリサイズを表示します。
種類	メモリのタイプを表示します。



## ハードウェアの表示: 単一ホストの NIC 詳細

Dell ホスト情報タブで、単一ホストのネットワークインタフェースカード (NIC) 詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクトタブで、ハードウェア : **NIC 詳細** を表示したいホストを選択します。
3. 監視 タブで、**Dell ホスト情報** タブを選択し、**ハードウェア : NIC** サブタブで、次を表示します。

<b>合計</b>	使用可能なネットワークインタフェースカードの合計数が表示されます。
<b>名前</b>	NIC 名を表示します。
<b>製造元</b>	メーカー名のみを表示します。
<b>MAC アドレス</b>	NIC の MAC アドレスが表示されます。



## ハードウェアの表示: 単一ホストの PCI スロット

Dell ホスト情報タブで、単一ホストの PCI スロット詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクトタブで、ハードウェア : **PCI スロット詳細** を表示したいホストを選択します。
3. 監視タブで、**Dell ホスト情報** タブを選択し、ハードウェア : **PCI スロット** サブタブで、次を表示します。

<b>PCI スロット</b>	使用済み、合計、および使用可能な PCI スロットが表示されます。
<b>スロット</b>	スロットを表示します。
<b>製造元</b>	PCI スロットのメーカー名を表示します。
<b>説明</b>	PCI デバイスの説明を表示します。
<b>種類</b>	PCI スロットタイプを表示します。
<b>幅</b>	データバス幅を表示します（該当する場合）。



## ハードウェアの表示: 単一ホストのリモートアクセスカード詳細

Dell ホスト情報タブで、単一ホストのリモートアクセスカード詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。


1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクト タブで、ハードウェア：リモートアクセスカードの詳細を表示したいホストを選択します。
3. 監視 タブで、**Dell ホスト情報** タブを選択し、ハードウェア：リモートアクセスカードサブタブで、次を表示します。

<b>IP アドレス</b>	リモートアクセスカードの IP を表示します。
<b>MAC アドレス</b>	リモートアクセスカードの MAC アドレスを表示します。
<b>RAC タイプ</b>	リモートアクセスカードのタイプを表示します。
<b>URL</b>	このホストに関連付けられた動作している iDRAC の URL を表示します。



## 単一ホストのストレージ詳細の表示

Dell ホスト情報タブで、単一ホストのストレージ詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。このページには、表示ドロップダウンリストで選択した項目により異なるオプションが表示されます。物理ディスクを選択した場合、別のドロップダウンリストが表示されます。この新しいドロップダウンリストはフィルタと呼ばれ、物理ディスクオプションをフィルタすることができます。

 **メモ:** ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクトタブで、**ストレージ: 物理ディスク詳細** を表示したいホストを選択します。
3. **監視** タブで、**Dell ホスト情報** タブを選択し、**ストレージサブタブ**で、次を表示します。

**ストレージ**                      仮想ディスク、コントローラ、エンクロージャ、および関連する物理ディスク（グローバルホットスベアおよび専用ホットスベア数とともに）の数が表示されます。表示ドロップダウンリストから選択するとき、オプションがここでハイライトされます。

**表示**                              このホストで表示するページオプションが表示されます。

- [仮想ディスク](#)
- [物理ディスク](#)
- [コントローラ](#)
- [エンクロージャ](#)

## ストレージの表示: 単一ホストの仮想ディスク詳細

ホストストレージページのストレージオプションは、表示ドロップダウンリストで選択した項目によって異なります。

表示ドロップダウンリストから仮想ディスクを選択した場合、これらのオプションが表示されます:

<b>名前</b>	仮想ディスクの名前を表示します。
<b>デバイス FQDD</b>	FQDD が表示されます。
<b>物理ディスク</b>	仮想ディスクの場所のある物理ディスクを表示します。
<b>容量</b>	仮想ディスクの容量が表示されます。
<b>レイアウト</b>	仮想ストレージのレイアウトタイプ、つまりこの仮想ディスクに設定された RAID のタイプが表示されます。
<b>メディアの種類</b>	SSD または HDD が表示されます。
<b>コントローラ ID</b>	コントローラの ID を表示します。
<b>デバイス ID</b>	デバイス ID を表示します。

<b>ストライプサイズ</b>	ストライプサイズは、単一のディスク上で各ストライプが消費する容量の合計を意味します。
<b>バスプロトコル</b>	仮想ディスクに含まれる物理ディスクが使用する技術を表示します。可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- SCSI</li> <li>- SAS</li> <li>- SATA</li> </ul>
<b>デフォルト読み取りポリシー</b>	コントローラでサポートされているデフォルト読み取りポリシーです。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 先読み</li> <li>- 先読みなし</li> <li>- 適応先読み</li> <li>- 読み取りキャッシュが有効</li> <li>- 読み取りキャッシュが無効</li> </ul>
<b>デフォルト書き込みポリシー</b>	コントローラでサポートされているデフォルト書き込みポリシーです。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- ライトバック</li> <li>- ライトバックの強制</li> <li>- ライトバックが有効</li> <li>- ライトスルー</li> <li>- 書き込みキャッシュ有効、保護</li> <li>- 書き込みキャッシュが無効</li> </ul>
<b>キャッシュポリシー</b>	キャッシュポリシーが有効化されているかどうかが表示されます。

## ストレージの表示: 単一ホストの物理ディスク詳細

ホストストレージページのストレージオプションは、表示ドロップダウンリストで選択した項目によって異なります。このオプションを選択すると、フィルタドロップダウンリストが表示されます。次のオプションで物理ディスクをフィルタできます：

- すべての物理ディスク
- グローバルホットスペア
- 専用ホットスペア
- 最後のオプションは仮想ディスクという名のカスタムを表示します。

表示ドロップダウンリストから物理ディスクを選択した場合、これらのオプションが表示されます：

<b>名前</b>	物理ディスクの名前を表示します。
<b>デバイス FQDD</b>	デバイス FQDD が表は
<b>容量</b>	物理ディスクの容量を表示します。
<b>ディスクステータス</b>	物理ディスクのステータスを表示します。次のステータスがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- オンライン</li> <li>- 準備完了</li> </ul>

- 劣化
- エラー
- オフライン
- 再構成中
- 互換性なし
- 削除済み
- クリア済み
- SMART アラートが検知されました
- 不明
- 外部
- サポートなし

<b>設定済み</b>	ディスクが構成されているかどうかが表示されます。
<b>ホットスペアのタイプ</b>	<p>ホットスペアのタイプを表示します。次のタイプがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- いいえ いいえ、はホットスペアがないことを意味します。</li> <li>- <b>Global</b> (グローバル) グローバルホットスペアは、ディスクグループの一部である使用されていないバックアップディスクです。</li> <li>- 専用 専用ホットスペアは、単一の仮想ディスクに割り当てられた未使用のバックアップディスクです。仮想ディスク内の物理ディスクが故障すると、ホットスペアがアクティブ化されて故障した物理ディスクと交換されるため、システムが中断したり、ユーザー介入が必要になることもありません。</li> </ul>
<b>仮想ディスク</b>	仮想ディスクの名前を表示します。
<b>バスプロトコル</b>	バスプロトコルを表示します。
<b>コントローラ ID</b>	コントローラの ID を表示します。
<b>コネクタ ID</b>	コネクタ ID を表示します。
<b>エンクロージャ ID</b>	エンクロージャ ID を表示します。
<b>デバイス ID</b>	デバイス ID を表示します。
<b>モデル</b>	物理ストレージディスクのモデル番号を表示します。
<b>パーツ番号</b>	ストレージのパーツ番号を表示します。
<b>シリアル番号</b>	ストレージのシリアル番号を表示します。
<b>ベンダー</b>	ストレージのベンダー名を表示します。

## ストレージの表示: 単一ホストのコントローラ詳細

ホストストレージページのストレージオプションは、表示ドロップダウンリストで選択した項目によって異なります。

表示ドロップダウンリストからコントローラを選択した場合、これらのオプションが表示されます：

<b>コントローラ ID</b>	コントローラの ID を表示します。
<b>名前</b>	コントローラの名前が表示されます。
<b>デバイス FQDD</b>	デバイスの FQDD を表示します。
<b>ファームウェアバージョン</b>	ファームウェアバージョンを表示します。
<b>ファームウェアの最小要件</b>	ファームウェアの最小要件が表示されます。
<b>ドライババージョン</b>	ドライバのバージョンが表示されます。
<b>巡回読み取り状況</b>	巡回読み取り状況が表示されます。
<b>キャッシュサイズ</b>	キャッシュサイズが表示されます。

## ストレージの表示: 単一ホストのエンクロージャ詳細

ホストストレージページのストレージオプションは、表示ドロップダウンリストで選択した項目によって異なります。

表示ドロップダウンリストからエンクロージャを選択した場合、これらのオプションが表示されます：

<b>コントローラ ID</b>	コントローラの ID を表示します。
<b>コネクタ ID</b>	コネクタ ID を表示します。
<b>エンクロージャ ID</b>	エンクロージャ ID を表示します。
<b>名前</b>	エンクロージャ名を表示します。
<b>デバイス FQDD</b>	デバイス FQDD が表示されます。
<b>サービスタグ</b>	サービスタグを表示します。

## 単一ホストのファームウェア詳細の表示

Dell ホスト情報タブで、単一ホストの詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行します。ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。このホストページを使用すると、検索フィルタを使って、ファームウェア情報の CSV ファイルをエクスポートできます。


1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクトタブで、ファームウェア詳細を表示したいホストを選択します。
3. 監視タブで、**Dell ホスト情報** タブを選択し、ファームウェアサブタブで、次を表示します。

名前	このホスト上のすべてのファームウェアの名前を表示します。
種類	ファームウェアの種類を表示します。
バージョン	このホスト上のすべてのファームウェアのバージョンを表示します。
インストール日	インストール日を表示します。



## 単一ホストの電源監視の表示

Dell ホスト情報タブで、単一ホストの電源監視詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

 **メモ:** ここで使用するホスト時刻は、ホストが位置する現地時刻を指しています。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクトタブで、電源監視の詳細を表示したいホストを選択します。
3. 監視タブで、**Dell ホスト情報ホスト** タブを選択し、電源監視サブタブで、次を表示します。

一般情報	電力バジェットおよび現行プロファイル名が表示されます。
しきい値	警告および失敗のしきい値をワット単位で表示します。
予約電力容量	インスタントおよびピーク予約電力容量をワット単位で表示します。

### エネルギー統計

タイプ:	エネルギー統計タイプを表示します。
測定開始時刻 (ホスト時刻)	ホストが電力消費を開始した日付と時刻を表示します。
測定終了時刻 (ホスト時刻)	ホストが電力消費を停止した日付と時刻を表示します。
読み取り値	この瞬時値は、1 分間の測定値の平均です。
タイプ:	エネルギー統計タイプを表示します。
測定開始時刻 (ホスト時刻)	ホストのピーク電力が開始した日付と時刻を表示します。
ピーク時刻 (ホスト時刻)	ホストのピーク電流の日付と時刻を表示します。
ピーク読み取り値	システムピーク電力統計は、システムが消費するピーク電力です (W)。



## 単一ホストの保証ステータスの表示

保証ステータスを表示するには、保証ジョブを実行する必要があります。「[保証ジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

Dell ホスト情報タブで、単一ホストの保証ステータス詳細を表示します。保証ステータス ページでは、保証失効日付を監視できます。保証設定は、保証スケジュールを有効化/無効化し、最小日数しきい値アラートを設定することにより、Dell オンラインからサーバー保証情報が取得される時点を制御します。「[保証履歴](#)」を参照してください。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト** をクリックします。
2. オブジェクト タブで、保証サマリ詳細を表示したいホストを選択します。
3. 監視 タブで、**Dell ホスト情報** タブを選択し、保証サマリ サブタブで、次を表示します。

<b>保証の更新ボタン</b>	このボタンを使って、保証を更新します。「 <a href="#">ホスト保証の更新</a> 」を参照してください。
<b>プロバイダ</b>	保証のプロバイダ名を表示します。
<b>説明</b>	説明が表示されます。
<b>状態</b>	ホストの保証ステータスを表示します。次のステータスがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- アクティブ ホストが保証されており、いずれのしきい値も超過していません。</li> <li>- 警告 ホストはアクティブですが、警告しきい値を超過しています。</li> <li>- 重要 警告と同様ですが、重要なしきい値です。</li> <li>- 期限切れ このホストの保証期限が切れています。</li> <li>- 不明 保証ジョブが実行されていない、データ取得中にエラーが発生した、システムに保証がない、のいずれかであるため、OpenManage Integration for VMware vCenter が保証ステータスを取得できません。</li> </ul>
<b>開始日</b>	保証の開始日を表示します。
<b>終了日</b>	保証の終了日を表示します。
<b>残日数</b>	保証の残りの日数を表示します。
<b>最終更新日</b>	保証が前回更新された日時。

## ホスト保証の更新

ホスト保証詳細ページからのホスト保証が更新されます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter のナビゲータで、**ホスト**をクリックします。
2. オブジェクトタブで、ホスト保証を更新する特定のホストを選択します。
3. モニタタブで、**Dell ホスト情報**タブを選択して、保証サブタブで**保証の更新**を選択します。これにより、保証を更新できる Web ページに移動します。

## Dell ホストのみの素早い表示

Dell ホストのみを素早く表示したいときは、OpenManage Integration for VMware vCenter でこれを行うことができます。ナビゲータで Dell ホストを選択します。

1. VMware vCenter のホームページで、OpenManage Integration アイコンをクリックします。
2. ナビゲータの OpenManage Integration for VMware vCenter の下にある Dell ホストをクリックします。
3. Dell ホストタブに、次の情報が表示されます。

ホスト名	各 Dell ホストの IP アドレスを使用したリンクが表示されます。特定のホストリンクをクリックして Dell ホスト情報を表示します。
vCenter	この Dell ホストの vCenter IP アドレスを表示します。
クラスタ	この Dell ホストがクラスタ内にある場合、そのクラスタ名がここに表示されます。
接続プロファイル	接続プロファイルの名前を表示します。



## クラスタおよびデータセンターでのホスト監視


OpenManage Integration for VMware vCenter を使用すると、データセンターまたはクラスタに含まれたすべてのホストに関する詳細情報を表示できます。これらのページでは、データグリッドの行のヘッダーをクリックすることによりデータを並べ替えることができます。データセンターおよびクラスタページでは、CSV ファイルに情報をエクスポートし、データグリッドでフィルタ/検索機能を提供します。詳細は次の通りです。

- [ホスト概要詳細の表示](#)
- [ハードウェアの表示：FRU](#)
- [ハードウェアの表示：プロセッサ詳細](#)
- [ハードウェアの表示：電源装置詳細](#)
- [ハードウェアの表示：メモリ詳細](#)
- [ハードウェアの表示：NIC](#)
- [ハードウェアの表示：PCI スロット詳細](#)
- [ハードウェアの表示：リモートアクセスカード詳細](#)
- [ストレージの表示：物理ディスクの詳細](#)
- [ストレージの表示：仮想ディスク詳細](#)
- [ファームウェア詳細の表示](#)
- [電源監視の表示](#)
- [保証サマリ詳細の表示](#)




# データセンターとクラスタの概要詳細の表示

Dell データセンター/クラスタ情報タブで、データセンターまたはクラスタのホストの詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行します。表示されるデータは、どのビューのデータにアクセスしているかによって異なります。ハードウェアビューは OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

 **メモ:** データセンターとクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートすることが可能で、データグリッドでのフィルタ/検索機能が提供されます。

1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクトタブで、ホスト詳細を表示するホスト、データセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** → **概要** タブを選択して、詳細を表示します。

 **メモ:** 詳細の完全なリストを表示するには、データグリッドから特定のホストを選択します。

**データセンター/** 次が表示されます：

#### クラスタ情報

- データセンター/クラスタ名
- Dell 管理下ホストの数
- 合計エネルギー消費量  
このリンクをクリックすると、このデータセンターまたはクラスタの[電源監視](#)ページが表示されます。

**ハードウェアリ** 次が表示されます：

#### ソース

- 合計プロセッサ数  
このリンクをクリックすると、[プロセッサ詳細](#)ページが表示されます。
- メモリ合計  
このリンクをクリックすると、このデータセンターまたはクラスタの[メモリ詳細](#)ページが表示されます。
- 仮想ディスク容量  
このリンクをクリックすると、このデータセンターまたはクラスタの[仮想ディスク](#)ページが表示されます。

#### 保証サマリ

選択したホストの保証ステータスを表示します。次のステータスがあります。

- 期限切れ保証
- アクティブな保証
- 不明な保証

このリンクから[保証サマリ](#)ページに移動できます。

#### ホスト

ホスト名を表示します。

#### サービスタグ

ホストのサービスタグを表示します。

<b>モデル</b>	Dell PowerEdge のモデルを表示します。
<b>アセットタグ</b>	構成すると、アセットタグが表示されます。
<b>シャーシサービスタグ</b>	シャーシのサービスタグを表示します (ある場合)。
<b>OS バージョン</b>	ESXi または ESX の OS バージョンを表示します。
<b>場所</b>	ブレードのみ: ロケーションにはスロットロケーションが表示されます。そうでない場合は、ロケーションには「該当なし」と表示されます。
<b>iDRAC IP</b>	iDRAC の IP アドレスを表示します。
<b>サービスコンソール IP</b>	サービスコンソールの IP を表示します。
<b>CMC URL</b>	ブレードのみ: CMC URL はシャーシ URL です。そうでない場合、「該当なし」と表示されます。
<b>CPU</b>	CPU の数を表示します。
<b>メモリ</b>	ホストのメモリを表示します。
<b>電源状況</b>	ホストに電源があるかを表示します。
<b>最新のインベントリ</b>	最後のインベントリジョブの日付と時刻が表示されます。
<b>接続プロファイル</b>	接続プロファイルの名前を表示します。
<b>リモートアクセスカードバージョン</b>	リモートアクセスカードのバージョンを表示します。
<b>BIOS ファームウェアバージョン</b>	BIOS のファームウェアバージョンを表示します。

## ハードウェアの表示: データセンターまたはクラスタの FRU

Dell データセンター/クラスタ情報タブでデータセンターまたはクラスタのフィールドで交換可能なパーツ (FRU) 詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。データセンターおよびクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートし、データグリッドにフィルタ/検索機能を提供します。表示するデータは、データにアクセスするビューによって異なります。ハードウェアビューでは、OMSA および iDRAC からデータを直接レポートします。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクトタブで、ハードウェア: **FRU 詳細** を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、ハードウェア: **FRU** サブタブで、次を表示します。

<b>Host (ホスト)</b>	ホスト名を表示します。
<b>サービスタグ</b>	サービスタグを表示します。
<b>パーツ名</b>	FRU のパーツ名を表示します。
<b>パーツ番号</b>	FRU のバージョン番号を表示します。
<b>製造元</b>	メーカー名を表示します。
<b>シリアル番号</b>	メーカーのシリアル番号を表示します。
<b>Manufacture Date</b>	製造日を表示します。



## ハードウェアの表示: データセンターまたはクラスタのプロセッサ詳細

Dell データセンター/クラスタ情報タブでデータセンター、またはクラスタのプロセッサ詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。データセンターおよびクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートし、データグリッドにフィルタ/検索機能を提供します。ハードウェアビューでは、OMSA および iDRAC からデータを直接レポートします。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

1. VMware vCenter のナビゲータ で、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. データセンターまたはクラスタタブで、プロセッサ詳細 を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視 タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、ハードウェア : プロセッササブタブで、次を表示します。

<b>Host (ホスト)</b>	ホスト名を表示します。
<b>サービスタグ</b>	サービスタグを表示します。
<b>ソケット</b>	ソケット番号を表示します。
<b>速度</b>	現在の速度を表示します。
<b>ブランド</b>	プロセッサのブランドを表示します。
<b>バージョン</b>	プロセッサのバージョンを表示します。
<b>コア</b>	このプロセッサ内のコアの数が表示されます。



## ハードウェアの表示: データセンターとクラスタの電源装置詳細

Dell データセンターまたはクラスタ情報タブで、データセンターまたはクラスタの仮想電源装置の詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。データセンターとクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートすることが可能で、データグリッドでのフィルタ/検索機能が提供されます。ハードウェアビューは OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください

1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクトタブで、ハードウェア：電源装置詳細を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、ハードウェア：電源装置サブタブで、次を表示します。

ホスト	ホストの名前を表示します。
サービスタグ	サービスタグを表示します。
種類	電源装置のタイプが表示されます。電源装置には、次のタイプがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 不明</li> <li>- リニア</li> <li>- スイッチング</li> <li>- バッテリ</li> <li>- UPS</li> <li>- コンバータ</li> <li>- レギュレータ</li> <li>- AC</li> <li>- DC</li> <li>- VRM</li> </ul>
場所	電源装置の場所、たとえばスロット 1 などを表示します。
出力 (ワット)	出力がワット単位で表示されます。
状態	電源装置の状態が表示されます。次の状態があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- その他</li> <li>- 不明</li> <li>- OK</li> <li>- 重要</li> <li>- 非重要</li> <li>- 回復可能</li> <li>- 回復不可能</li> </ul>

- 高
- 低

## ハードウェアの表示: データセンターとクラスタのメモリ詳細

Dell データセンター/クラスタ情報タブで、データセンターまたはクラスタのメモリ詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。データセンターとクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートすることが可能で、データグリッドでのフィルタ/検索機能が提供されます。ハードウェアビューは OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください

1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクトタブで、ハードウェア：メモリ詳細 を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、ハードウェア：メモリ サブタブで、次を表示します。

ホスト	ホスト名を表示します。
サービスタグ	サービスタグを表示します。
スロット	DIMM スロットを表示します。
サイズ	メモリサイズを表示します。
種類	メモリのタイプを表示します。



## ハードウェアの表示: データセンターとクラスタの NIC 詳細

Dell データセンター/クラスタ情報タブで、データセンターまたはクラスタのネットワークインタフェースカード (NIC) の詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。データセンターとクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートすることが可能で、データグリッドでのフィルタ/検索機能が提供されます。ハードウェアビューは OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください

1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクトタブで、ハードウェア: **NIC 詳細** を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、ハードウェア: **NIC** サブタブで、次を表示します。

ホスト	ホスト名を表示します。
サービスタグ	サービスタグを表示します。
名前	NIC 名を表示します。
製造元	メーカー名のみを表示します。
MAC アドレス	NIC の MAC アドレスが表示されます。



## ハードウェアの表示: データセンターとクラスタの PCI スロット詳細

Dell データセンター/クラスタ情報タブで、データセンターまたはクラスタの PCI スロット詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。データセンターとクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートすることが可能で、データグリッドでのフィルタ/検索機能が提供されます。ハードウェアビューは OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。[「インベントリジョブを今すぐ実行する」](#)を参照してください

1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクトタブで、ハードウェア: **PCI スロット詳細** を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、ハードウェア: **PCI スロット** サブタブで、次を表示します。

ホスト	ホスト名を表示します。
サービスタグ	サービスタグを表示します。
スロット	スロットを表示します。
製造元	PCI スロットのメーカー名を表示します。
説明	PCI デバイスの説明を表示します。
種類	PCI スロットタイプを表示します。
幅	データバス幅を表示します (該当する場合)。



## ハードウェアの表示：リモートアクセスカード詳細

Dell データセンター/クラスタ情報タブで、データセンターまたはクラスタのリモートアクセスカードの詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。データセンターおよびクラスタページでは、CSV ファイルに情報をエクスポートし、データグリッドでフィルタ/検索機能を提供します。ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータが直接報告されます。[「インベントリジョブを今すぐ実行する」](#)を参照してください。


1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクトタブで、ハードウェア：リモートアクセスカードの詳細を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、ハードウェア：リモートアクセスカードサブタブで、次を表示します。

<b>Host (ホスト)</b>	ホスト名を表示します。
<b>サービスタグ</b>	サービスタグを表示します。
<b>IP アドレス</b>	リモートアクセスカードの IP を表示します。
<b>MAC アドレス</b>	リモートアクセスカードの MAC アドレスを表示します。
<b>RAC タイプ</b>	リモートアクセスカードのタイプを表示します。
<b>URL</b>	このホストに関連付けられた動作している iDRAC の URL を表示します。




## ストレージの表示: データセンターとクラスタの物理ディスク


Dell データセンター/クラスタ情報タブでデータセンターまたはクラスタの物理ストレージ詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。データセンターおよびクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートし、データグリッドにフィルタ/検索機能を提供します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

 **メモ:** ハードウェアビューには OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。

1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクトタブで、**ストレージ: 物理ディスク詳細** を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. **監視** タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、**ストレージ: 物理ディスク** サブタブで、次を表示します。

 **メモ:** 詳細をすべて表示するには、特定のホストをデータグリッドから選択します。

<b>Host (ホスト)</b>	ホストの名前を表示します。
<b>サービスタグ</b>	サービスタグを表示します。
<b>容量</b>	物理ディスクの容量を表示します。
<b>ディスクステータス</b>	物理ディスクのステータスを表示します。次のステータスがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- オンライン</li> <li>- 準備完了</li> <li>- 劣化</li> <li>- エラー</li> <li>- オフライン</li> <li>- 再構成中</li> <li>- 互換性なし</li> <li>- 削除済み</li> <li>- クリア済み</li> <li>- SMART アラートが検知されました</li> <li>- 不明</li> <li>- 外部</li> <li>- サポートなし</li> </ul>

 **メモ:** これらの警告の詳細に関しては、[http://support.dell.com/support/edocs/software/svradmin/5.1/en/omss\\_ug/html/adprin.html](http://support.dell.com/support/edocs/software/svradmin/5.1/en/omss_ug/html/adprin.html) にある、『*Dell OpenManage™ Server Administrator* ストレージ管理ユーザズガイド』を参照してください。


**モデル番号**                      物理ストレージディスクのモデル番号を表示します。

<b>Host (ホスト)</b>	ホスト名を表示します。
<b>最新のインベントリ状態</b>	インベントリが最後に実行された日、月、時刻が表示されます。 ホストのステータスを表示します。
<b>コントローラ ID</b>	コントローラの ID を表示します。
<b>コネクタ ID</b>	コネクタ ID を表示します。
<b>エンクロージャ ID</b>	エンクロージャ ID を表示します。
<b>デバイス ID</b>	デバイス ID を表示します。
<b>バスプロトコル</b>	バスプロトコルを表示します。
<b>ホットスペアのタイプ</b>	ホットスペアのタイプを表示します。次のタイプがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- いいえ いいえ、はホットスペアがないことを意味します。</li> <li>- <b>Global (グローバル)</b> グローバルホットスペアは、ディスクグループの一部である使用されていないバックアップディスクです。</li> <li>- <b>専用</b> 専用ホットスペアは、単一の仮想ディスクに割り当てられた未使用のバックアップディスクです。仮想ディスク内の物理ディスクが故障すると、ホットスペアがアクティブ化されて故障した物理ディスクと交換されるため、システムが中断したり、ユーザー介入が必要になることもありません。</li> </ul>
<b>パーツ番号</b>	ストレージのパーツ番号を表示します。
<b>シリアル番号</b>	ストレージのシリアル番号を表示します。
<b>ベンダー名</b>	ストレージのベンダー名を表示します。

## ストレージの表示: データセンターとクラスタの仮想ディスク詳細

データセンターまたはクラスタの仮想ストレージの詳細は、Dell データセンター/クラスタ情報タブで表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行します。表示されるデータは、どのビューのデータにアクセスしているかによって異なります。ハードウェアビューは OMSA および iDRAC からのデータを直接報告します。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。データセンターとクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートすることが可能で、データグリッドでのフィルタ/検索機能が提供されます。

1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクトタブで、ストレージ: 仮想ディスク詳細を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視 タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、ストレージ: 仮想ディスクサブタブで、次を表示します。

 **メモ:** 詳細の完全なリストを表示するには、データグリッドから特定のホストを選択します。

ホスト	ホストの名前を表示します。
サービスタグ	サービスタグを表示します。
名前	仮想ディスクの名前を表示します。
物理ディスク	仮想ディスクの場所のある物理ディスクを表示します。
容量	仮想ディスクの容量が表示されます。
レイアウト	仮想ストレージのレイアウトタイプ、つまりこの仮想ディスクに設定された RAID のタイプが表示されます。
ホスト	ホスト名を表示します。
名前	仮想ディスク名を表示します。
最新のインベントリ	インベントリが最後に実行された曜日、日付と時刻が表示されます。
コントローラ ID	コントローラの ID を表示します。
デバイス ID	デバイス ID を表示します。
メディアの種類	SSD または HDD が表示されます。
バスプロトコル	仮想ディスクに含まれる物理ディスクが使用する技術を表示します。可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- SCSI</li> <li>- SAS</li> <li>- SATA</li> </ul>

- ストライプサイズ** ストライプサイズは、単一のディスク上で各ストライプが消費する容量の合計を意味します。
- デフォルト読み取りポリシー** コントローラでサポートされているデフォルト読み取りポリシーです。次のオプションがあります。
- 先読み
  - 先読みなし
  - 適応先読み
  - 読み取りキャッシュが有効
  - 読み取りキャッシュが無効
- デフォルト書き込みポリシー** コントローラでサポートされているデフォルト書き込みポリシーです。次のオプションがあります。
- ライトバック
  - ライトバックの強制
  - ライトバックが有効
  - ライトスルー
  - 書き込みキャッシュ有効、保護
  - 書き込みキャッシュが無効
- ディスクキャッシュポリシー** コントローラでサポートされているデフォルトキャッシュポリシーです。次のオプションがあります。
- 有効  
キャッシュ I/O です。
  - 無効  
ダイレクト I/O です。

## データセンターとクラスタのファームウェア詳細の表示

Dell ホストタブでデータセンター、またはクラスタのファームウェア詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。データセンターおよびクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートし、データグリッドにフィルタ/検索機能を提供します。ハードウェアビューでは、OMSA および iDRAC からデータを直接レポートします。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクト タブで、ファームウェア詳細 を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視 タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、ファームウェアサブタブで、次を表示します。

<b>Host (ホスト)</b>	ホストの名前を表示します。
<b>サービスタグ</b>	サービスタグを表示します。
<b>名前</b>	このホスト上のすべてのファームウェアの名前を表示します。
<b>バージョン</b>	このホスト上のすべてのファームウェアのバージョンを表示します。



## データセンターとクラスタの保証サマリ詳細の表示

保証サマリを表示するには、保証ジョブを実行する必要があります。「[保証ジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

Dell データセンター/クラスタ情報タブでデータセンター、またはクラスタの保証サマリ詳細を表示します。データセンターとクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートすることが可能で、データグリッドでのフィルタ/検索機能が提供されます。保証サマリ ページでは、保証期限日付を監視できます。保証設定は、保証スケジュールを有効化/無効化し、最小日数しきい値アラートを設定することにより、Dell オンラインからサーバー保証情報が取得される時点を制御します。「[保証履歴](#)」を参照してください。

1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクトタブで、保証サマリの詳細を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、保証サマリ サブタブで、次を表示します。


<b>保証サマリ</b>	アイコンを使うと、各ステータスカテゴリのホスト数を視覚的に示すホスト保証サマリが表示されます。
<b>ホスト</b>	ホストの名前を表示します。
<b>サービスタグ</b>	ホストのサービスタグを表示します。
<b>説明</b>	説明が表示されます。
<b>保証ステータス</b>	ホストの保証ステータスを表示します。次のステータスがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- アクティブ ホストが保証されており、いずれのしきい値も超過していません。</li> <li>- 警告 ホストはアクティブですが、警告しきい値を超過しています。</li> <li>- 重要 警告と同様ですが、重要なしきい値です。</li> <li>- 期限切れ このホストの保証期限が切れています。</li> <li>- 不明 保証ジョブが実行されていない、データ取得中にエラーが発生した、システムに保証がない、のいずれかであるため、<b>OpenManage Integration for VMware vCenter</b> が保証ステータスを取得できません。</li> </ul>
<b>残日数</b>	保証の残りの日数を表示します。



## データセンターおよびクラスタの電源監視の表示

Dell データセンター/クラスタ情報タブで、データセンターまたはクラスタの電源監視詳細を表示します。このページで情報を表示させるには、インベントリジョブを実行する必要があります。データセンターおよびクラスタページでは、情報を CSV ファイルにエクスポートし、データグリッドにフィルタ/検索機能を提供します。ハードウェアビューでは、OMSA および iDRAC からデータを直接レポートします。「[インベントリジョブを今すぐ実行する](#)」を参照してください。

1. VMware vCenter のナビゲータで、**vCenter** をクリックします。
2. **データセンター** または **クラスタ** をクリックします。
3. オブジェクトタブで、電源監視の詳細を表示したいデータセンター、またはクラスタを選択します。
4. 監視タブで、**Dell データセンター/クラスタ情報** タブを選択し、電源監視サブタブで、次を表示します。

 **メモ:** 詳細をすべて表示するには、特定のホストをデータグリッドから選択します。

<b>Host (ホスト)</b>	ホストの名前を表示します。
<b>サービスタグ</b>	サービスタグを表示します。
<b>現在のプロファイル</b>	お使いのシステムのパフォーマンスを最大化し、電力を節約するための、電源プロファイルを表示します。
<b>エネルギー消費量</b>	ホストのエネルギー消費量を表示します。
<b>ピーク予約容量</b>	電力の PEEK 予約容量を表示します。
<b>Power Budget</b>	このホストの電力上限を表示します。
<b>Warning Threshold</b>	お使いのシステムの温度プローブの警告しきい値の、設定最大値を表示します。
<b>Failure Threshold</b>	お使いのシステムの温度プローブのエラー警告しきい値の、設定最大値を表示します。
<b>インスタント予約容量</b>	特定時点でのホストのヘッドルーム容量を表示します。
<b>エネルギー消費量開始日</b>	ホストが電力消費を開始した日付と時刻を表示します。
<b>エネルギー消費量終了日</b>	ホストが電力消費を停止した日付と時刻を表示します。
<b>システムピーク電力</b>	ホストのピーク電力を表示します。
<b>システムピーク電力開始日</b>	ホストのピーク電力が開始した日付と時刻を表示します。
<b>システムピーク電力終了日</b>	ホストのピーク電力が終了した日付と時刻を表示します。
<b>システムピーク電流</b>	ホストのピーク電流を表示します。

**システムピーク電流  
開始日** ホストのピーク電流が開始した日付と時刻を表示します。

**システムピーク電流  
終了日** ホストのピーク電流が終了した日付と時刻を表示します。

## Troubleshooting

本項を使用してトラブルシューティングの問題解決を行ってください。本項は次の内容で構成されています。

- [よくあるお問い合わせ \(FAQ\)](#)
- [ベアメタル展開の問題](#)
- [デルへのお問い合わせ](#)
- [関連製品情報](#)

### よくあるお問い合わせ (FAQ)

本項には一般的な質問と解決策を記載しています。

「設定」ページから移動した後に「設定」ページに戻ると、ページのロードが失敗します。

Web Client では、「設定」ページから移動した後にページに戻ると、ロードが失敗し、スピナーが表示され続けることがあります。これは更新問題で、ページが正しく更新されていません。

対応処置：グローバル更新をクリックすると、画面が正しく更新されます。

対象バージョン：2.0

**アプライアンスの IP に DHCP を使用し、DNS 設定が上書きされると、なぜ、アプライアンスの再起動後に DNS 構成設定が元の設定に戻るのですか？**

静的に割り当てられた DNS 設定が DHCP からの値に置き換えられる、既知の不具合です。これは、IP 設定の取得のために DHCP を使用して、DNS の値が静的に割り当てられた場合に発生します。DHCP のリースを更新するかアプライアンスを再起動すると、静的に割り当てられた DNS 設定は削除されます。対応処置として、DNS サーバーの設定が DHCP と異なる場合は、IP 設定を静的に割り当てます。

対象バージョン：すべて

**OpenManage Integration for VMware vCenter を使用した、ファームウェアバージョン 13.5.2 の Intel ネットワークカードのアップデートはサポートされていません。**

Dell PowerEdge 第 12 世代サーバーとファームウェアバージョン 13.5.2 の一部の Intel ネットワークカードには、既知の問題があります。このバージョンのファームウェアを搭載した Intel ネットワークカードの一部のモデルのアップデートは、このファームウェアのアップデートを Lifecycle Controller を使用して適用すると失敗します。このバージョンのファームウェアを使用しているユーザーは、オペレーティングシステムでネットワークドライバのソフトウェアをアップデートしてください。Intel ネットワークカードのファームウェアのバージョンが 13.5.2 以外であれば、OpenManage Integration for VMware vCenter を使用してアップデートすることができます。詳細に関しては、<http://en.community.dell.com/techcenter/b/techcenter/archive/2013/03/20/intel-network-controller-card-with-v13-5-2-firmware-cannot-be-upgraded-using-lifecycle-controller-to-v13-5-6.aspx> を参照してください。



メモ: メモ: 1 対多のファームウェアアップデートを使用する場合、バージョン 13.5.2 の Intel ネットワークアダプタを選択しないでください。アップデートに失敗して、残りのサーバーからのアップデートによるアップデートタスクが停止します。

## 無効な DUP でファームウェアのアップデートを行おうとすると、ジョブのステータス LC に "FAILED" と表示されるのに何時間も vCenter コンソールが失敗もタイムアウトもしません。なぜこれが起こっていますか？

ファームウェアのアップデートに無効な DUP を選択すると、vCenter コンソールウィンドウに表示されるタスクのステータスは「In Progress」（進行中）のままですが、表示されるメッセージは失敗の理由に変わります。これは既知の VMware の欠陥で、今後のリリースの VMware vCenter で解決される予定です。

対応処置: このタスクを手動でキャンセルする必要があります。

対象バージョン: すべて

## 管理ポータルに、到達不能なアップデートリポジトリの場所が表示されたままになっています。

ユーザーが到達不能なアップデートリポジトリパスを提供している場合、エラーメッセージ、「Failed: Error while connecting to the URL ...」がアプライアンスのアップデートビューの上部に表示されますが、アップデートリポジトリパスがアップデート以前の値にクリアされていません。

対応処置: このページから別のページに移動して、ページが更新されることを確認します。

対象バージョン: すべて

## 初期設定ウィザードのインベントリスケジュール/保証スケジュールページで「過去の時間にタスクをスケジュールすることはできません」と表示されるのはなぜですか？

Web Client では、ユーザーが初期設定ウィザードで「すべての登録済み vCenter」を選択したときに、ホストのない vCenter がある、またはインベントリ/保証タスクがすでにスケジュールされている vCenter とされていない vCenter がある場合、ユーザーに「過去の時間にタスクをスケジュールすることはできません」エラーが表示されることがあります。

対応処置: ホストのない vCenter がある、またはインベントリ/保証タスクがすでにスケジュールされている vCenter とされていない vCenter があるという状態が存在する場合、これらの vCenter の設定ページから、インベントリと保証スケジュールの設定を再度個別に実行します。

対象バージョン: 2.0

## 1 対多のファームウェアアップデートを実行したときに、システムがメンテナンスモードに入らなかったのはなぜですか？

一部のファームウェアアップデートにはホストの再起動は必要ありません。このような場合、ファームウェアのアップデートは、ホストをメンテナンスモードにすることなく実行されます。

## 「Dell Home > 監視 > ジョブキュー > 保証/インベントリ履歴 > スケジュール」で選択したときに、すべての vCenter に保証とインベントリスケジュールが適用されない

ユーザーはジョブキューページに移動し、ひとつの vCenter を選択してスケジュールの変更ボタンを選択します。ダイアログが開くと、この新しい設定をすべての登録済み vCenter に適用するというチェックボックスが表示されます。ユーザーがこれを選択して適用を押すと、すべての vCenter ではなく、当初選択した特定の vCenter のみに設定が適用されます。「すべての登録済み vCenter に適用する」は、ジョブキューページから保証またはインベントリスケジュールが変更されるときには適用されません。

対応処置：ジョブキューページからのインベントリまたは保証スケジュールの変更は、選択した vCenter を変更する場合にのみ、使用してください。

対象バージョン：2.0

## ファームウェアページで一部のファームウェアのインストール日が 12/31/1969 として表示されるのはなぜですか？

Web Client では、ホスト向けのファームウェアページで一部のファームウェアアイテムのインストール日が 12/31/1969 として表示されます。ファームウェアのインストール日が使用不可である場合、このように古い日付が表示されます。

対応処置：ファームウェアコンポーネントの一部にこの古い日付が表示される場合は、そのコンポーネントのインストール日が使用不可であると考えてください。

対象バージョン：2.0

## 連続したグローバル更新によって最近のタスクウィンドウに例外が生成されるのはなぜですか？

ユーザーが連続して更新ボタンを押すと、VMware UI が例外を生成する場合があります。

対応処置：ユーザーはこのエラーを無視して続行することができます。

対象バージョン：2.0

## IE 10 のデル画面のいくつかで Web Client UI が歪むのはなぜですか？

場合によって、ポップアップダイアログが表示されるときに、バックグラウンドのデータが完全に白くなり、歪むことがあります。

対応処置：ダイアログを閉じると、画面は通常状態に戻ります。

対象バージョン：2.0

## 選択した 11G システム用のバンドルがリポジトリにあっても、ファームウェアアップデートがファームウェアアップデート用バンドルがないと表示するのはなぜですか？

ロックダウンモードで接続プロファイルにホストを追加したとき、インベントリが実行されましたが、「Remote Access Controller が見つからなかったか、インベントリがこのホスト上でサポートされていません」と表示され、失敗しました。インベントリはロックダウンモードのホストに対して動作するはずではないのですか？

ホストをロックダウンモードにする、またはロックダウンモードから解除する場合、次の操作を実行する前に 30 分待機する必要があります。ファームウェアアップデート用に 11G システムを選択すると、入力したリポジトリにそのシステムのためのバンドルがあったとしても、ファームウェアアップデートウィザードにはバンドルが表示されません。この問題は、11G ホストが OpenManage Integration にトラップを送信するよう OMSA で設定されていないために発生します。

対応処置：OpenManage Integration .NET Clinet のホストコンプライアンス画面を使用して、ホストが準拠していることを確認します。準拠していない場合は、ホストコンプライアンスの修正を使用して準拠させてください。

対象バージョン：2.0

## vCenter へのプラグインの登録に成功したにもかかわらず、Web Client に OpenManage Integration アイコンが表示されないのはなぜですか？

Dell OpenManage Integration Plug-In プラグインのアイコンは、vCenter Web Client サービスが再起動されるか、ボックスが再起動されない限り Web Client に表示されません。ユーザーが OpenManage Integration for VMware

vCenter アプライアンスを登録すると、アプライアンスは **.Net Client** と **Web Client** の両方に登録されます。ユーザーがアプライアンスの登録を解除した後で、そのアプライアンスの同じバージョンの再登録、または新しいバージョンの登録のどちらかを行うと、両方のクライアントに正常に登録されますが、**Dell** アイコンが **Web Client** に表示されない場合があります。この問題は、**VMware** のキャッシュ問題が原因です。この問題を解決するには、ユーザーが **vCenter** サーバーで **Web Client** サービスを再起動する必要があります。これを行って始めてプラグインが **UI** に表示されます。

対応処置：vCenter サーバーで **Web Client** サービスを再起動します。

対象バージョン：2.0

## **Web Client** を使用して接続プロファイルを編集した後に終了をクリックすると、いつも例外が表示されます。なぜですか？

この問題は、vCenter サーバーが **FQDN** ではなく **IP** によってアプライアンスに登録されているときに発生します。接続プロファイルは **.Net Client** を使用して編集することが可能です。この **vCenter** サーバーを同じアプライアンスに再登録しても問題は解決されません。**FQDN** で登録された新しいセットアップが必要です。

## **ウェブ GUI** で接続プロファイルを作成/編集するときに、ホストが属する接続プロファイルを見ることができません。なぜですか？

この問題は、vCenter サーバーが **FQDN** ではなく **IP** によってアプライアンスに登録されているときに発生します。この **vCenter** サーバーを同じアプライアンスに再登録しても問題は解決されません。**FQDN** で登録された新しいセットアップが必要です。

## 接続プロファイルを編集するときに、**ウェブ UI** の特定のホストウィンドウが空です。なぜですか？

この問題は、vCenter サーバーが **FQDN** ではなく **IP** によってアプライアンスに登録されているときに発生します。この **vCenter** サーバーを同じアプライアンスに再登録しても問題は解決されません。**FQDN** で登録された新しいセットアップが必要です。

## ファームウェアのリンクをクリックした後、なぜ通信エラーメッセージが表示されるのですか。

ネットワーク通信速度が低速 (9600 bps) の場合、通信エラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージは、**OpenManage Integration for VMware vCenter** の **vSphere Client** でファームウェアのリンクをクリックした時に表示されることがあります。これは、ソフトウェアインベントリリストの取得の試行中に接続がタイムアウトすると表示されます。このタイムアウトは **Microsoft Internet Explorer** によって開始されます。

**Microsoft Internet Explorer** のバージョン **9/10** では、デフォルトの「受信タイムアウト」値は **10** 秒に設定されています。次のステップでこの問題を修正してください。

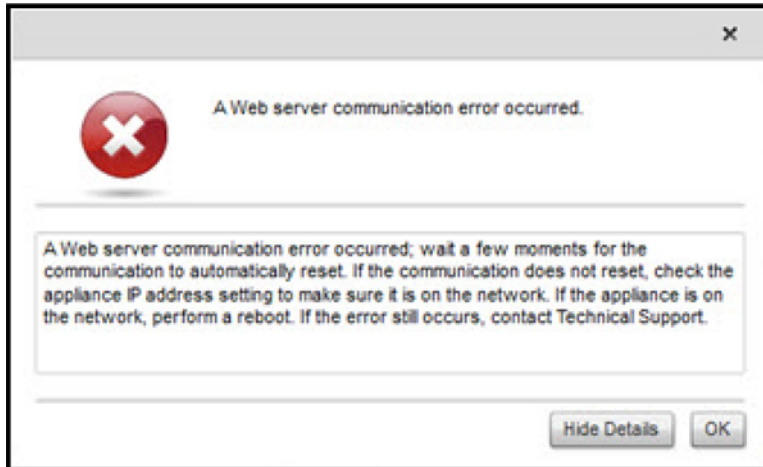



図 1. ファームウェアリンク通信エラー

1. Microsoft レジストリエディタ (Regedit) を開きます。
2. 次の場所に移動します。  
KHEY\_CURRENT\_USER\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Internet Settings
3. 受信タイムアウトの DWORD 値を追加します。
4. 値を 30 秒 (30000) に設定します (お使いの環境ではこれより大きい値にする必要のある場合もあります)。
5. Regedit を終了します。
6. Internet Explorer を再起動します。

 **メモ:** Internet Explorer ウィンドウを開くだけでは不十分です。Internet Explorer のブラウザを再スタートしてください。

## OpenManage Integration for VMware vCenter で設定し SNMP トラップをサポートしているのは、どの世代の Dell サーバーですか?

OpenManage Integration for VMware vCenter は、第 12 世代より前の世代のサーバーで OMSA SNMP トラップをサポートし、第 12 世代のサーバーで iDRAC トラップをサポートしています。


## OpenManage Integration for VMware vCenter によって管理されるのはどのリンクモードの vCenters ですか?

OpenManage Integration for VMware vCenter が管理するのは、登録済みのリンクモードの vCenters のみです。

## OpenManage Integration for VMware vCenter はリンクモードの vCenter をサポートしますか?

はい。OpenManage Integration for VMware vCenter は最大 10 のリンクモードの vCenter をサポートします。リンクモードで OpenManage Integration for VMware vCenter が動作する仕組みに関する詳細は、[www.Dell.com](http://www.Dell.com) でホワイトペーパー『OpenManage Integration for VMware vCenter for VMware vCenter: Working in Linked Mode』(VMware vCenter 向け OpenManage Integration for VMware vCenter : リンクモードでの動作) を参照してください。

## OpenManage Integration for VMware vCenter ではどのようなポート設定が要求されますか?

 **メモ:** Dell Management Center の準拠ウィンドウから利用できる *非準拠 vSphere* ホストの修正リンクを使用して OMSA エージェントを導入する場合、ESXi 5.0 以降のリリースで OpenManage Integration for VMware vCenter は httpClient サービスを開始してポート 8080 を有効にし、OMSA VIB をダウンロードおよびインストールします。OMSA のインストールが完了すると、サービスは自動的に停止し、ポートは閉じられます。

これらのポート設定は、OpenManage Integration for VMware vCenter 用です。

表 3. 仮想アプライアンスポート

ポート番号	プロトコル	ポートタイプ	最高暗号化レベル	方向	使用状況	設定可能
21	FTP	TCP	なし	出力	FTP コマンドクライアント	いいえ
53	DNS	TCP	なし	出力	DNS クライアント	いいえ
80	HTTP	TCP	なし	出力	Dell オンラインデータアクセス	いいえ
80	HTTP	TCP	なし	入力	管理コンソール	いいえ
162	SNMP エージェント	UDP	なし	入力	SNMP エージェント (サーバー)	いいえ
11620	SNMP エージェント	UDP	なし	入力	SNMP エージェント (サーバー)	いいえ
443	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	HTTPS サーバー	いいえ
443	WSMAN	TCP	128 ビット	入力/出力	iDRAC/OMSA 通信	いいえ
4433	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	自動検出	いいえ
2049	NFS	UDP	なし	すべて	パブリック共有	いいえ
4001~4004	NFS	UDP	なし	すべて	パブリック共有	いいえ
11620	SNMP エージェント	UDP	なし	Om	SNMP エージェント (サーバー)	いいえ


表 4. 管理下ノード

ポート番号	プロトコル	ポートタイプ	最高暗号化レベル	方向	使用状況	設定可能
162、11620	snmp	UDP	なし	出力	ハードウェアイベント	いいえ
443	WSMAN	TCP	128 ビット	入力	iDRAC/OMSA 通信	いいえ
4433	HTTPS	TCP	128 ビット	出力	自動検出	いいえ
2049	NFS	UDP	なし	すべて	パブリック共有	いいえ
4001~4004	NFS	UDP	なし	すべて	パブリック共有	いいえ
443	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	HTTPS サーバー	いいえ
8080	HTTP	TCP		入力	HTTP サーバー; OMSA VIB をダウンロードし、非標準 vSphere ホストを修正	いいえ
50	RMCP	UDP/TCP	128 ビット	出力	リモートメー ルチェックプロトコル	いいえ
51	IMP	UDP/TCP	該当なし	該当なし	IMP 論理アド レスメンテナンス	いいえ
5353	mDNS	UDP/TCP		すべて	マルチキャスト DNS	いいえ
631	IPP	UDP/TCP	なし	出力	インターネットプリンティングプロトコル (IPP)	いいえ
69	TFTP	UDP	128 ビット	すべて	トリビアルファイル転送	いいえ
111	NFS	UDP/TCP	128 ビット	入力	SUN リモート プロシージャコール (ポートマップ)	いいえ
68	BOOTP	UDP	なし	出力	ブートストラッププロトコルクライアント	いいえ

### 仮想アプライアンスの正常なインストールと操作のために最低限必要な要件は何ですか?

以下の設定は、最低限のアプライアンス要件の概要です。

- 物理 RAM : 3 GB
- 予約メモリ : 1 GB

 **メモ:** 最適なパフォーマンスを得るため、Dell では 3 GB をお勧めします。

- ディスク : 32.5 GB
- CPU : 2 つの仮想 CPU

## 保証を更新するための翻訳はどのようにして見つければいいですか？

保証の更新ボタンをクリックすると、ウェブページには英語、またはサーバーが実際に設置されている地域のローカル言語が表示される場合があります。以下の表は予期される翻訳を示しています。

表 5. 見込まれる翻訳

	クライアントの場所	サービスタグの場所	OpenManage Integration for VMware vCenter はクライアント環境をサポートしていますか？	OpenManage Integration for VMware vCenter のページをクライアント環境の言語で表示することができますか？	OpenManage Integration for VMware vCenter はデフォルトの英語でページを表示します。
1	場所 A	場所 A	はい	はい	いいえ
2	場所 A	場所 B	いいえ	いいえ	はい
3	場所 A	場所 B	はい	いいえ	はい
4	場所 A	場所 B	はい	いいえ	はい
5	場所 A	場所 A	いいえ	いいえ	はい

以下の例を参照してください。

表 6. 例

	クライアントの場所	サービスタグの場所	OpenManage Integration for VMware vCenter はクライアント環境をサポートしていますか？	OpenManage Integration for VMware vCenter のページをクライアント環境の言語で表示することができますか？	OpenManage Integration for VMware vCenter はデフォルトの英語でページを表示します。
1	フランス	フランス	はい	はい	いいえ
2	ブラジル	中国	いいえ	いいえ	はい
3	ドイツ	中国	はい	いいえ	はい
4	中国	ブラジル	はい	いいえ	はい
5	インド	インド	いいえ	いいえ	はい

## 新しい iDRAC バージョンの詳細が、vCenter ホストとクラスタ のページに表示されないのはなぜですか？

vSphere Web Client の最近のタスクペインでファームウェアアップデートのタスクが正常に終了した後、ファームウェアアップデートページを更新して、ファームウェアのバージョンを確認します。ページに古いバージョンが表示される場合は、Dell Management Center のホストコンプライアンスページへ移動し、そのホストの CISOR ステータスをチェックします。CISOR が有効化されていない場合は、CISOR を有効化してホストを再起動してください。CISOR がすでに有効化されている場合は、iDRAC コンソールにログインし、iDRAC をリセットして数分待ち、その後 vSphere Web Client のファームウェアアップデートページを更新します。



**メモ:** Web Client ではホストコンプライアンスは使用できず、vSphere .Net Client からのホストコンプライアンス機能を使用する必要があります。

## OMSA を使用してハードウェア温度の異常をシミュレートすることによってイベント設定をテストする方法は?

イベントが正しく機能していることを確認するには、次の手順を行います。

1. OMSA ユーザーインターフェイスで、**アラート管理** → **プラットフォームイベント** と移動します。
2. **Enable Platform Event Filter Alerts (プラットフォームイベントフィルタアラートの有効化)** チェックボックスを選択します。
3. 一番下までスクロールして、**Apply Changes (変更の適用)** をクリックします。
4. 温度の警告など特定のイベントが有効になっていることを確認するには、左側のツリーで、**メインシステムシャーシ** を選択します。
5. **メインシステムシャーシ** の下で、**温度** を選択します。
6. **Alert Management (アラート管理)** タブを選択して、**Temperature Probe Warning (温度プローブ警告)** を選択します。
7. **Broadcast a Message (メッセージのブロードキャスト)** チェックボックスを選択して、**Apply Changes (変更の適用)** を選択します。
8. 温度警告イベントを作動させるには左側のツリービューから、**メインシステムシャーシ** を選択します。
9. **Main System Chassis (メインシステムシャーシ)** で **Temperatures (温度)** を選択します。
10. **System Board Ambient Temp (システム基板環境温度)** リンクを選択して、**Set to Values (値に設定)** オプションボタンを選択します。
11. **Maximum Warning Threshold (最大警告しきい値)** を現在リストされている読み取り値未満に設定します。たとえば、現在の読み取り値が 27 の場合は、しきい値を **25** に設定します。
12. **Apply Changes (変更の適用)** を選択すると、温度警告イベントが生成されます。別のイベントを発生させるには、同じ **Set to Values (値に設定)** オプションを使用して元の設定を復元します。イベントは警告として生成されてから、正常な状態になります。すべてが適切に動作している場合は、**vCenter Tasks & Events (vCenter タスクおよびイベント)** ビューに移動します。温度プローブ警告イベントが表示されています。



**メモ:** 重複イベントにはフィルタがあり、連続して何度も同じイベントをトリガしても、受け取るイベントは 1 つだけです。すべてのイベントを表示するにはイベント間の間隔を少なくとも 30 秒にします。

## Dell ホストシステムに OMSA エージェントをインストールしていますが、OMSA がインストールされていないというエラーメッセージが今でも表示されます。どうしたらよいですか?

この問題を解決するには、第 11 世代サーバで次の作業を行います。

1. ホストシステムに **OMSA** を **Remote Enablement (リモート有効化)** コンポーネントと共にインストールします。
2. コマンドラインを使用して **OMSA** をインストールする場合は、**-c オプション** を指定してください。**OMSA** がすでにインストールされている場合は、**-c オプション** 付きで再インストールして、サービスを再起動してください。

```
srvadmin-install.sh -c srvadmin-services.sh restart
```

ESXi ホストの場合は、**VMware リモート CLI ツール** を使用して **OMSA VIB** をインストールし、システムを再起動する必要があります。

## ロックダウンモードを有効にした状態で OpenManage Integration for VMware vCenter で ESX/ESXI をサポートできますか?

はい。ロックダウンモードは ESXi 4.1 以降のホストにおける本リリースでサポートされています。

## 再起動後、ロックダウンモードのホスト ESXi 4.0 Update2 および ESXi Update 3 でインベントリが失敗します。

ロックダウンモードでは ESXi 4.1 以降が必要です。これより前の ESXi バージョンを使用している場合に、ロックダウンモード中に何らかの理由でホストが再起動すると、再起動後にホストで次の手順を実行しない限り、インベントリが失敗し続けます。

ESXi 4.0 Update2 および Update3 向けの回避手順は、次のとおりです。

1. **vSphere Web Client** でホストとクラスタを選択し、左のペインでホストを選択して **設定** タブをクリックします。
2. 左のペインの **ソフトウェア** で **セキュリティプロファイル** をクリックします。
3. **ロックダウンモード** までスクロールダウンして、**編集** をクリックします。
4. **ロックダウンモード** ダイアログボックスで、ロックダウンモードを無効にするために **有効化** チェックボックスをクリアして、**OK** をクリックします。
5. ホストコンソールにログインして、**管理エージェントの再起動** を選択し、**<ENTER>** を押します。確認のために **<F11>** を押します。
6. ロックダウンモードを有効にするには、1 から 4 までの手順を繰り返しますが、今回は、**有効化** チェックボックスを選択して **OK** をクリックします。

## ロックダウンモードを使用しようとしたら、失敗しました。

ロックダウンモードで接続プロファイルにホストを追加したとき、インベントリが実行されましたが、「Remote Access Controller が見つからなかったか、インベントリがこのホスト上でサポートされていません」と表示され、失敗しました。インベントリはロックダウンモードのホストに対して動作するはずではないのですか?

ホストをロックダウンモードにする、またはロックダウンモードから解除する場合、OpenManage Integration for VMware vCenter で次の操作を実行する前に、30 分待機する必要があります。

## ESXi 4.1 U1 で UserVars.CIMoeMProviderEnable にはどのような設定を使用すべきですか?

UserVars.CIMoemProviderEnabled を 1 に設定してください。

## ハードウェアプロファイルの作成にリファレンスサーバーを使用していますが、失敗しました。どうすればよいですか?

最低限の推奨バージョンの iDRAC ファームウェア、Lifecycle Controller ファームウェア、および BIOS がインストールされていることを確認してください。

リファレンスサーバーから取得したデータが最新であることを確認するには、**再起動時のシステムインベントリの収集 (CSIOR)** を有効にして、データを抽出する前にリファレンスサーバーを再起動してください。

ブレードサーバーに ESX/ESXi を展開しようとしていますが、失敗しました。どうすればよいですか？

1. ISO の場所 (NFS パス) とステージングフォルダパス が正しいことを確認します。
2. サーバー ID の割り当て時に選択された NIC が仮想アプライアンスと同じネットワーク上にあることを確認します。
3. 静的 IP アドレス を使用している場合は、指定したネットワーク情報 (サブネットマスクとデフォルトゲートウェイを含む) が正しいことを確認します。また、その IP アドレスがまだネットワーク上に割り当てられていないことを確認します。
4. 少なくとも 1 つの 仮想ディスク がシステムによって認識されていることを確認します。ESXi は内部 RIPS SD カードにもインストールされます。

**Dell PowerEdge R210 II マシンでハイパーバイザー展開が失敗するのはなぜですか？**

連結された ISO からの BIOS 起動の失敗により、Dell PowerEdge R210 II システムにおけるタイムアウト問題がハイパーバイザー展開失敗を生じます。この問題を解決するには、ハイパーバイザーを手動でマシンにインストールしてください。

**展開ウィザードにモデル情報のない自動検出されたシステムが表示されるのはなぜですか？**

これは通常、システムにインストールされているファームウェアのバージョンが、推奨される最低要件を満たしていないことを示しています。場合によっては、ファームウェアアップデートがシステム上に登録されていないこともあります。この問題は、システムのコールドブートまたはブレードの再装着によって解決されます。iDRAC 上で新たに有効化されたアカウントは無効にする必要があります、そうすると自動検出が再開始され、OpenManage Integration for VMware vCenter にモデル情報と NIC 情報を提供します。

**ESX/ESXi ISO で NFS 共有がセットアップされていますが、共有の場所をマウントするときのエラーで失敗します。**

解決法を見つけるには、次の手順を行います。

1. iDRAC がアプライアンスに対して ping を実行できることを確認します。
2. ネットワークの稼働速度が遅すぎないことを確認します。

**仮想アプライアンスの強制削除はどのように実行すればよいですか？**

1. [https://<vcenter\\_serverIPAddress>/mob](https://<vcenter_serverIPAddress>/mob) にアクセスします。
2. コンテンツ をクリックします。
3. ExtensionManager をクリックします。
4. UnregisterExtension をクリックします。
5. 拡張キーを入力して、com.dell.plugin.OpenManage Integration for VMware vCenter の登録を解除してから、メソッドの呼び出し をクリックします。
6. vSphere Web Client で OpenManage Integration for VMware vCenter の電源をオフにして、削除します。登録解除用のキーはウェブクライアント用である必要があります。

## 今すぐバックアップ画面にパスワードを入力するとエラーメッセージが表示されます

解像度の低いモニターを使用すると、暗号化パスワードフィールドが今すぐバックアップ ウィンドウから見えなくなります。ページを下にスクロールして暗号化パスワードを入力する必要があります。

## vSphere Web Client で Dell サーバー管理ポートレットまたは Dell アイコンをクリックすると、404 エラーが返されます。


アプライアンスが稼働しているかどうかをチェックして、稼働していない場合は、vSphere Web クライアントから起動します。仮想アプライアンス Web サービスが起動するまで数分待ってから、ページを更新します。引き続きエラーが発生する場合は、コマンドラインから IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を使用してアプライアンスに対して ping を実行してください。ping が通らない場合は、ネットワーク設定を見直して、正しく設定されていることを確認してください。

## ファームウェアアップデートが失敗しました。どうしたらよいですか？

仮想アプライアンスログをチェックして、タスクがタイムアウトしていないか確認してください。タイムアウトしている場合は、コールドリブートを実行して iDRAC をリセットする必要があります。システムが起動して稼働し始めたら、インベントリを実行するか、Firmware (ファームウェア) タブを使用して、アップデートが正常に完了したかどうかを確認してください。

## vCenter の登録が失敗しました。どうしたらよいですか？

vCenter 登録は通信の問題により失敗することがあるため、このような問題が発生した場合の解決法の一つとして、静的 IP アドレスを使用することができます。静的 IP アドレスを使用するには、OpenManage Integration for VMware vCenter の コンソール タブで、ネットワークの設定 → デバイスの編集 を選択して、正しいゲートウェイと FQDN (完全修飾ドメイン名) を入力します。DNS 設定の編集で DNS サーバー名を入力します。

 **メモ:** 仮想アプライアンスが入力された DNS サーバーを解決できることを確認してください。

## 接続プロファイルの資格情報テスト中、パフォーマンスが非常に遅くなったり、応答しなくなります。

サーバー上の iDRAC のユーザーが 1 人だけ (たとえば、root のみ) であり、そのユーザーが無効状態であるか、すべてのユーザーが無効状態になっています。無効状態のサーバーへの通信を行うと、遅延が発生します。この問題を解決するには、サーバーの無効状態を解決、またはサーバー上の iDRAC をリセットして root ユーザーをデフォルト設定に再有効化することができます。

無効状態のサーバーを修正するには、次の手順を行います。

1. Chassis Management Controller コンソールを開いて、無効になっているサーバーを選択します。
2. iDRAC コンソールを自動的に開くには、iDRAC GUI の起動 をクリックします。
3. iDRAC コンソールでユーザーリストまで移動して、次のいずれかを選択します。
  - iDRAC 6 : iDRAC 設定 → ネットワーク / セキュリティ タブ → ユーザー タブ を選択します。
  - iDRAC 7 : ユーザー 認証 を選択します。
4. 設定を編集するには、ユーザー ID 列で、管理者 (root) ユーザーのリンクをクリックします。
5. ユーザー の設定 をクリックして、次へ をクリックします。
6. 選択されたユーザーのユーザー設定ページで、ユーザーの有効化の横にあるチェックボックスを選択し、適用 をクリックします。

## OpenManage Integration for VMware vCenter は VMware vCenter Server Appliance をサポートしますか?

はい。OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 2.0 は、VMware vCenter Server Appliance をサポートしています。

## OpenManage Integration for VMware vCenter は vSphere Web Client をサポートしていますか?

はい、OpenManage Integration for VMware vCenter は VMware vSphere ウェブクライアントをサポートしています。

## ベアメタル展開の問題

本項では、展開プロセス中に検知された問題について説明します。バージョン 2.0 は Web Client からの展開はサポートせず、vSphere.Net Client を使用した展開のみが可能です。


### 自動検出とハンドシェイクの前提条件

- 自動検出とハンドシェイクを実行する前に、iDRAC と Lifecycle Controller ファームウェア、および BIOS が推奨される最低バージョンの要件を満たしていることを確認してください。
- CSIOR は、システムまたは iDRAC で少なくとも 1 度は実行されている必要があります。

### ハードウェア設定の失敗

- 展開タスクを開始する前に、システムが CSIOR を完了していて、再起動中ではないことを確認してください。
- リファレンスサーバーが全く同じシステムになるように、BIOS 設定をクローンモードで実行することを強く推奨します。
- 一部のコントローラでは、1 台のドライブでの RAID 0 アレイの作成を許可しません。この機能は高性能のコントローラでのみサポートされており、このようなハードウェアプロファイルの適用は失敗の原因になり得ます。

## デルへのお問い合わせ

 **メモ:** お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

デルでは、オンラインまたは電話によるサポートとサービスのオプションを複数提供しています。サポートやサービスの提供状況は国や製品ごとに異なり、国/地域によってはご利用いただけないサービスもございます。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

1. [dell.com/support](http://dell.com/support) にアクセスします
2. サポートカテゴリを選択します。
3. ページの上部にある 国/地域の選択 ドロップダウンメニューで、お住まいの国または地域を確認します。
4. 必要なサービスまたはサポートのリンクを選択します。

## 本ソフトウェアのためのその他情報

Dell 仮想化マニュアルの表示とダウンロード: <http://support.dell.com/support/edocs/software/eslvmwre/> で表示およびダウンロードします。Dell vCenter Plug-In よくあるお問い合わせ: <http://i.dell.com/sites/content/business/solutions/virtualization/en/Documents/dell-management-plugin-vmware-vcenter-faq.pdf>

## OpenManage Integration for VMware vCenter 関連情報

- PowerEdge™ サーバー用 Dell サーバーマニュアルの表示またはダウンロード  
<http://www.dell.com/poweredgemanuals>
- Dell OpenManage システム管理者マニュアル  
<http://www.dell.com/support/Manuals>
- Dell Lifecycle Controller マニュアル  
<http://www.dell.com/esmmanuals>

## 仮想化 — 関連イベント

次の表は、イベント名、説明、重要度を含む仮想化関連の重要イベントおよび警告イベントを示しています。

イベント名	説明	重要度	推奨される処置
Dell-Current sensor detected a warning value	指定したシステムの電流センサーが警告しきい値を超えました。	警告	処置は不要
Dell-Current sensor detected a failure value	指定したシステムの電流センサーが障害しきい値を超えました。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell-Current sensor detected a non-recoverable value	指定したシステムの電流センサーが回復不可能なエラーを検出しました	エラー	処置は不要
Dell-Redundancy regained	センサーが正常値に戻りました	情報	処置は不要
Dell-Redundancy degraded	指定したシステムの冗長性センサーが、冗長性ユニットのいずれかのコンポーネントで障害が発生したが、ユニットは引き続き冗長であることを検出しました。	警告	処置は不要
Dell - Redundancy lost	指定したシステムの冗長性センサーが、冗長性ユニットのコンポーネントのひとつが切断された、故障した、または存在しないことを検出しました。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Power supply returned to normal	センサーが正常値に戻りました	情報	処置は不要
Dell - Power supply detected a warning	指定したシステムの電源装置センサー読み取り値がユーザー定義可能な警告しきい値を超えました。	警告	処置は不要
Dell - Power supply detected a failure	電源装置の接続が切断されているか、故障しました。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください

Dell - Power supply sensor detected a non-recoverable value	指定したシステムの電源装置センサーが回復不可能なエラーを検出しました	エラー	処置は不要
Dell - Memory Device Status warning	メモリデバイスの修正レートが許容値を超えました。	警告	処置は不要
Dell - Memory Device error	メモリデバイスの修正レートが許容値を超えた、メモリスベアバンクがアクティブになった、またはマルチビットの ECC エラーが発生しました。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Fan enclosure inserted into system	センサーが正常値に戻りました	情報	処置は不要
Dell - Fan enclosure removed from system	指定したシステムからファンエンクロージャが取り外されました。	警告	処置は不要
Dell - Fan enclosure removed from system for an extended amount of time	ユーザー定義可能な時間にわたって、指定したシステムからファンエンクロージャが取り外されたままになっています。	エラー	処置は不要
Dell - Fan enclosure sensor detected a non-recoverable value	指定したシステムのファンエンクロージャセンサーが回復不可能なエラーを検出しました	エラー	処置は不要
Dell - AC power has been restored	センサーが正常値に戻りました	情報	処置は不要
Dell - AC power has been lost warning	AC 電源コードが電源を失いましたが、これを警告として分類するだけの十分な冗長性があります。	警告	処置は不要
Dell - An AC power cord has lost its power	AC 電源コードが電源を失っており、冗長性不足のため、これをエラーとして分類する必要があります。	エラー	処置は不要
Dell - Processor sensor returned to a normal value	センサーが正常値に戻りました	情報	処置は不要
Dell - Processor sensor detected a warning value	指定したシステムのプロセッサセンサーがスロットル状態です。	警告	処置は不要
Dell - Processor sensor detected a failure value	指定したシステムのプロセッサセンサーが無効になっている、設定エラー	エラー	処置は不要

	がある、またはサーマルトリップが発生しました。		
Dell - Processor sensor detected a non-recoverable value	指定したシステムのプロセッサセンサーが故障しました。	エラー	処置は不要
Dell - Device configuration error	指定したシステムのプラグ可能デバイスで設定エラーが検出されました。	エラー	処置は不要
Dell - Battery sensor returned to a normal value	センサーが正常値に戻りました	情報	処置は不要
Dell - Battery sensor detected a warning value	指定したシステムのバッテリーセンサーが、バッテリーが予測不具合状態にあることを検出しました。	警告	処置は不要
Dell - Battery sensor detected a failure value	指定したシステムのバッテリーセンサーが、バッテリーの故障を検出しました。	エラー	処置は不要
Dell - Battery sensor detected a nonrecoverable value	指定したシステムのバッテリーセンサーが、バッテリーの故障を検出しました。	エラー	処置は不要
Dell - Thermal shutdown protection has been initiated	このメッセージは、システムがエラーイベントによるサーマルシャットダウンに設定されたときに生成されます。温度センサー読み取り値がシステムで設定されたエラーしきい値を超えると、オペレーティングシステムがシャットダウンし、システムの電源がオフになります。このイベントは、システムからファンエンクロージャが長い時間取り外されている場合にも、特定のシステムで発生することがあります。	エラー	処置は不要
Dell - Temperature sensor returned to a normal value	センサーが正常値に戻りました	情報	処置は不要
Dell - Temperature sensor detected a warning value	指定したシステムのバックプレーン基板、システム基板、CPU、またはドレイブキャリア上の温度センサーが警告しきい値を超えました。	警告	処置は不要

Dell - Temperature sensor detected a failure value	指定したシステムのバックプレーン基板、システム基板、またはドライブキャリア上の温度センサーが障害しきい値を超えました。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Temperature sensor detected a non-recoverable value	指定したシステムのバックプレーンボード、システム基板、またはドライブキャリアの温度センサーが回復不可能なエラーを検出しました。	エラー	処置は不要
Dell - Fan sensor returned to a normal value	センサーが正常値に戻りました	情報	処置は不要
Dell - Fan sensor detected a warning value	ホスト <x> のファンセンサー読み取り値が警告しきい値を超えました。	警告	処置は不要
Dell - Fan sensor detected a failure value	指定したシステムのファンセンサーが1つまたは複数のファンの障害を検出しました。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Fan sensor detected a nonrecoverable value	ファンセンサーが回復不可能なエラーを検出しました。	エラー	処置は不要
Dell - Voltage sensor returned to a normal value	センサーが正常値に戻りました	情報	処置は不要
Dell - Voltage sensor detected a warning value	指定したシステムの電圧センサーが警告しきい値を超えました。	警告	処置は不要
Dell - Voltage sensor detected a failure value	指定したシステムの電圧センサーが障害しきい値を超えました。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Voltage sensor detected a nonrecoverable value	指定したシステムの電圧センサーが回復不可能なエラーを検出しました	エラー	処置は不要
Dell - Current sensor returned to a normal value	センサーが正常値に戻りました	情報	処置は不要
Dell - Storage: storage management error	ストレージ管理がデバイス依存のエラー状態を検出しました。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Storage: Controller warning	物理ディスクの一部が破損しています。	警告	処置は不要
Dell - Storage: Controller failure	物理ディスクの一部が破損しています。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Storage: Channel Failure	チャンネル障害です。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください

Dell - Storage: Enclosure hardware information	エンクロージャハードウェア情報です。	情報	処置は不要
Dell - Storage: Enclosure hardware warning	エンクロージャハードウェア警告です。	警告	処置は不要
Dell - Storage: Enclosure hardware failure	エンクロージャハードウェアエラーです。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Storage: Array disk failure	アレイディスク障害です。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Storage: EMM failure	EMM 障害です。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Storage: power supply failure	電源装置障害です。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Storage: temperature probe warning	物理ディスク温度プローブ警告で、低温すぎるか高温すぎます。	警告	処置は不要
Dell - Storage: temperature probe failure	物理ディスク温度プローブエラーで、低温すぎるか高温すぎます。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Storage: Fan failure	ファン障害です。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Storage: Battery warning	バッテリー警告です。	警告	処置は不要
Dell - Storage: Virtual disk degraded warning	仮想ディスクの劣化警告です。	警告	処置は不要
Dell - Storage: Virtual disk degraded failure	仮想ディスク劣化障害です。	エラー	システムをメンテナンスモードにしてください
Dell - Storage: Temperature probe information	温度プローブ情報です。	情報	処置は不要
Dell - Storage: Array disk warning	アレイディスク警告です。	警告	処置は不要
Dell - Storage: Array disk information	アレイディスク情報です。	情報	処置は不要
Dell - Storage: Power supply warning	電源装置警告です。	警告	処置は不要

## セキュリティの役割および許可

OpenManage Integration for VMware vCenter は、ユーザー資格情報を暗号化フォーマットで保管します。問題につながる可能性のある不適切な要求を避けるため、クライアントアプリケーションにはパスワードを一切提供しません。データベースのバックアップは、カスタムセキュリティフレーズで完全に暗号化されるため、データが誤使用されることはありません。

デフォルトで、管理者グループ内のユーザーはすべての特権を持ちます。管理者は、VMware vCenter 内の OpenManage Integration for VMware vCenter のすべての機能を使用することができます。管理者以外のユーザーが製品を管理する場合は、両方の Dell 役割を含む役割を作成して、インベ取り内のルート/トップノードに許可を割り当て、必要に応じてユーザーへのアクセスを許可したい子ノードに許可を伝播します。例えば、ユーザーにクラスター A のみを管理させたい場合は、クラスター A の許可はそのままにして、他のクラスターからは許可を削除します。

## データ整合性

OpenManage Integration for VMware vCenter、管理コンソール、および vCenter 間の通信は、HTTPS/SSL を使用して行います。OpenManage Integration for VMware vCenter は、vCenter とアプライアンス間での信頼された通信のために使用される SSL 証明書を生成します。また、通信前、および OpenManage Integration for VMware vCenter 登録前に vCenter サーバーの証明書を検証し、信頼します。OpenManage Integration for VMware vCenter コンソールタブ (VMware vCenter 内) は、キーが管理コンソールとバックエンドサービス間で交互に転送される間、不正な要求を回避するためのセキュリティ手順を使用します。このタイプのセキュリティは、クロスサイトリクエストフォージェリを失敗させます。

セキュア管理コンソールセッションには 5 分間のアイドルタイムアウトがあり、セッションは現行のブラウザウィンドウおよび/またはタブでのみ有効です。ユーザーが新しいウィンドウまたはタブでセッションを開こうとすると、有効なセッションを求めるセキュリティエラーが作成されます。この処置は、管理コンソールセッションを攻撃する可能性のある悪意のある URL をユーザーがクリックすることを防ぎます。

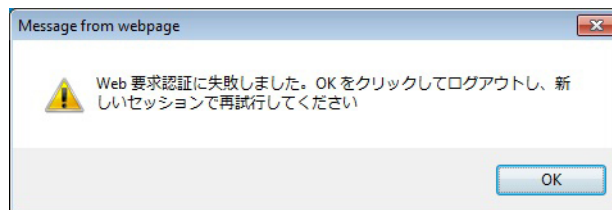


図 2. エラーメッセージ

## アクセス制御認証、承諾、および役割

OpenManage Integration for VMware vCenter は、vCenter 操作を実行するために、ウェブクライアントの現在のユーザーセッションと、保存されている OpenManage Integration 用の管理資格情報を使用します。

OpenManage Integration for VMware vCenter は、vCenter サーバーのビルトイン役割と特権モデルを使用して、OpenManage Integration および vCenter 管理対象オブジェクト（ホストおよびクラスター）とのユーザーアクションを承諾します。VMware vCenter ホームページの「アクセス役割」。

## Dell 操作の役割

ファームウェアアップデート、ハードウェアインベントリ、ホストの再起動、ホストをメンテナンスモードに設定、vCenter Server タスクの作成を含む、アプライアンスおよび vCenter サーバーのタスクを実行する特権 / グループが含まれます。

この役割には次の特権グループが含まれます。

- 特権グループ - Dell.Configuration**      ホスト関連タスクの実行、vCenter 関連タスクの実行、SelLog の設定、ConnectionProfile の設定、ClearLed の設定、ファームウェアアップデート
- 特権グループ - Dell.Inventory**      インベントリの設定、保証取得の設定、ReadOnly の設定
- 特権グループ - Dell.Monitoring**      監視の設定、監視
- 特権グループ - Dell.Reporting (使用されていません)**      レポートの作成、レポートの実行

## Dell インフラストラクチャ展開の役割

この役割には、ハイパーバイザー展開機能に特化した特権が含まれます。

この役割の特権は、テンプレートの作成、HW 設定プロファイルの設定、ハイパーバイザー展開プロファイルの設定、接続プロファイルの設定、ID の割り当て、および展開です。

<b>特権グループ</b> — Dell.Deploy — プロビジョニング	テンプレートの作成、HW 設定プロファイルの設定、ハイパーバイザー展開プロファイルの設定、接続プロファイルの設定、ID の割り当て、展開
--	--

## 権限について

OpenManage Integration for VMware vCenter によって実行されるすべての処置は、権限に関連付けられています。次の項では、実行可能な処置と、それに関連付けられている権限をリストします。

- **Dell.Configuration.Perform vCenter-Related Tasks**
  - メンテナンスモードを終了および実行
  - 許可をクエリするために vCenter ユーザーグループを取得
  - 警告を登録および設定。たとえば、イベント設定ページでのアラートの有効化/無効化
  - vCenter にイベント/アラートを掲示
  - イベント設定ページでイベント設定を実行
  - イベント設定ページでデフォルトのアラートを復元
  - アラート/イベント設定を実行しながら、クラスタの DRS ステータスをチェック
  - アップデートまたはその他の設定処置を実行した後にホストを再起動
  - vCenter タスクのステータス/進捗状態を監視
  - vCenter タスクを作成。たとえば、ファームウェアアップデートタスク、ホスト設定タスク、およびイベントリタスク
  - vCenter タスクのステータス/進捗状態をアップデート
  - ホストプロファイルを取得
  - データセンターにホストを追加
  - クラスタにホストを追加
  - ホストにプロファイルを適用
  - CIM 資格情報を取得
  - コンプライアンスのためにホストを設定
  - コンプライアンスタスクのステータスを取得
- **Dell.Inventory.Configure ReadOnly**
  - 接続プロファイルの設定中に、すべての vCenter ホストを取得して vCenter ツリーを構築
  - タブが選択されてるときにホストが Dell サーバーかどうかをチェック
  - vCenter のアドレス/IP を取得
  - ホストの IP/アドレスを取得
  - vSphere クライアントセッション ID に基づいて現在の vCenter セッションユーザーを取得
  - vCenter インベントリツリーを取得して、vCenter インベントリをツリー構造で表示
- **Dell.Monitoring.Monitor**
  - イベントを掲示するためのホスト名を取得
  - イベントログ操作を実行。たとえば、イベント数の取得、またはイベントログ設定の変更
  - イベント/アラートを登録、登録解除、および設定 - SNMP トラップの受信とイベントの受信
- **Dell.Configuration.Firmware Update**
  - ファームウェアアップデートを実行


- ファームウェアアップデートウィザードページにファームウェアリポジトリと DUP ファイル情報をロード
- ファームウェアインベントリをクエリ
- ファームウェアリポジトリ設定を実行
- ステージングフォルダを設定、およびステージング機能を使用したアップデートを実行
- ネットワークとリポジトリ接続をテスト
- **Dell.Deploy-Provisioning.Create Template**
  - 展開テンプレートの作成、表示、削除、および編集
- **Dell.Configuration.Perform Host-Related Tasks**
  - Dell Server Management (Dell サーバー管理) タブから LED を点滅、LED をクリア、OMSA URL を設定
  - OMSA コンソールを起動
  - iDRAC コンソールを起動
  - SEL ログを表示およびクリア
- **Dell.Inventory.Configure Inventory**
  - Dell Server Management (Dell サーバー管理) タブでシステムインベントリを表示
  - ストレージ詳細を取得
  - 電源監視詳細を取得
  - 接続プロファイルページで接続プロファイルを作成、表示、編集、削除、およびテスト
  - インベントリスケジュールを計画、アップデート、および削除
  - ホストでインベントリを実行

## 自動検出について

自動検出とは、第 11 世代および第 12 世代の Dell PowerEdge ベアメタルサーバーを、OpenManage Integration for VMware vCenter で使用するために、使用可能なサーバーのプールに追加する手順です。サーバーが検出されたら、これをハイパーバイザーおよびハードウェアの展開に使用します。本付録は、自動検出について、システム設定に役立つ十分な情報を提供します。自動検出は、コンソールを使用して新規サーバーをセットアップし登録するための、Lifecycle Controller の機能です。この機能を使用する利点は、面倒な手動での新規サーバーのローカル設定を排除し、コンソールで新しいサーバー（ネットワークに接続されて電源プラグを差し込み済み）を自動的に検出できる点にあります。

自動検出は、実行される処理にちなんで、**検出**と**ハンドシェイク**とも呼ばれます。自動検出を有効にしたサーバーを AC 電源に接続して、ネットワークに接続すると、Dell サーバーの Lifecycle Controller が、Dell プロビジョニングサーバーに統合された展開コンソールの**検出**を試みます。次に、自動検出機能により、プロビジョニングサーバーと Lifecycle Controller 間で**ハンドシェイク**が開始されます。

OpenManage Integration for VMware vCenter は、統合プロビジョニングサーバーの展開コンソールです。プロビジョニングサーバーの場所は、異なる方法で iDRAC に提供されます。プロビジョニングサーバーの場所の IP アドレスまたはホスト名は、OpenManage Integration for VMware vCenter アプライアンス仮想マシンの IP アドレスまたはホスト名に設定されます。

 **メモ:** 自動検出で設定された新規サーバーは、24 時間の間 90 秒間隔で、プロビジョニングサーバーの場所の解決を試行します。この後で、手動で自動検出を再度開始することができます。

自動検出要求を受信した OpenManage Integration for VMware vCenter for VMware vCenter は、SSL 証明書を検証し、クライアント側のセキュリティ証明書やホワイトリストによる検証といった、オプションで設定済みのセキュリティ手順を開始します。新規サーバーからの 2 回目の検証要求で、iDRAC に設定する一時ユーザー名/パスワードの資格情報を返します。以降の呼び出しは、OpenManage Integration for VMware vCenter for VMware vCenter が開始し、サーバーに関する情報を収集して一時資格情報を削除し、管理者がアクセスするためのより永続的な資格情報をユーザーの定義により設定します。

自動検出が正しく行われると、検出時に **設定 > 展開用資格情報** と選択したページで提供された展開用の資格情報がターゲットの iDRAC 上で作成されます。続いて、自動検出機能はオフになります。これで、サーバーが、Dell Management Center で展開の下にある使用可能なベアメタルサーバーのプール内に表示されます。

自動検出は、現在、vSphere.Net クライアントを使用して実行することができます。

## 自動検出の必要条件

第 11 世代または第 12 世代の Dell PowerEdge ベアメタルサーバーの検出を行う前に、OpenManage Integration for VMware vCenter をインストールします。iDRAC Express または iDRAC Enterprise を搭載した第 11 世代以降の Dell PowerEdge サーバーのみを、OpenManage Integration for VMware vCenter のベアメタルサーバーのプールで検出することができます。Dell ベアメタルサーバーの iDRAC から OpenManage Integration for VMware vCenter 仮想マシンへのネットワーク接続が必要です。

 **メモ:** ハイパーバイザーが既にあるホストは OpenManage Integration for VMware vCenter で検出せずに、このハイパーバイザーを接続プロファイルに追加して、ホストの準拠ウィザードを使用して OpenManage Integration for VMware vCenter で調整します。


自動検出させるには、次の条件を満たしている必要があります。

- **電源:** サーバーをコンセントに接続します。サーバーの電源を入れる必要はありません。

- **ネットワーク接続**：サーバーの iDRAC がネットワークに接続され、プロビジョニングサーバーとポート 4433 経由で通信している必要があります。IP アドレスは、DHCP サーバーを使用して、または手動で iDRAC 設定ユーティリティで指定します。
- **追加のネットワーク設定**：DHCP を使用している場合、DNS サーバーアドレスを DHCP から取得設定を有効にして DNS 名の解決が行われるようにします。
- **プロビジョニングサービスの場所**：iDRAC に対してプロビジョニングサービスサーバーの IP アドレスまたはホスト名が既知でなければなりません。
- **アカウントアクセスは無効**：iDRAC への管理者アカウントのアクセスを有効にし、管理者特権を持つ iDRAC アカウントがある場合は、先にこれを iDRAC ウェブコンソールから無効にします。自動検出が正しく完了したら、iDRAC 管理者アカウントを再度有効にします。
- **自動検出は有効**：サーバーの iDRAC で自動検出が有効にされており、自動検出処理が開始できる状態。

## iDRAC サーバーの管理者アカウントを有効または無効にする

自動検出をセットアップする前に、ルート以外のすべての管理者アカウントを無効にします。ルートアカウントは、自動検出の進行中は無効にされます。自動検出のセットアップを正しく行ったら、Integrated Dell Remote Access Controller 6 の GUI に戻り、オフにしていたアカウントを再度有効にします。以上の手順は、第 11 世代および第 12 世代の PowerEdge サーバー用の手順です。

 **メモ**：自動検出に失敗しないようにするため、iDRAC 上の非管理者アカウントを有効にすることもできます。これにより、自動検出に失敗した場合でもリモートアクセスが可能です。


1. ブラウザで、iDRAC IP アドレスをタイプします。
2. **Integrated Dell Remote Access Controller GUI** にログインします。
3. 次の手順のいずれか 1 つを実行します。
  - iDRAC6：左ペインで、**iDRAC 設定** → **ネットワーク / セキュリティ** → **ユーザー** タブを順に選択します。
  - iDRAC7：左ペインで、**iDRAC 設定** → **ユーザー認証** → **ユーザー** タブを順に選択します。
4. ユーザー タブで、ルート以外の管理者アカウントを探します。
5. アカウントを無効にするには、ユーザー ID の下で **ID** を選択します。
6. **次へ** をクリックします。
7. ユーザー設定 ページの一般の下で、**ユーザーを有効にする** チェックボックスのチェックを外します。
8. **適用** をクリックします。
9. 自動検出を正しくセットアップしたら、各アカウントを再度有効にするため、ステップ 1~8 を繰り返しますが、今回は **ユーザーを有効にする** チェックボックスを選択して **適用** をクリックします。

## 第 11 世代 PowerEdge サーバーでの自動検出の手動設定

iDRAC およびホストの IP アドレスが必要です。

お使いのベアメタルアプライアンスの工場出荷時に自動検出を使用するよう注文されていない場合は、これを手動で設定できます。iDRAC には 2 つのユーザーインターフェースがあり、設定する iDRAC の IP アドレスを使用して両方にアクセスすることができます。

ベアメタルサーバーの自動検出が正しく行われると、新しい管理者アカウントが作成されるか、ハンドシェイクサービスによって返された資格情報で既存アカウントが有効になります。自動検出以前に無効にされていた、その他すべての管理者アカウントは、有効になりません。これらのアカウントは、正しく自動検出が行われた後で再度有効にしてください。「[iDRAC 上で管理者アカウントを有効または無効にする](#)」を参照してください。

 **メモ:** 何らかの理由で自動検出が正しく完了しなかった場合、iDRAC にリモートで接続する方法はありません。リモート接続には、iDRAC 上で非管理者アカウントを有効にしている必要があります。iDRAC 上に有効になっているアカウントがない場合、iDRAC に接続する唯一の方法は、ボックスにローカルでログインして iDRAC 上でアカウントを有効にする方法です。

1. ブラウザで、iDRAC IP アドレスを入力します。
2. iDRAC Enterprise GUI にログインします。
3. **Integrated Dell Remote Access Controller 6— Enterprise** → **システム概要** タブの、**仮想コンソールプレビュー** で、**起動** をクリックします。
4. **警告—セキュリティダイアログ** で、**はい** をクリックします。
5. iDRAC ユーティリティコンソールで、**F12** を 1~2 回押して、**認証が必要です** ダイアログボックスを表示します。
6. **認証が必要です** ダイアログボックスで、名前が表示されたら **Enter** を押します。
7. **パスワード** を入力します。
8. **Enter** を押します。
9. **シャットダウン/再起動** ダイアログボックスが表示されたら、**F11** を押します。
10. ホストが再開し、画面にメモリのロードに関する情報が表示され、さらに **RAID、iDRAC** が表示されて **CTRL + E** を押すようメッセージが表示されます。ここで即座に **CTRL + E** を押します。  
このダイアログボックスが表示されれば、操作は正しく行われています。表示されない場合、電源メニューから電源オフして、再度電源をオンにしてこのステップを繰り返します。

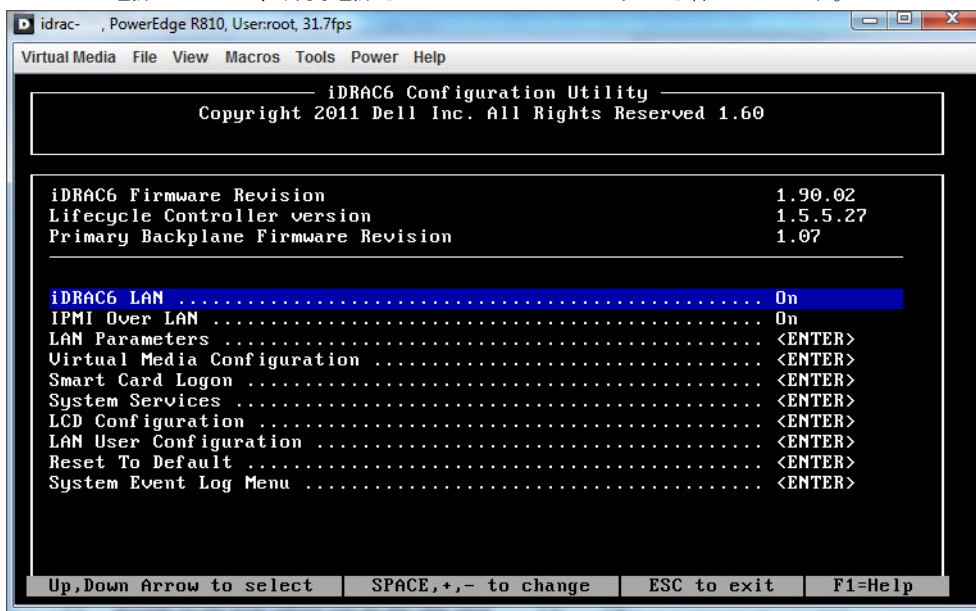


図 3. CTRL + E を押して、この画面をアクティブにします。

11. iDRAC6 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して **LAN パラメータ** を選択します。
12. **Enter** を押します。
13. このホストがブレードの場合、NIC を設定するにはスペースキーを押して **有効** に切り替えます。
14. DHCP を使用している場合、矢印キーを使用して **DHCP からのドメイン名** を選択します。
15. スペースキーでオプションを **オン** に切り替えます。
16. DHCP を使用している場合、矢印キーを使用して IPv4 の設定に移動し、**DHCP からの DNS サーバー** を選択します。


17. スペースキーでオプションを **オン** に切り替えます。
18. 終了するには、キーボードで **ESC** を押します。
19. 矢印キーで **LAN ユーザー設定** を選択します。
20. 矢印キーで **プロビジョニングサーバー** を選択します。
21. **Enter** を押します。
22. ホストの IP アドレスを入力します。
23. **ESC** を押します。
24. 矢印キーで **アカウントアクセス** を選択します。
25. スペースキーでオプションを **無効** に切り替えます。
26. 矢印キーで **自動検出** を選択します。
27. スペースキーでオプションを **有効** に切り替えます。
28. キーボードで **ESC** を押します。
29. 再び **Esc** を押します。

## 第 12 世代 PowerEdge サーバーでの自動検出の手動設定

iDRAC およびホストの IP アドレスが必要です。

お使いのベアメタルアプライアンスの工場出荷時に自動検出を使用するよう注文されていない場合は、これを手動で設定できます。iDRAC には 2 つのユーザーインターフェースがあり、設定する iDRAC の IP アドレスを使用して両方にアクセスすることができます。

ベアメタルサーバーの自動検出が正しく行われると、新しい管理者アカウントが作成されるか、ハンドシェイクサービスによって返された資格情報で既存アカウントが有効になります。自動検出以前に無効にされていた、その他すべての管理者アカウントは、有効になりません。これらのアカウントは、正しく自動検出が行われた後に再度有効にしてください。「[iDRAC 上で管理者アカウントを有効または無効にする](#)」を参照してください。

 **メモ:** 何らかの理由で自動検出が正しく完了しなかった場合、iDRAC にリモートで接続する方法はありません。リモート接続には、iDRAC 上で非管理者アカウントを有効にしている必要があります。iDRAC 上に有効になっているアカウントがない場合、iDRAC に接続する唯一の方法は、ボックスにローカルでログインして iDRAC 上でアカウントを有効にする方法です。

1. ブラウザで、**iDRAC IP アドレス**を入力します。
2. **iDRAC Enterprise GUI** にログインします。
3. **Integrated Dell Remote Access Controller 7— Enterprise** → **システム概要** タブの、仮想コンソールプレビューで、**起動** をクリックします。
4. 警告 — セキュリティ ダイアログで、**はい** をクリックします。
5. iDRAC ユーティリティコンソールで、**F12** を 1~2 回押して、認証が必要です ダイアログボックスを表示します。
6. 認証が必要です ダイアログボックスで、名前が表示されたら **Enter** を押します。
7. **パスワード** を入力します。
8. **Enter** を押します。
9. シャットダウン / 再起動 ダイアログボックスが表示されたら、**F11** を押します。
10. ホストが再開し、画面にメモリのロードに関する情報が表示され、さらに **RAID**、**Dell** 画面が表示されて **F2** を押すようメッセージが表示されたら、即座に **F2** を押します。  
Dell セットアップユーティリティ画面が表示されるのを待ちます。Dell セットアップユーティリティ画面が表示されるまで、数分かかります。
11. Dell セットアップユーティリティ画面で、矢印キーを使用して **iDRAC 設定** を選択します。
12. 矢印キーで **リモートで有効にする** を選択します。

13. 自動検出を有効にするには、**有効にする** をクリックします。
14. **ESC** を押します。
15. **ESC** を押します。
16. 警告画面で終了を確定して、**はい** をクリックします。